

平成26年度

上越市男女共同参画に関する
市民意識調査 報告書

平成26年6月

上越市自治・市民環境部 共生まちづくり課
男女共同参画推進センター

はじめに

市では、平成 13 年に男女共同参画都市宣言を行い、平成 14 年には上越市男女共同参画基本条例を制定すると同時に「男女共同参画基本計画」を策定し、計画に基づいた取組を進めてきました。

平成 23 年度からは「上越市第 2 次男女共同参画基本計画」として、平成 30 年度までの 8 年間で計画期間とし、(前期：平成 23～26 年度、後期：平成 27～30 年度)「男女が、互いの人権を尊重し、社会のあらゆる分野で平等に参画できるまち」を目指し、男女共同参画社会の実現に向けて、各種施策を展開してまいりました。

本報告書は、当市における男女共同参画に関する市民意識の実態を把握し、平成 27 年度からの後期計画における取組の方向性に反映させるなど、計画改訂の基礎資料とするため、本年 5 月に実施した市民意識調査結果をまとめたものです。

調査は、満 20 歳以上の市民 4,000 人を対象として郵送による配布回収を行い、1,468 人の方から回答を得ました。(回答率 36.7%)

調査の結果、男女の地位の平等感は、平成 22 年度の 31.3%と比べ、今回は 29.2%と低下しており、性別による固定的な役割分担の解消に向けて、さらなる普及・啓発活動が必要であることが分かりました。

また、今後、「男女共同参画社会」を実現するために行政が力を入れるべきことは何か、との問いでは、平成 22 年度の調査と同様に、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」などの回答が多くを占めました。このことから、男女共同参画への広報・啓発活動や、仕事と子育て・介護等を両立できるような環境整備などの充実が求められていると考えられます。

この調査結果を十分に踏まえ、今後も男女共同参画社会の促進に向けた取組をより一層推進していくため、市民の皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

平成 26 年 6 月

上越市自治・市民環境部 共生まちづくり課
男女共同参画推進センター

目次

1	調査概要	1
	(1) 調査の目的	1
	(2) 調査設計と回収状況	1
	(3) 回答者のプロフィール	1
2	調査結果	5
	(1) 分野別の男女の平等感	5
	(2) 結婚・家庭等の意識	7
	(3) 役割分担	9
	(4) 既婚家庭での家事分担	11
	(5) 女性の人権の尊重	13
	(6) 夫婦間の暴力	15
	(7) 生活の中での優先度	19
	(8) ワーク・ライフ・バランスについて	20
	(9) 男性が家事等に参加するために必要なこと	24
	(10) 女性の進出を望む職業や役職	26
	(11) 地域リーダーに女性が少ない理由	28
	(12) 職業観	30
	(13) 男性が育児休暇を取得しづらい理由	31
	(14) 就業状況	33
	(15) 職場における男女平等	35
	(16) 就労の継続	37
	(17) 家庭での役割の評価	39
	(18) 防災・災害復興対策で性別の配慮が必要なこと	41
	(19) メディアにおける性・暴力表現	43
	(20) 女性に関する相談機関の認知度	48
	(21) 男女共同参画に関することば及び国・県・市の取組の認知度	50
	(22) 行政の今後の取組	53
	(23) その他、自由記入など	56
	付録	66
	1 男女の地位の平等感	66
	2 アンケート調査表	67

本報告書を読む際の注意事項

- ・調査結果の数値は、原則として回答率（単位：％）で表記しています。％の母数は、その質問に該当する回答者の数であり、その該当者の数はn=で表記しています。
- ・性別、年代別等の分析結果においては、その総数は全体の総数と一致しない場合があります。これは、性別、年代等が無回答の場合、総数にのみカウントされるためです。
- ・％値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しています。従って、比率の合計は必ずしも100％でない場合（99.9％、または100.1％など）があります。

1 調査概要

(1) 調査の目的

- ・市民の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、平成27年度からの上越市第2次男女共同後期計画改訂の基礎資料とする。
- ・男女共同参画社会の実現に向け、調査結果を今後の市の施策に反映させ、一層の充実を図る。

(2) 調査設計と回収状況

①調査対象

上越市在住の満20歳以上の男女

②発送数

4,000

③抽出方法

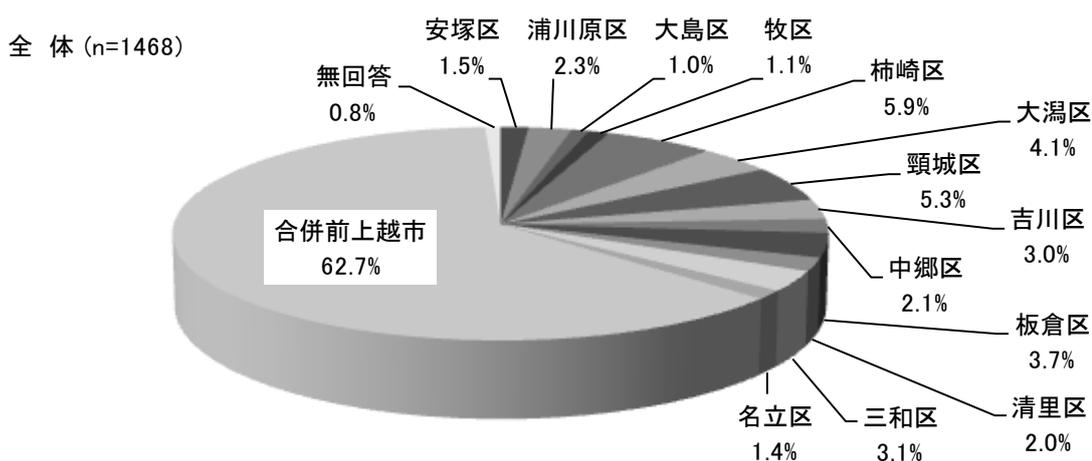
住民基本台帳に基づく無作為抽出

④回収状況

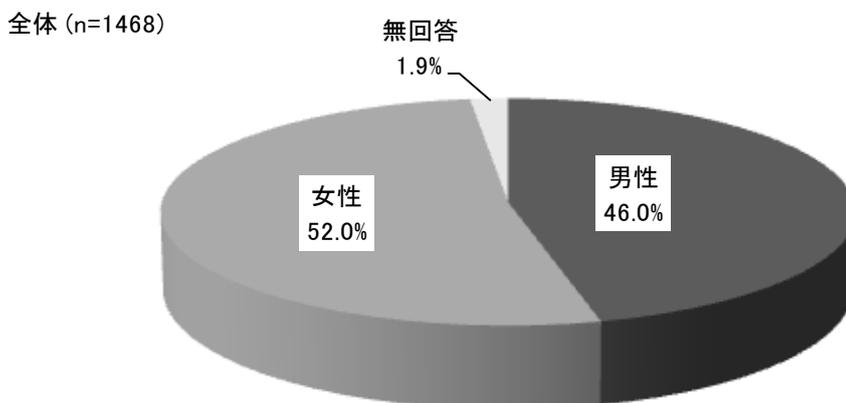
1,468 (回収率 36.7%)

(3) 回答者のプロフィール

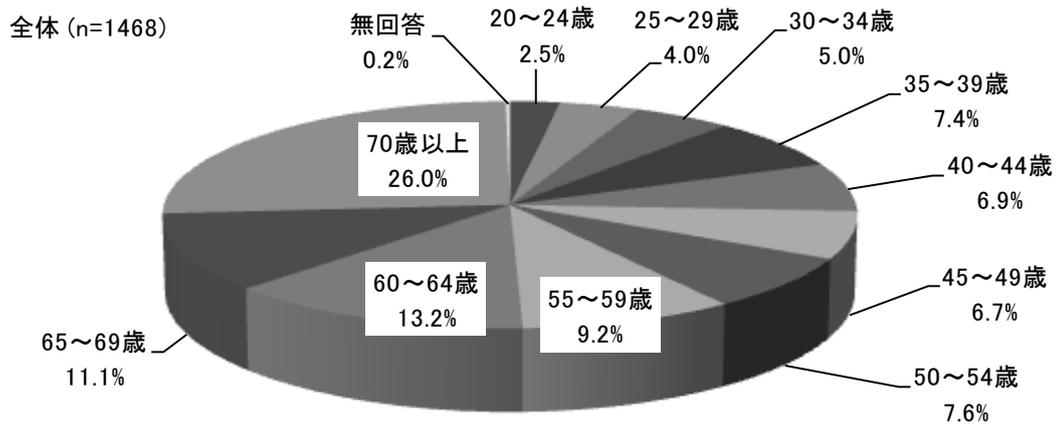
①居住地別



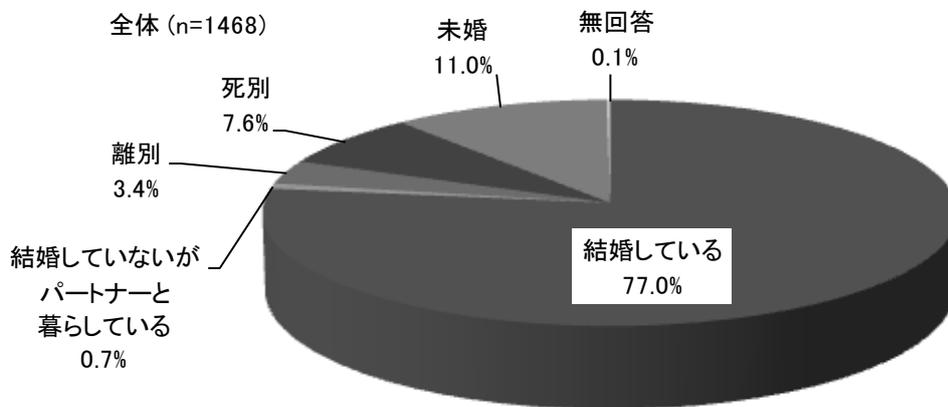
②性別



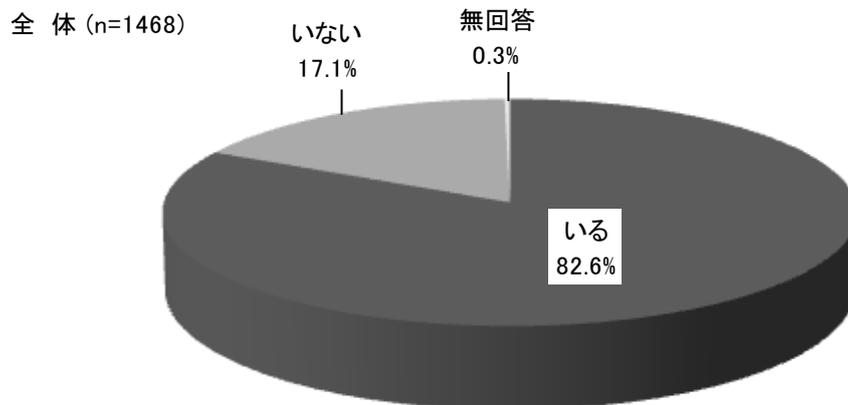
③年齢



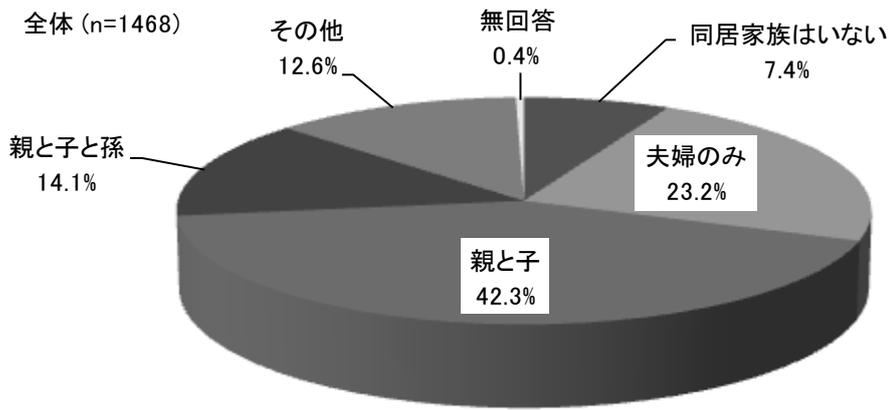
④未既婚



⑤子どもの有無

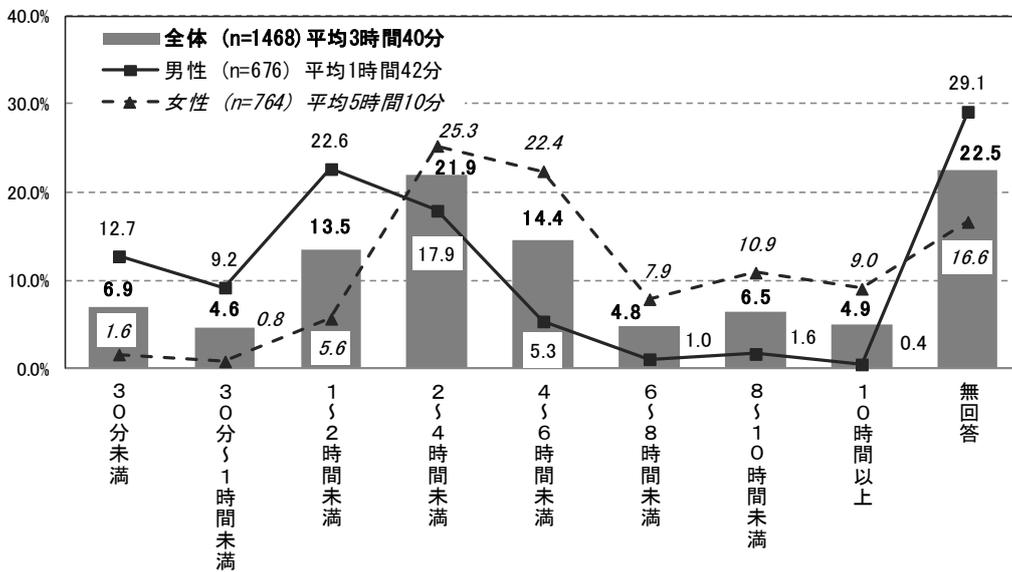


⑥家族構成

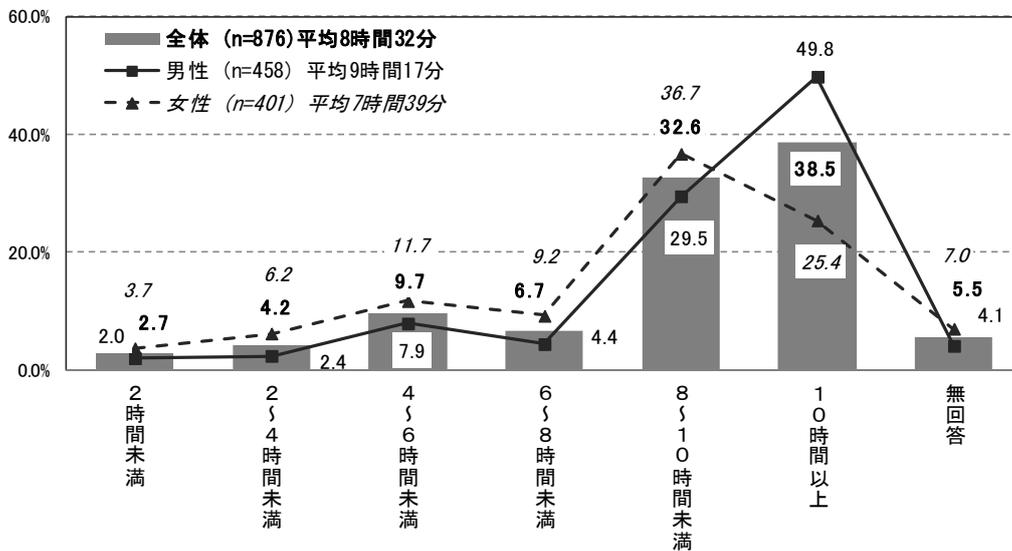


⑦生活時間

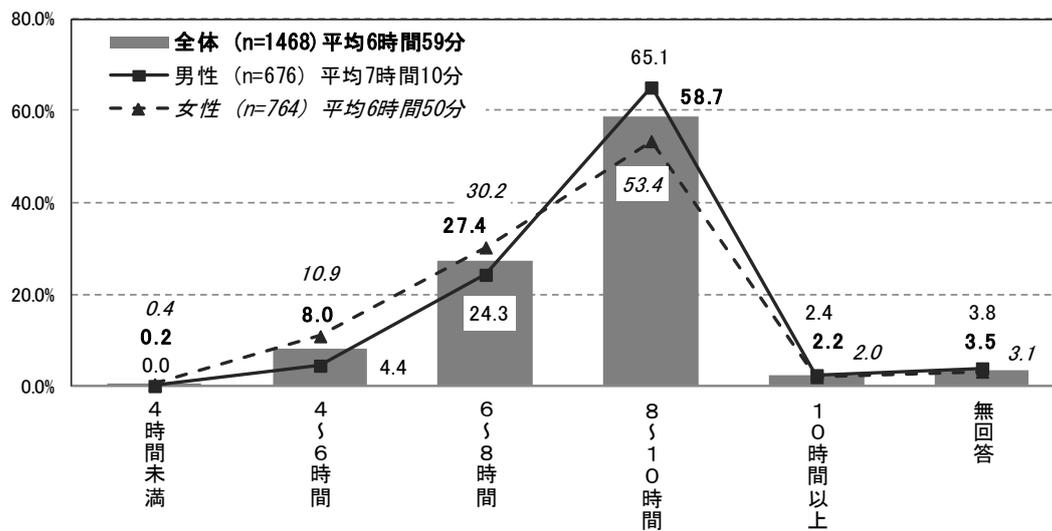
ア 家事・育児・介護などの時間



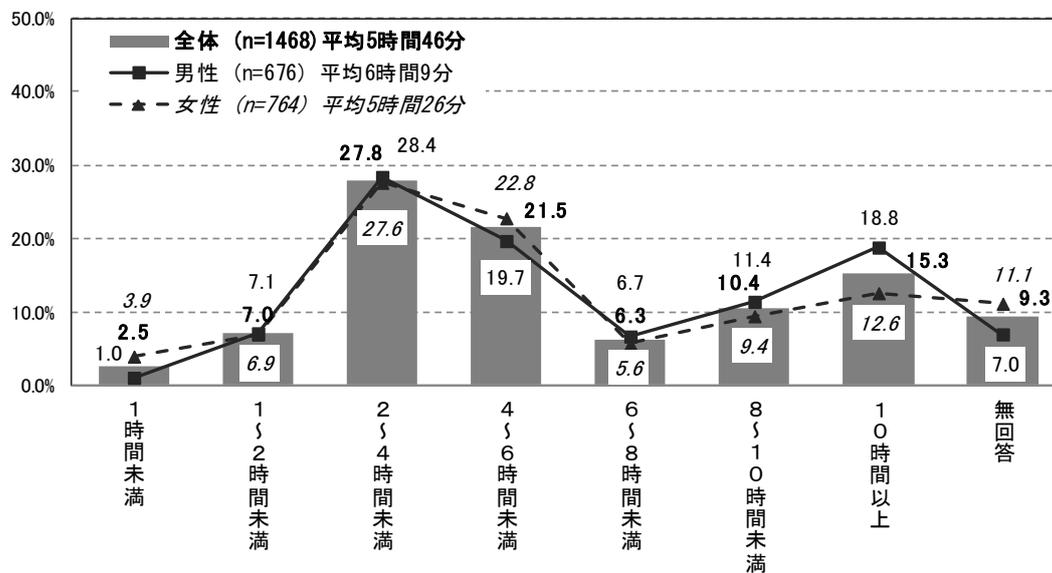
イ 収入を得る仕事の時間（通勤時間含む） ※ 該当者のみ



ウ 睡眠時間



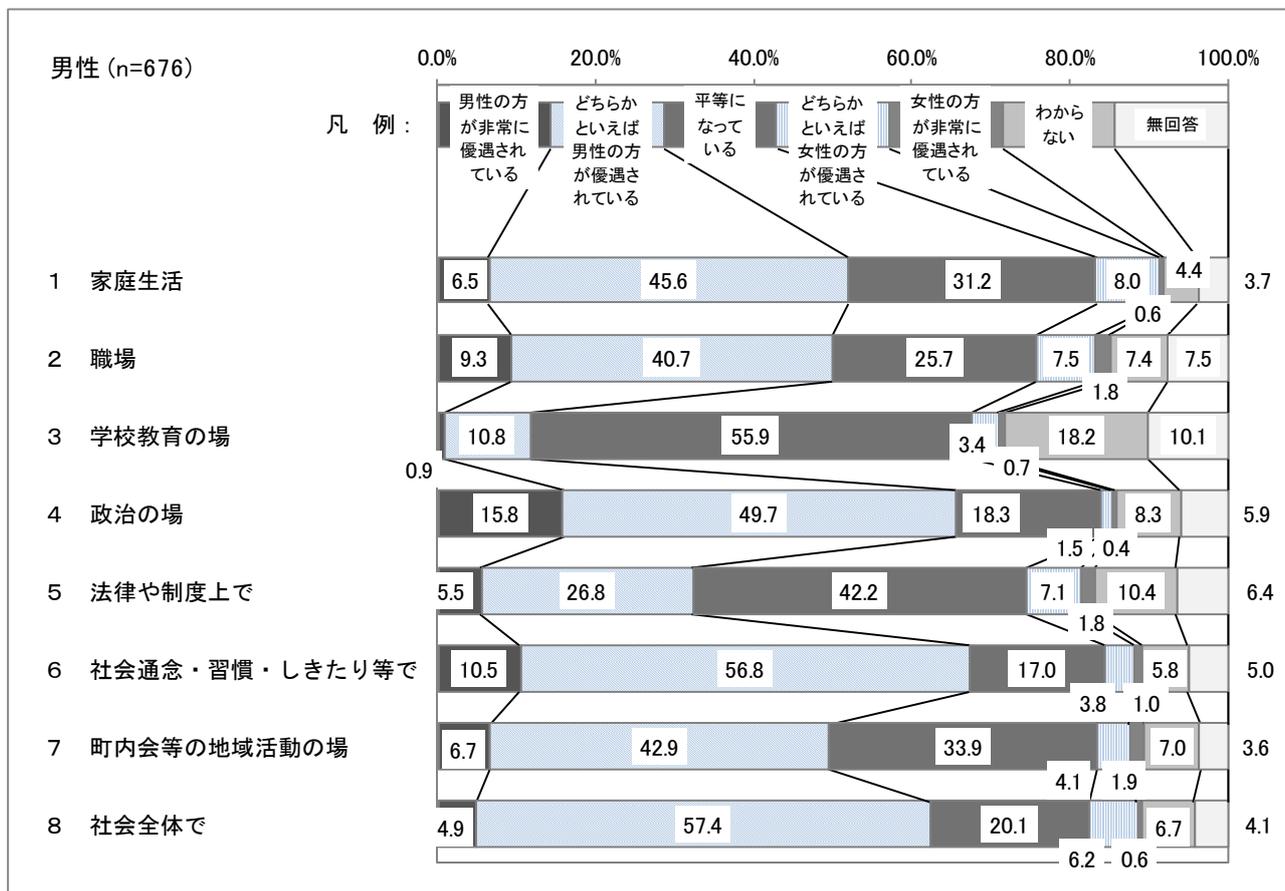
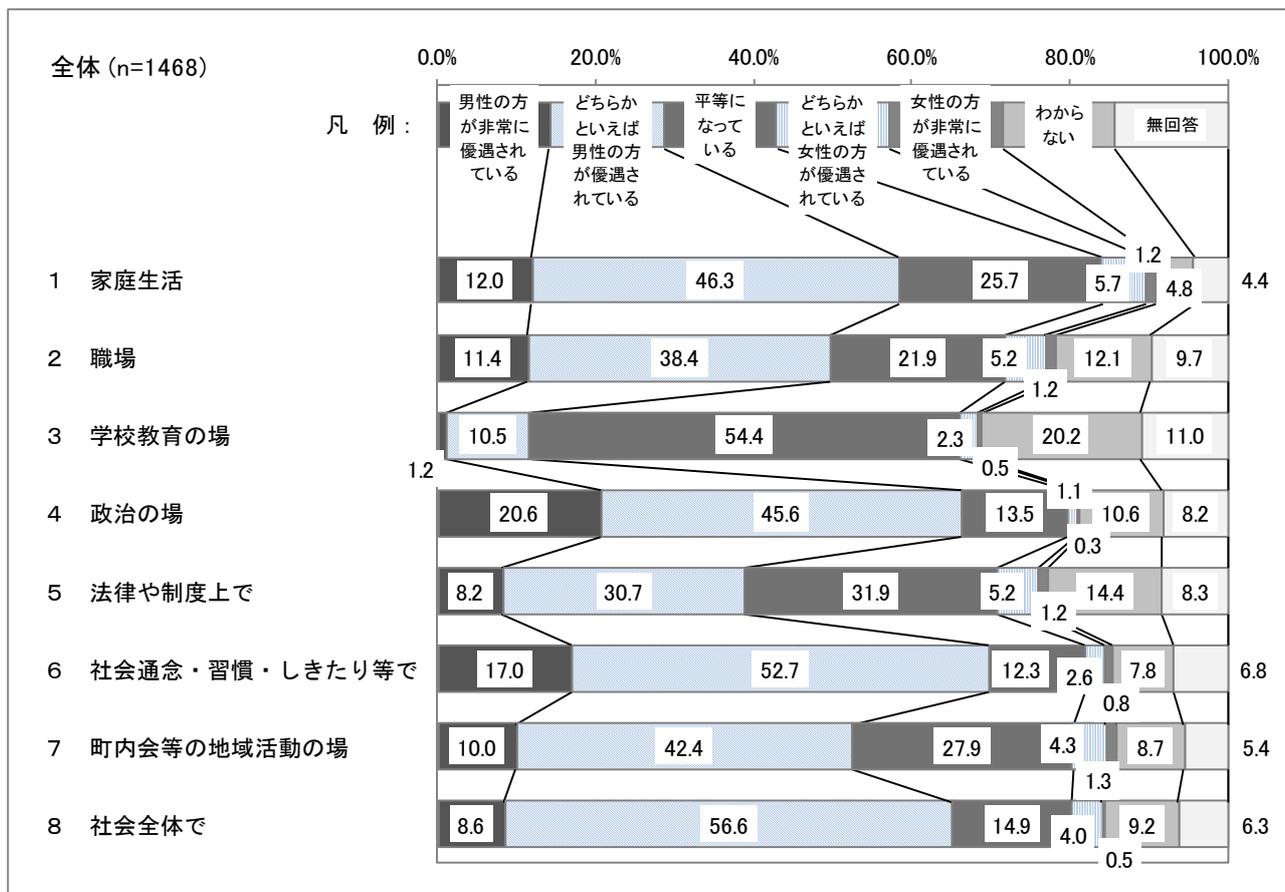
エ 自由に使える時間

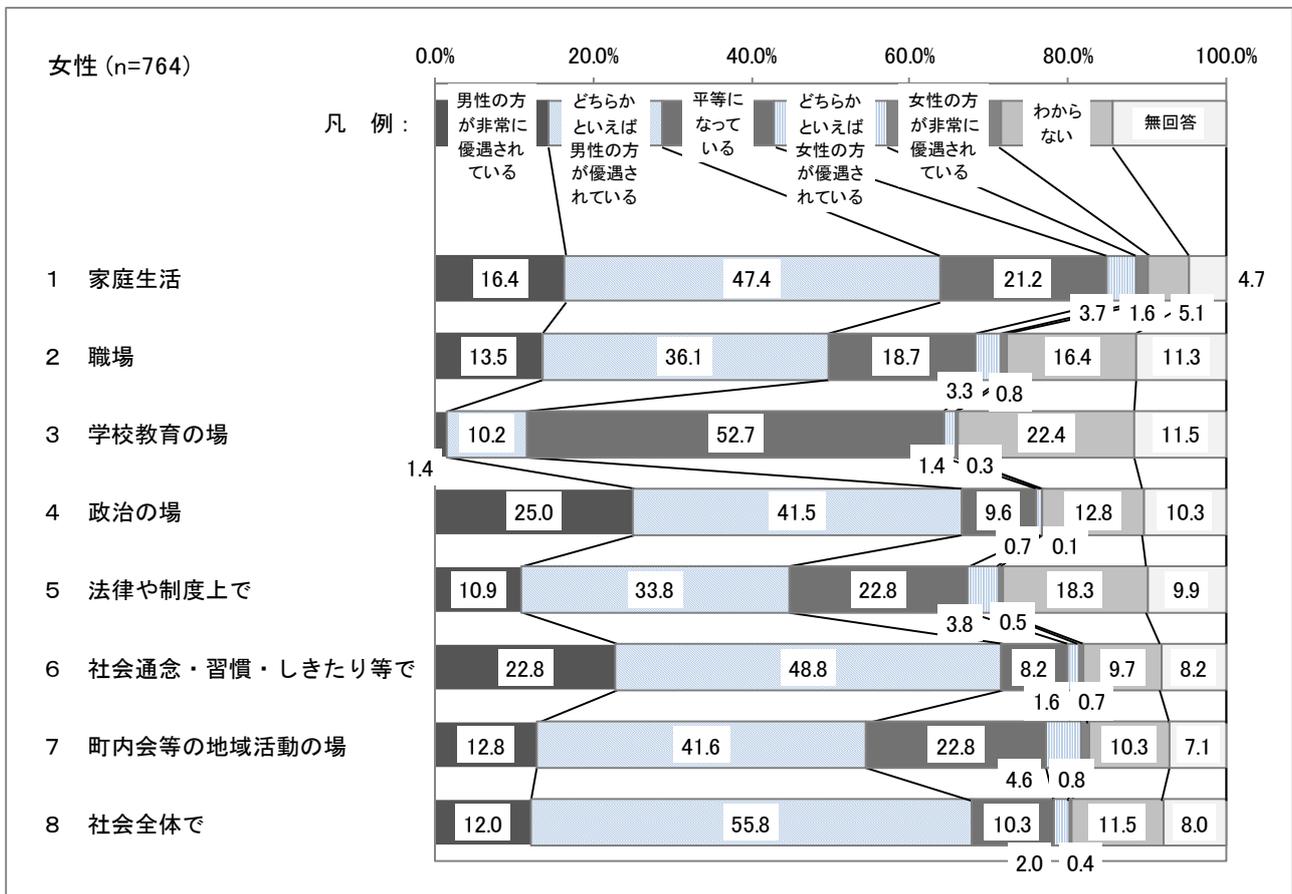


2 調査結果

(1) 分野別の男女の平等感

【設問】あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。1～8のそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。

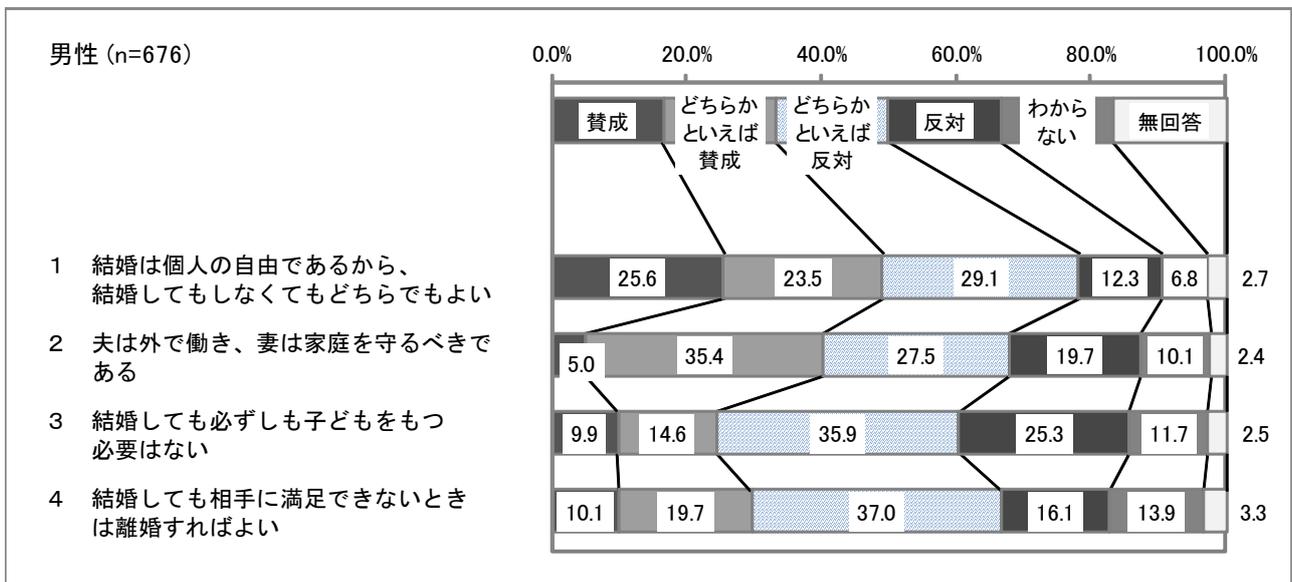
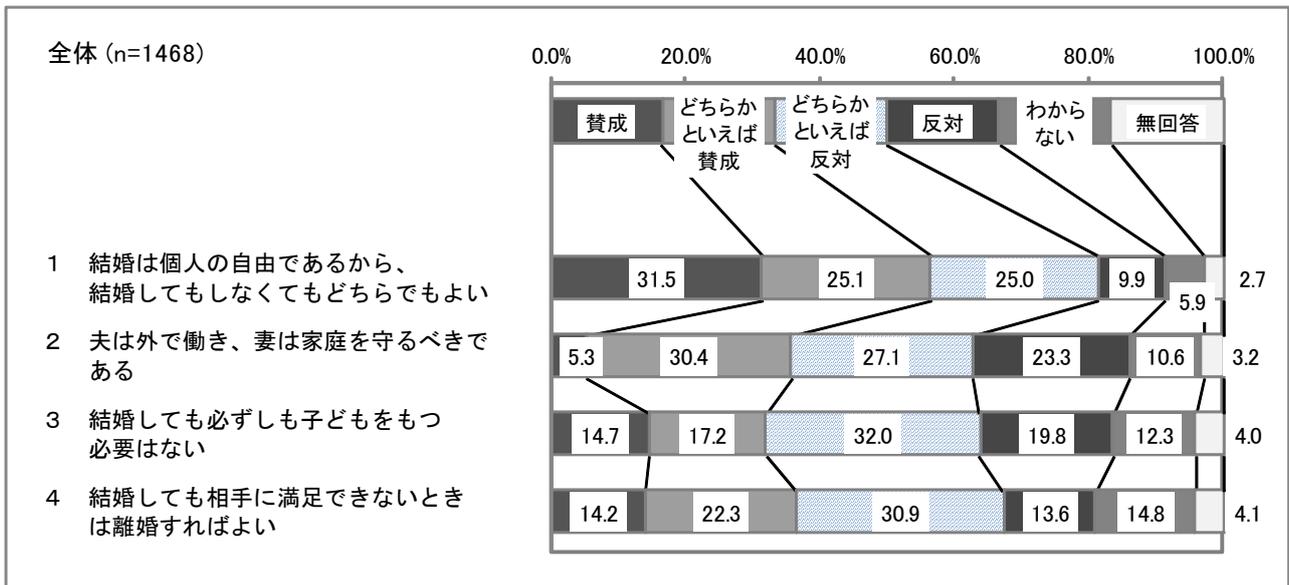


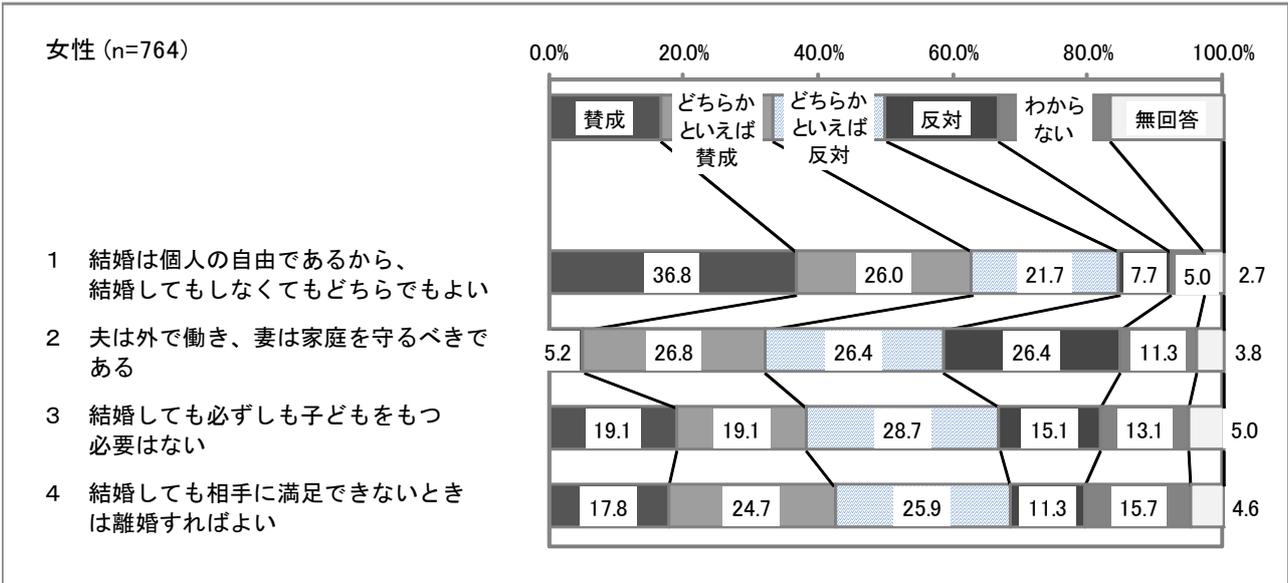


「学校教育の場」での平等感は 54.4%と全分野の中でも最も多いが、他の分野では 10%～30% 代であり、特に「社会通念・習慣・しきたり等」の分野が低くなっている。また、平等感を持つ人の割合は、全ての項目において、女性より男性の方が多い。

(2) 結婚・家庭等の意識

【設問】結婚、家庭等について、あなたのご意見をお聞きます。1～4までのそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。





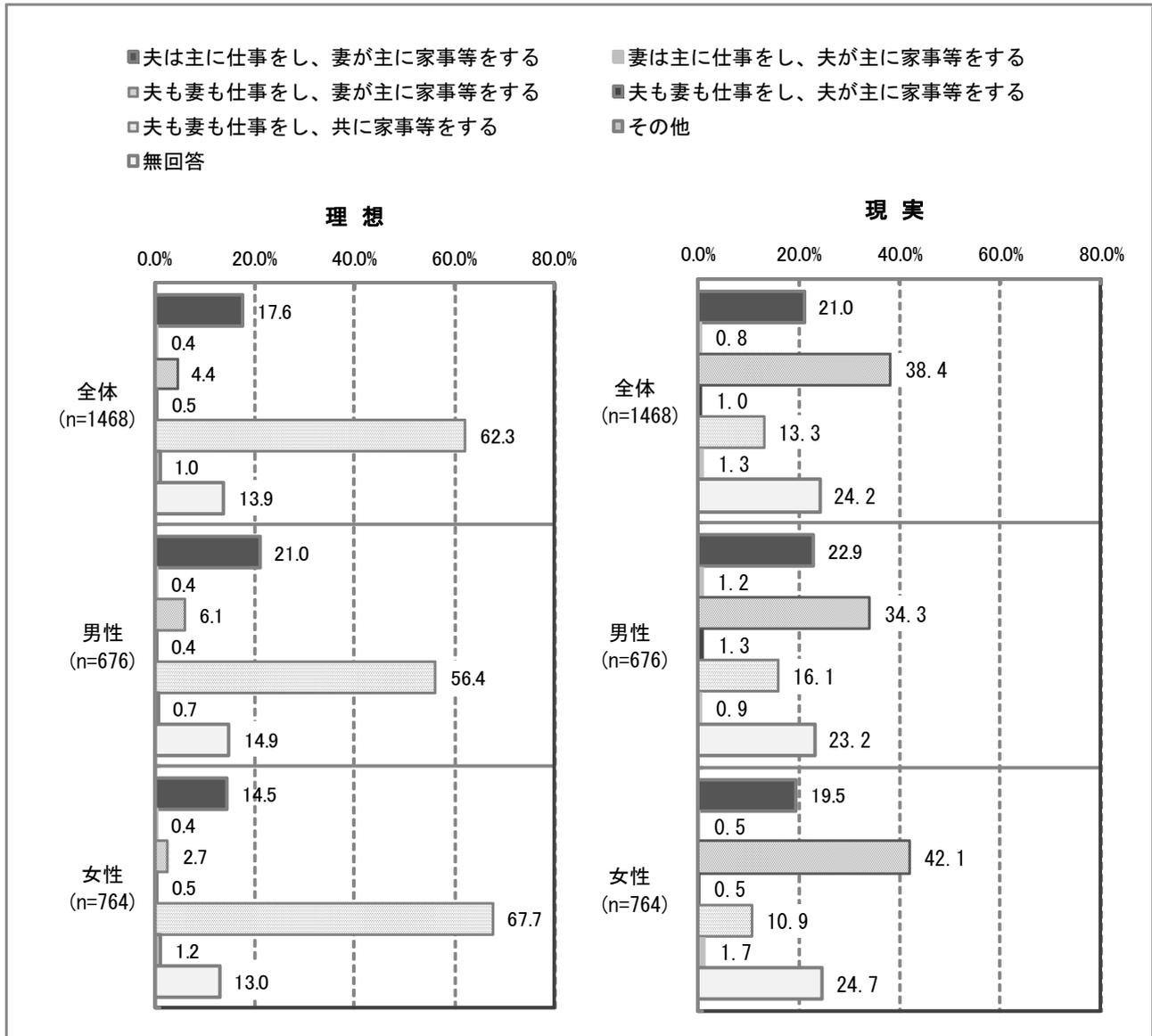
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という意識は、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」が35.7%、「反対」及び「どちらかといえば反対」は50.4%と反対が賛成を上回っている。

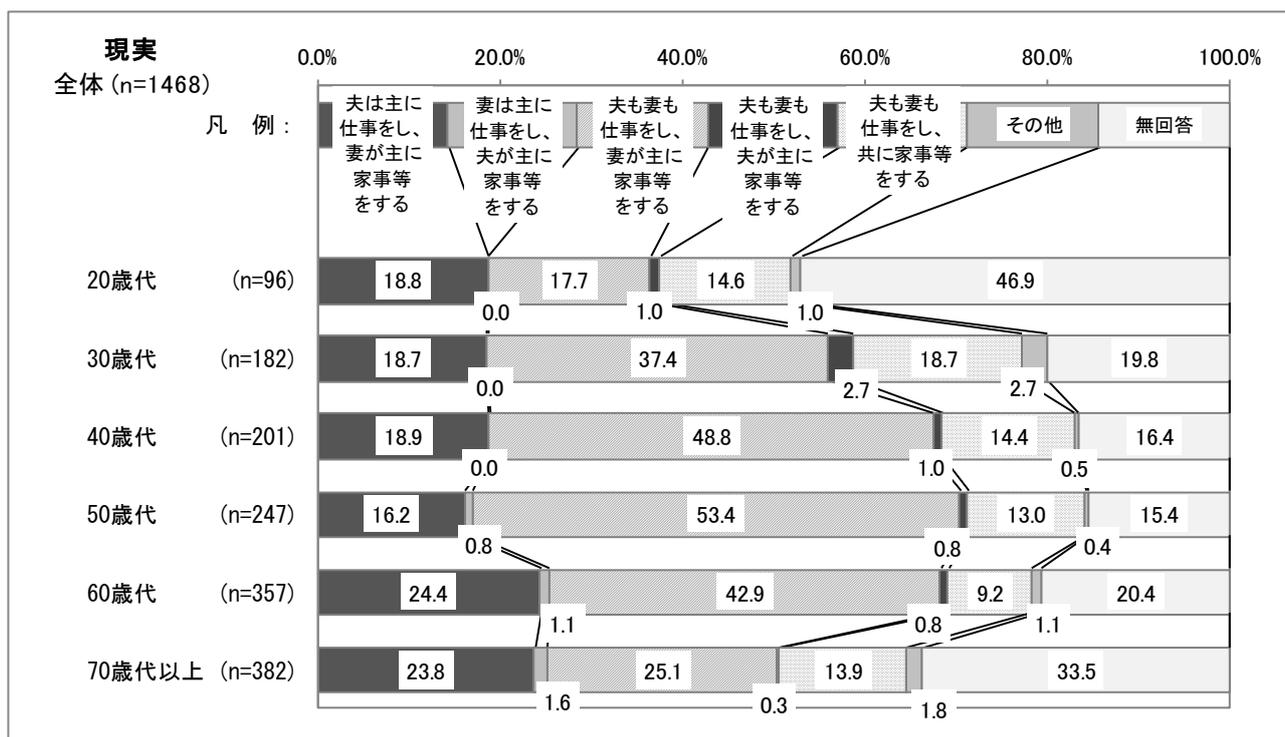
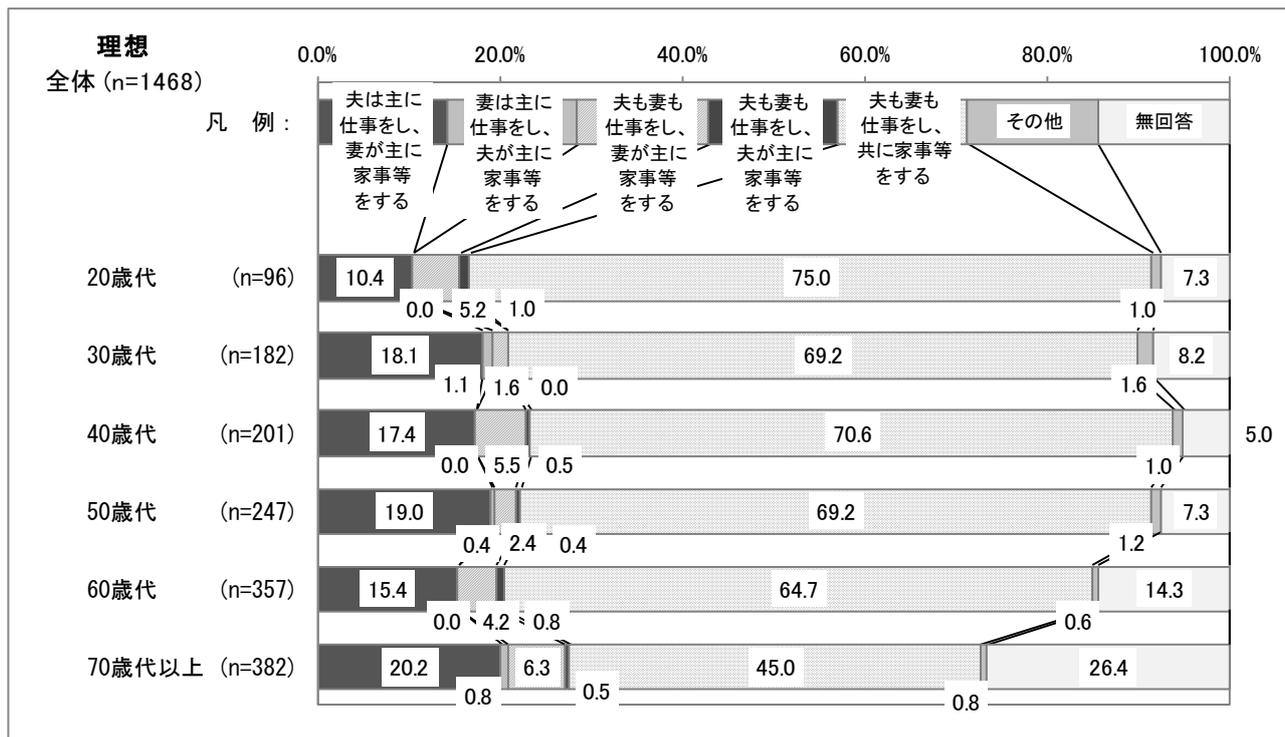
ただし、男性の「賛成」及び「どちらかといえば賛成」の割合が、女性よりも高く、男性の方が、性別により役割分担を固定する意識を持つ人が多い傾向にある。

(3) 役割分担

【設問】 家庭での夫婦の役割分担について、1～6のうちあなたが望ましい姿だと考えるものを一つ選び「理想」欄に○をつけてください。また、あなたが実際に経験した状況に最も近いものを一つ選び「現実」欄に○をつけてください。（現実欄は結婚（事実婚を含む）している方のみお答えください。）

[全年代]





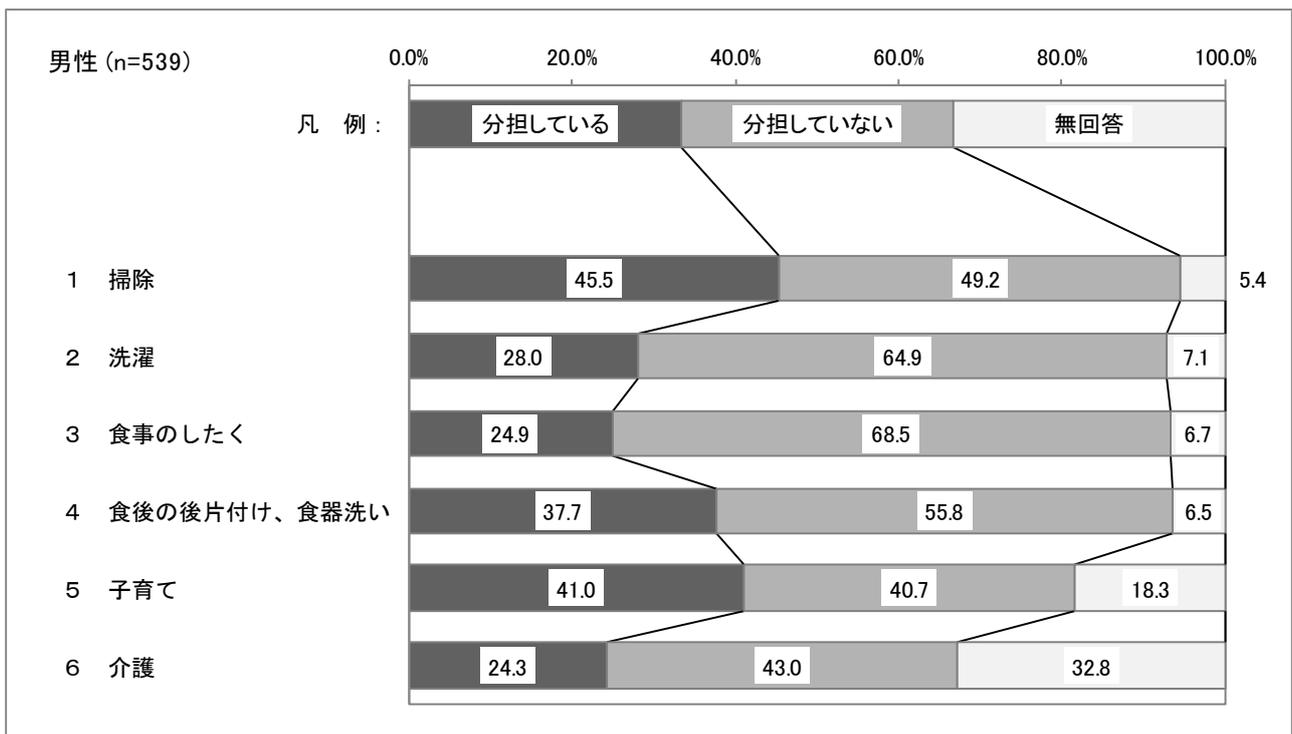
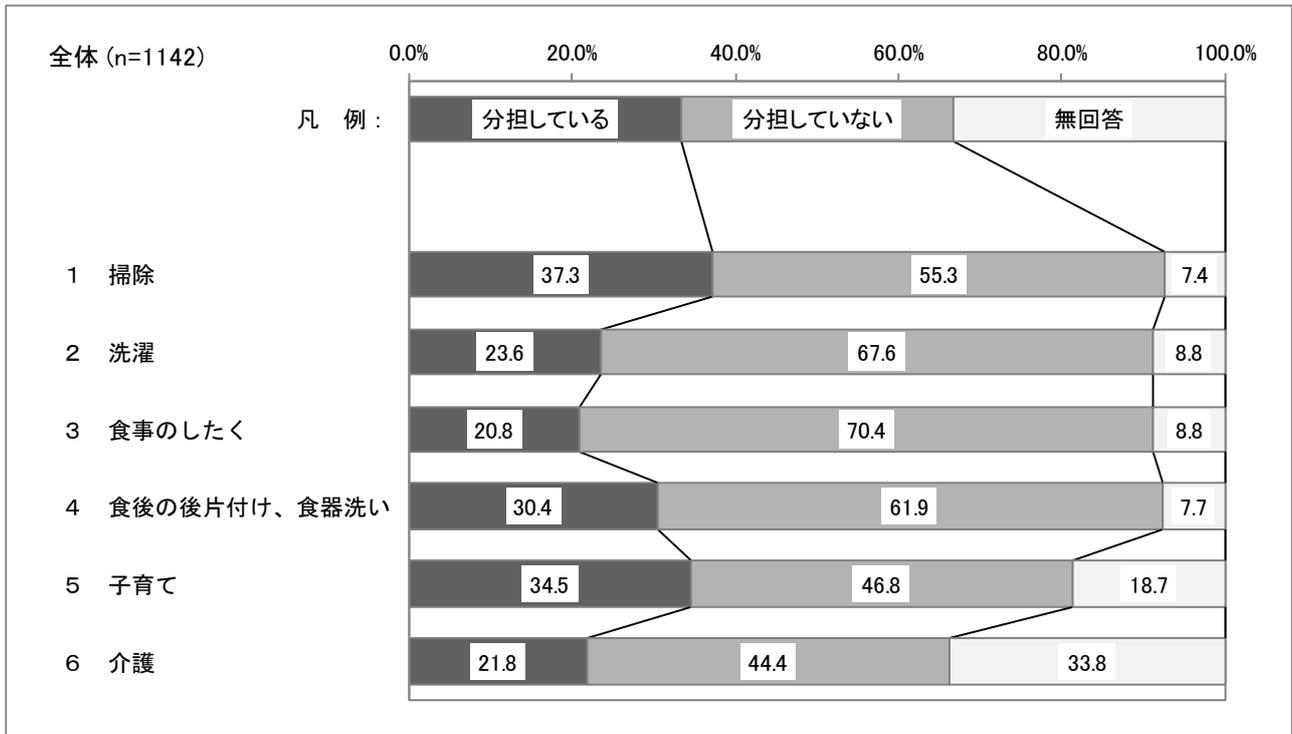
理想では、「夫も妻も仕事をし、共に家事等をする」が他の回答と比べ高い率となっているが、現実では「夫も妻も仕事をし、妻が主に家事等をする」が20代を除き最も多くなっており、実際は妻の負担が大きいと考えられる。

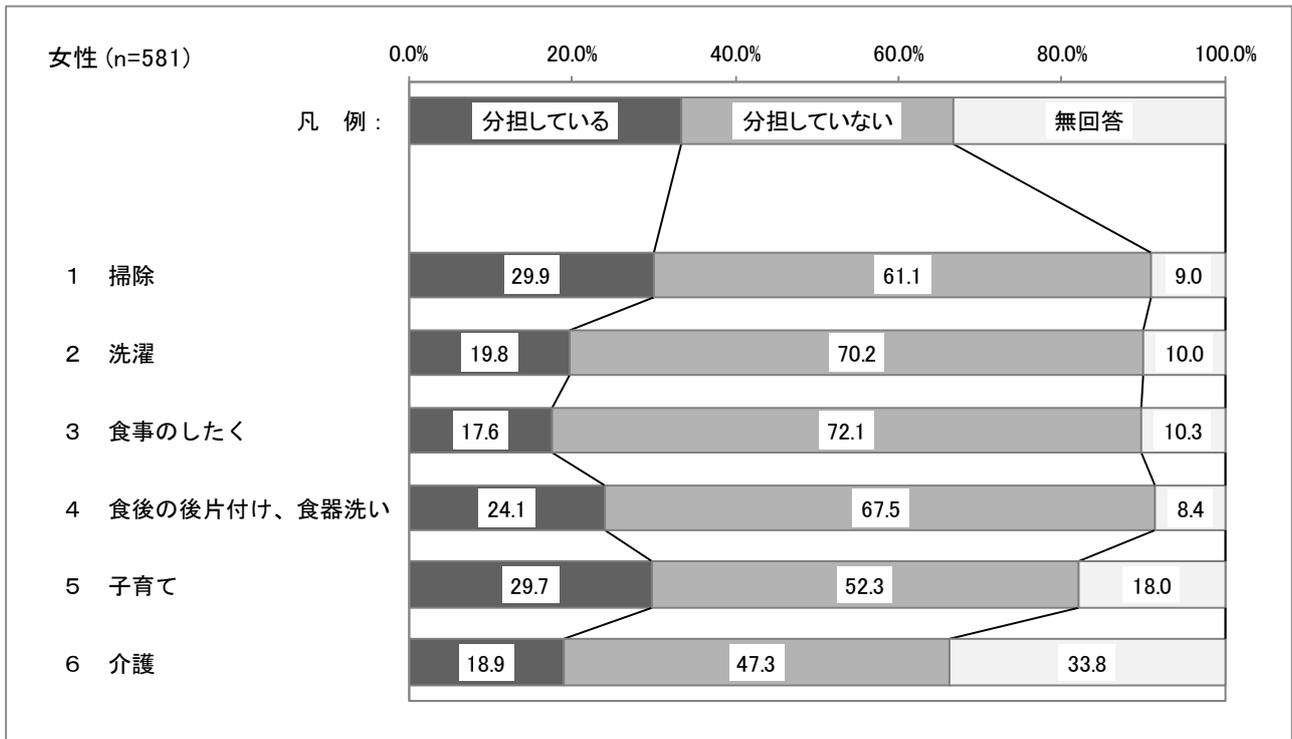
なお、20代の理想では、「夫も妻も仕事をし、共に家事等をする」が年代別で最も高い率となっており、若年層では性別による役割分担解消意識が高まっていることが考えられる。

(4) 既婚家庭での家事分担

【設問】 結婚（事実婚を含む）している方にお聞きします。あなたのご家庭では次のような家事を男性は分担していますか。1～6までのそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。

[子育て・介護については「該当なし」を除く]

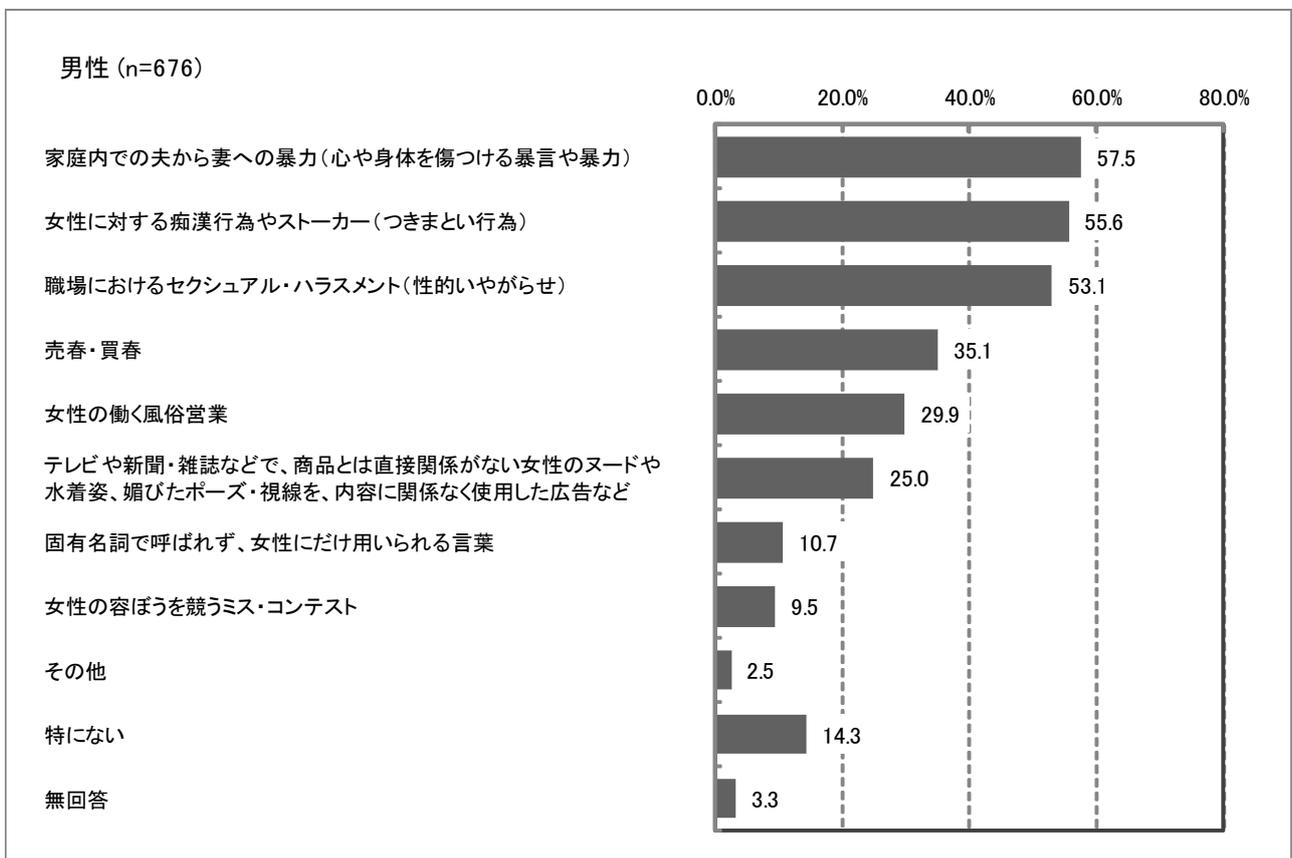
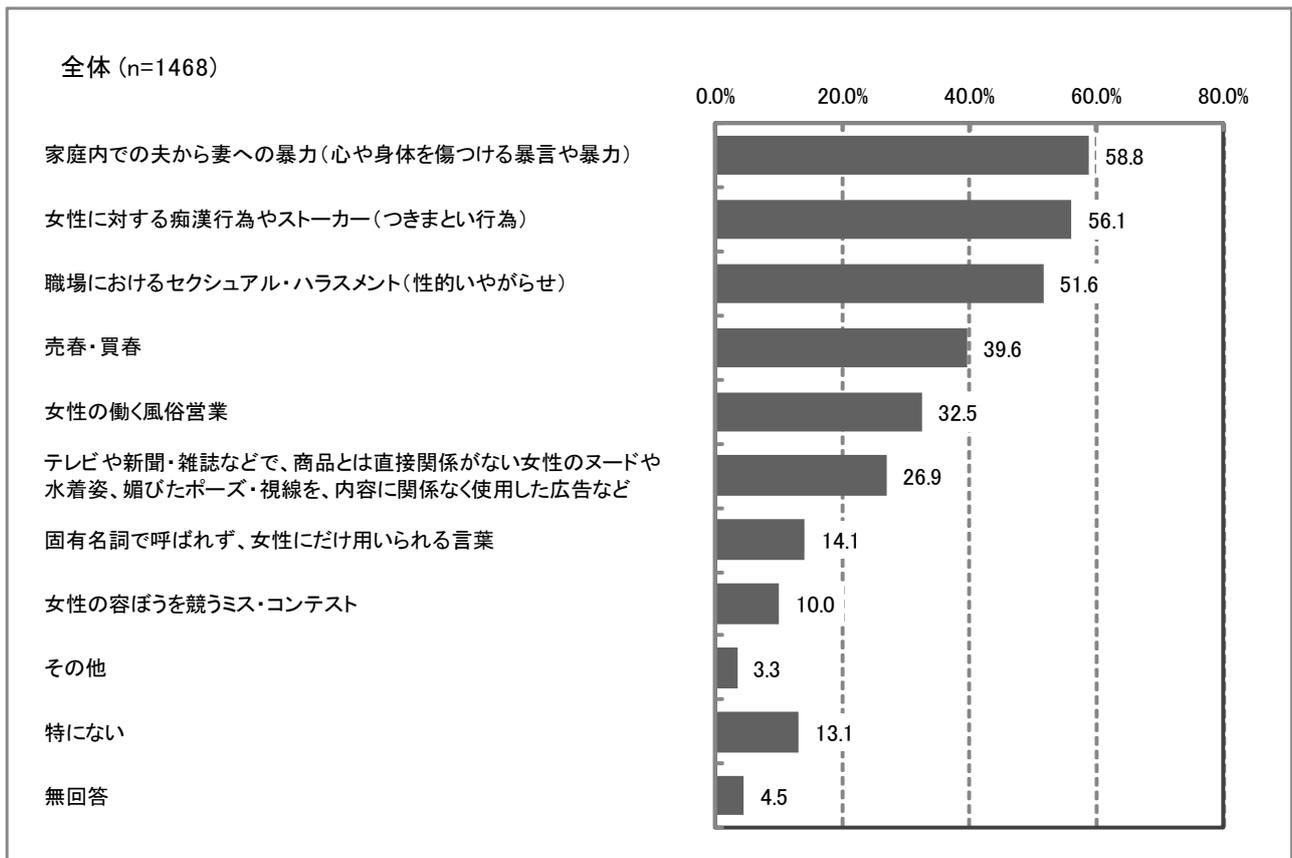




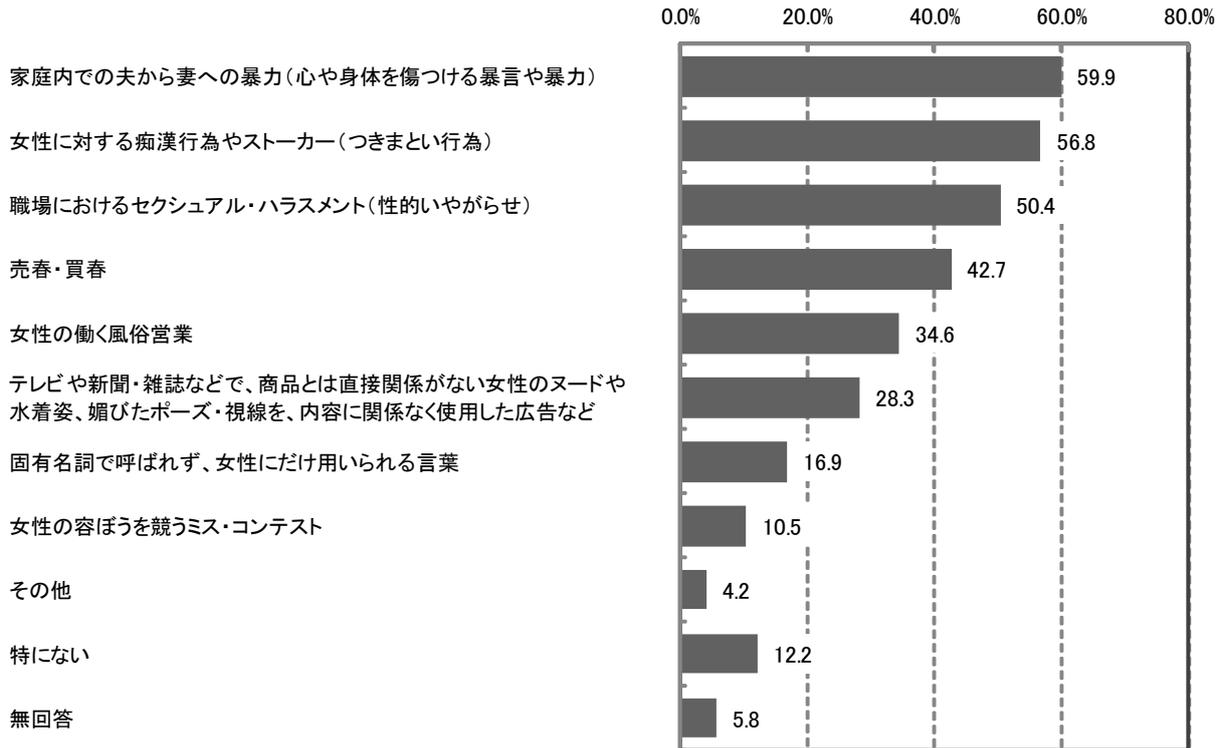
前回調査に比べ男性が家事を分担している割合は増加しているが、分担していない割合も増加しており、家庭内における家事分担が進んでいる状況とは言えない。

(5) 女性の人権の尊重

【設問】あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてでしょうか。あてはまるもの全てに○をつけてください。



女性 (n=764)

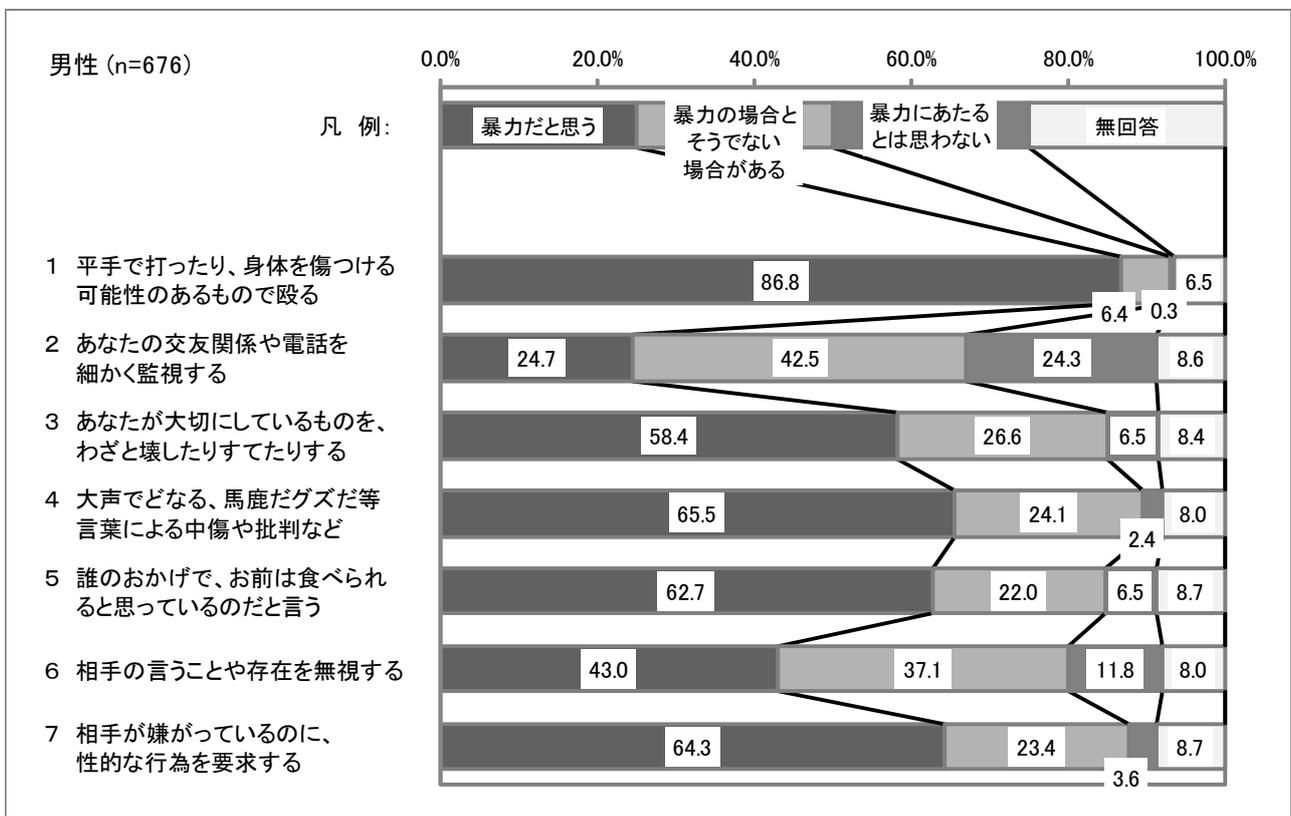
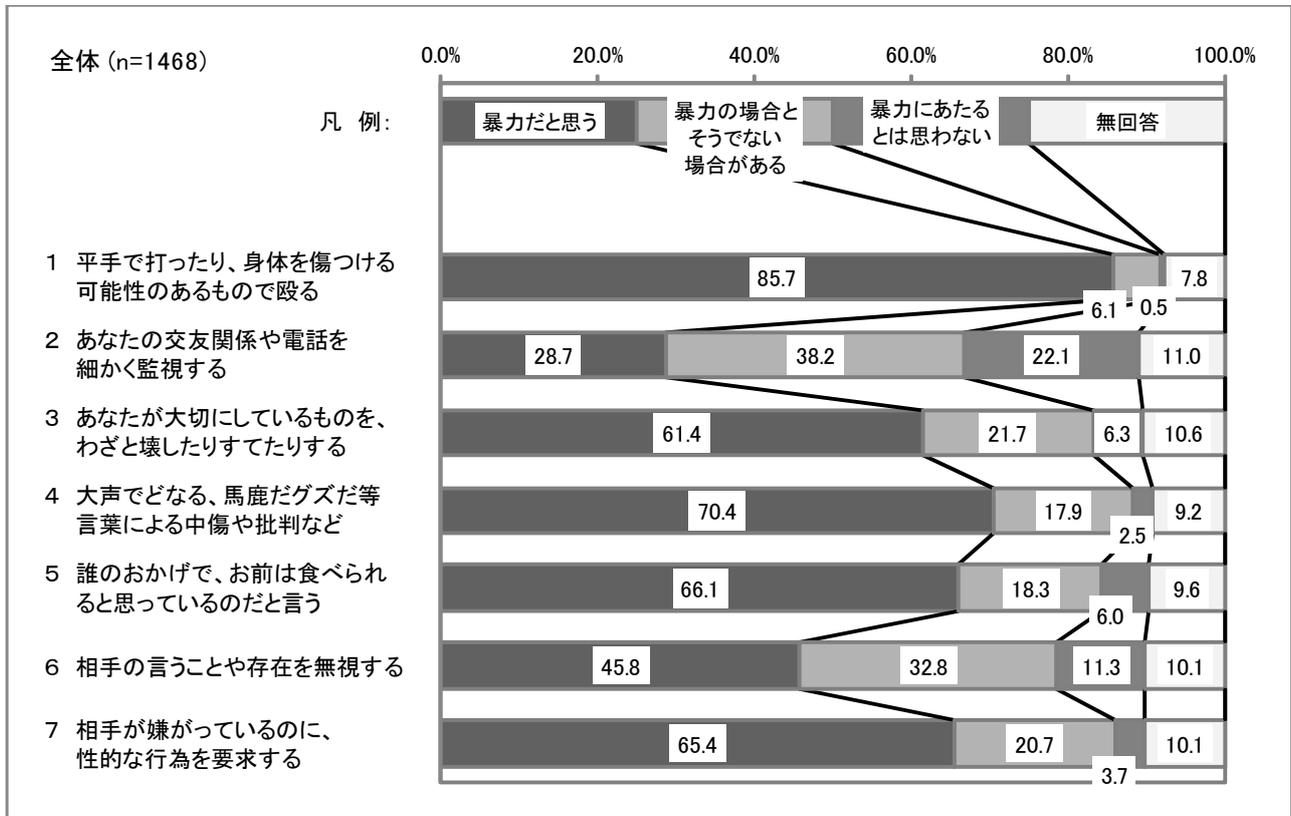


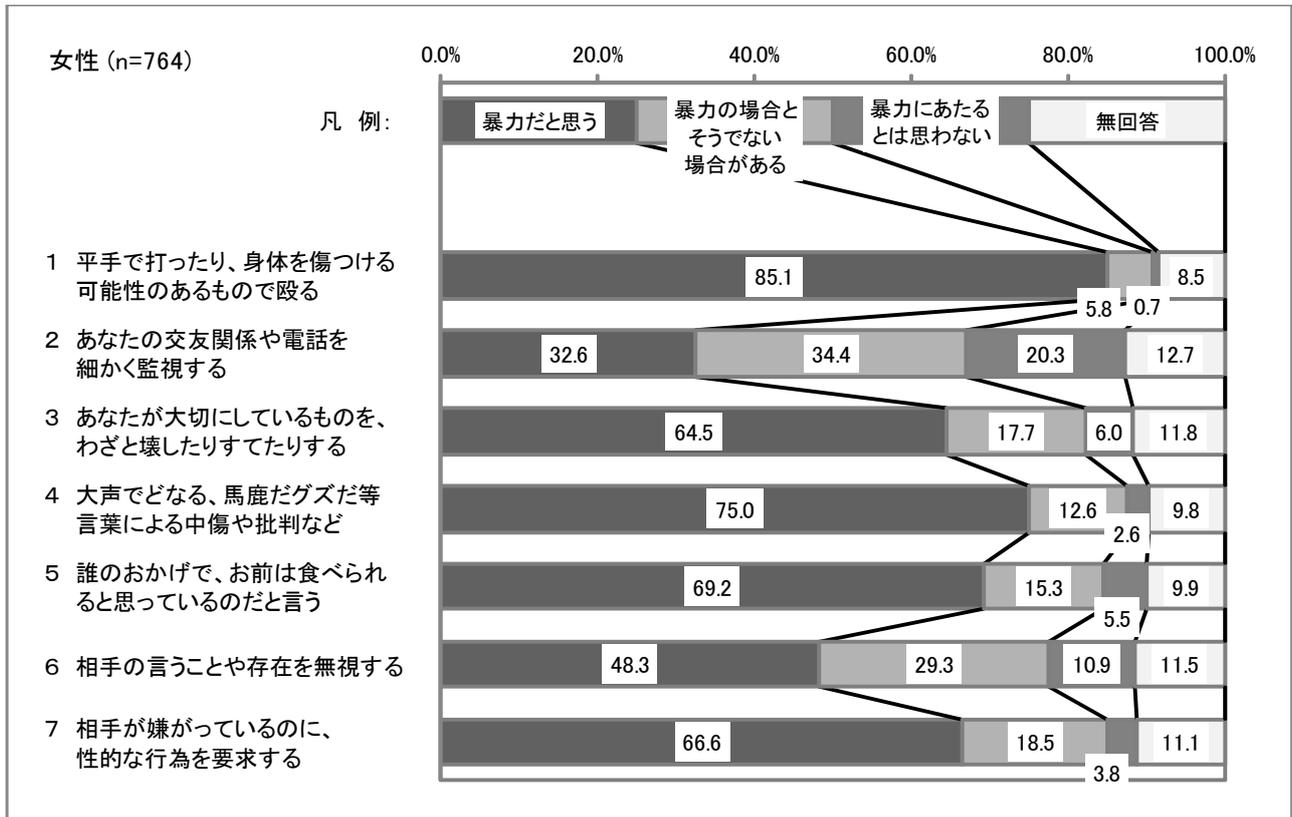
DV等の件数が急激に増している訳でない中、前回調査に比べ全体的に上昇傾向が見られることは、女性の人権に対する市民意識自体が高まっていると考えられる。

家庭内での夫や妻への暴力(DV)や、ストーカー行為、セクシュアル・ハラスメント、売・買春など、法律で規制されている項目については、女性の人権侵害に当たるものと判断している傾向が特に強くなっている。

(6) 夫婦間の暴力

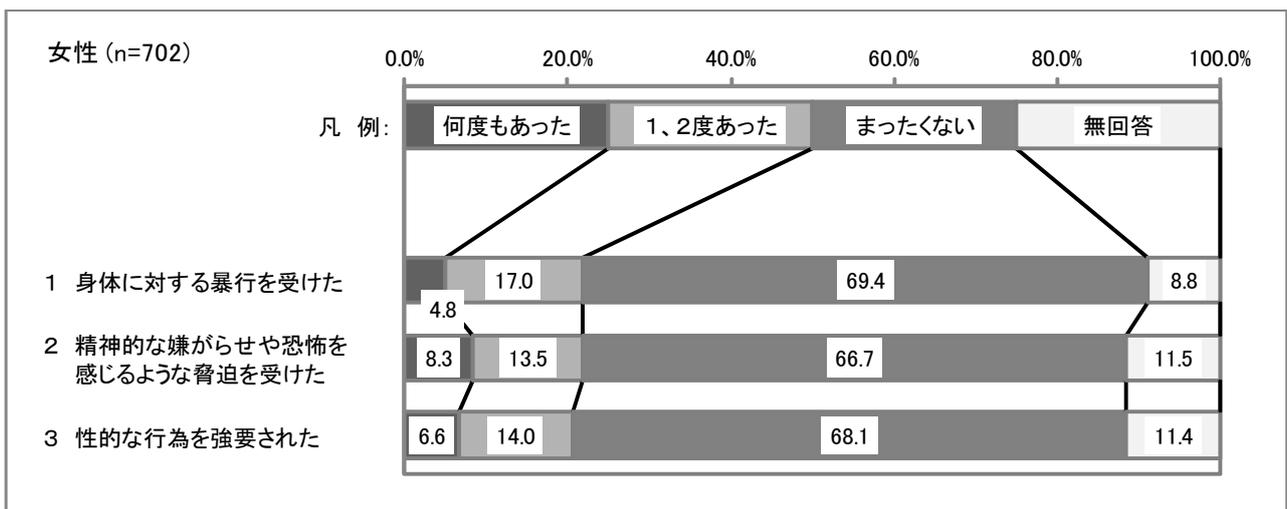
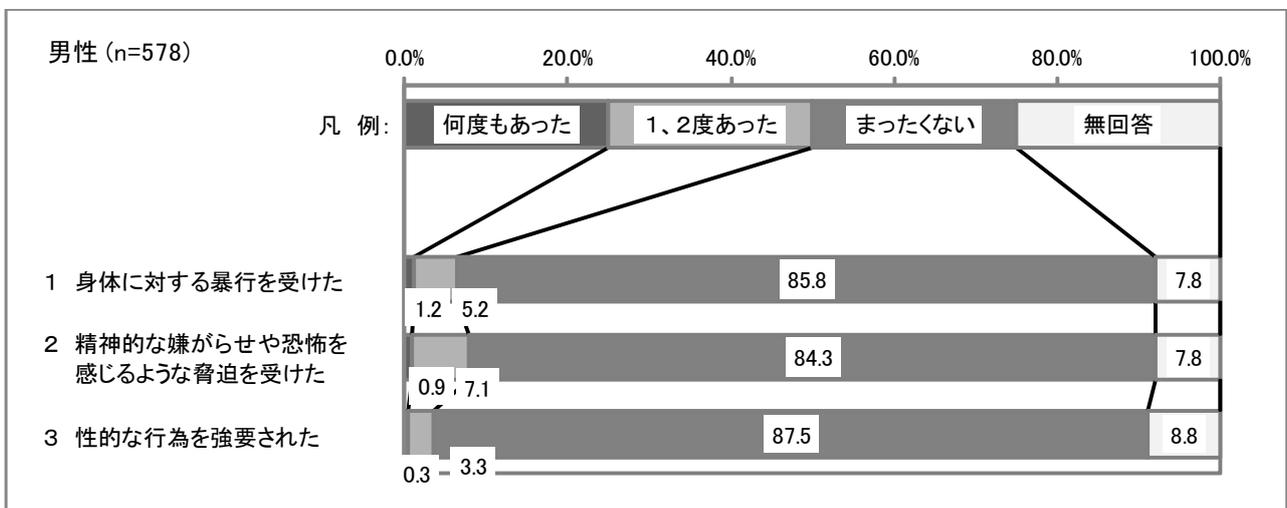
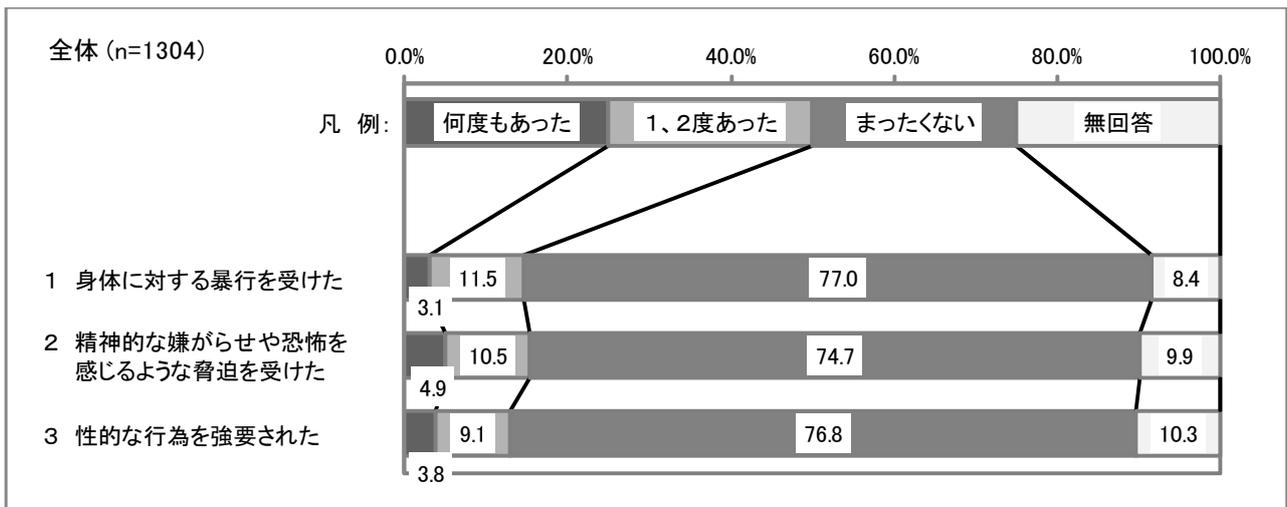
【設問】あなたは、次のようなことが夫婦間（事実婚を含む）で行われた場合、それを暴力だと思えますか。あなたの考えに一番近いものを1～7のそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。



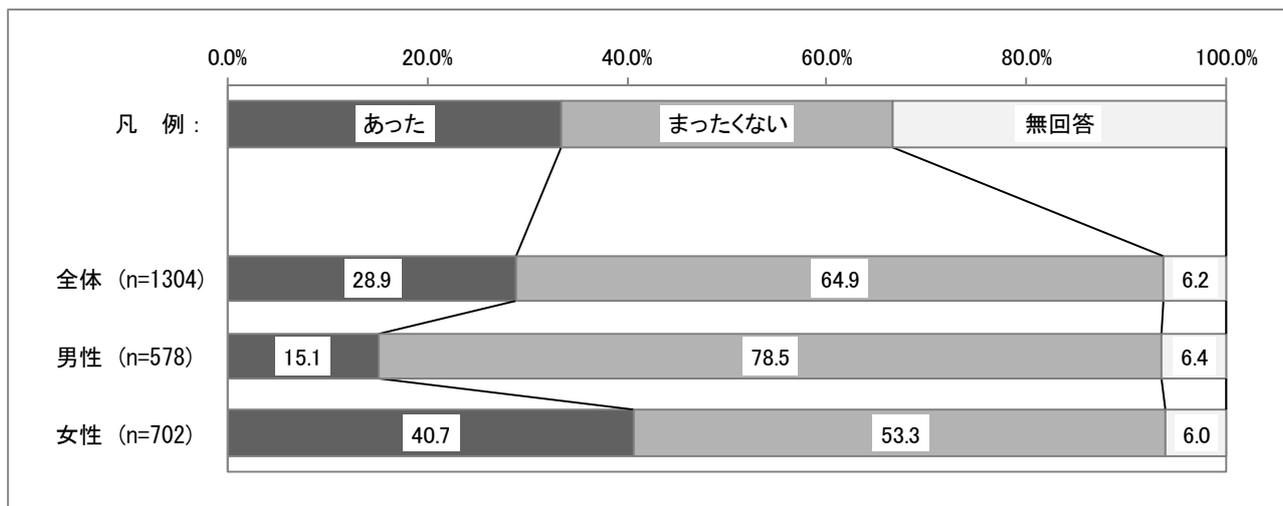


夫婦間の身体に関する直接的な暴力については、「暴力だと思う」との回答が大部分だが、「交友関係や電話を細かく監視する」行為は、暴力と感じている割合が、他の項目と比べ低くなっている。また、全般的に男性の方が女性と比べ暴力と感じている割合が低い傾向にある。

【設問】あなたは、夫婦間（元配偶者や事実婚を含む）で次のような暴力を受けたことがありますか。
1～3のそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。



[身体的、精神的、性的暴力を1つでも受けたことがある人]

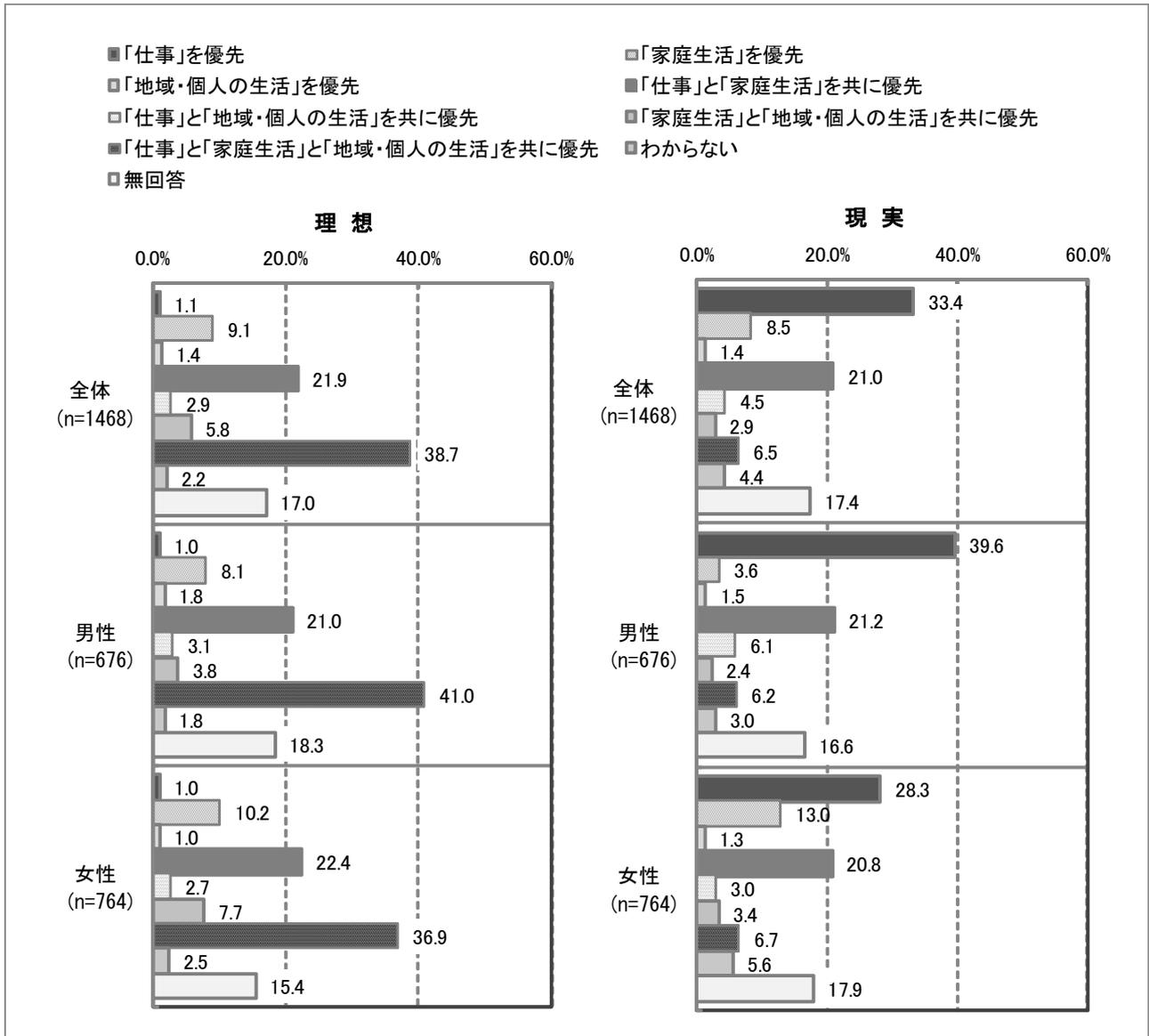


夫婦間で暴力を受けたことがある人は、男性と比べ女性の方が高い割合となっている。

また、夫婦間（元配偶者や事実婚を含む）で、「身体的暴力」「精神的暴力」「性的暴力」のいずれかを1度でも受けたことがある女性の割合が40.7%と高くなったことは、「夫婦間の暴力」の考え方についての前回調査比較などから、身体的暴力以外のDVに対する認識が高まったことがその要因として推測できる。

(7) 生活の中での優先度

【設問】生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度について、1～8のうちあなたが望ましい姿だと考えるものを一つ選び「理想」欄に○をつけてください。また、あなたが実際に経験した状況に最も近いものを一つ選び「現実」欄に○をつけてください。

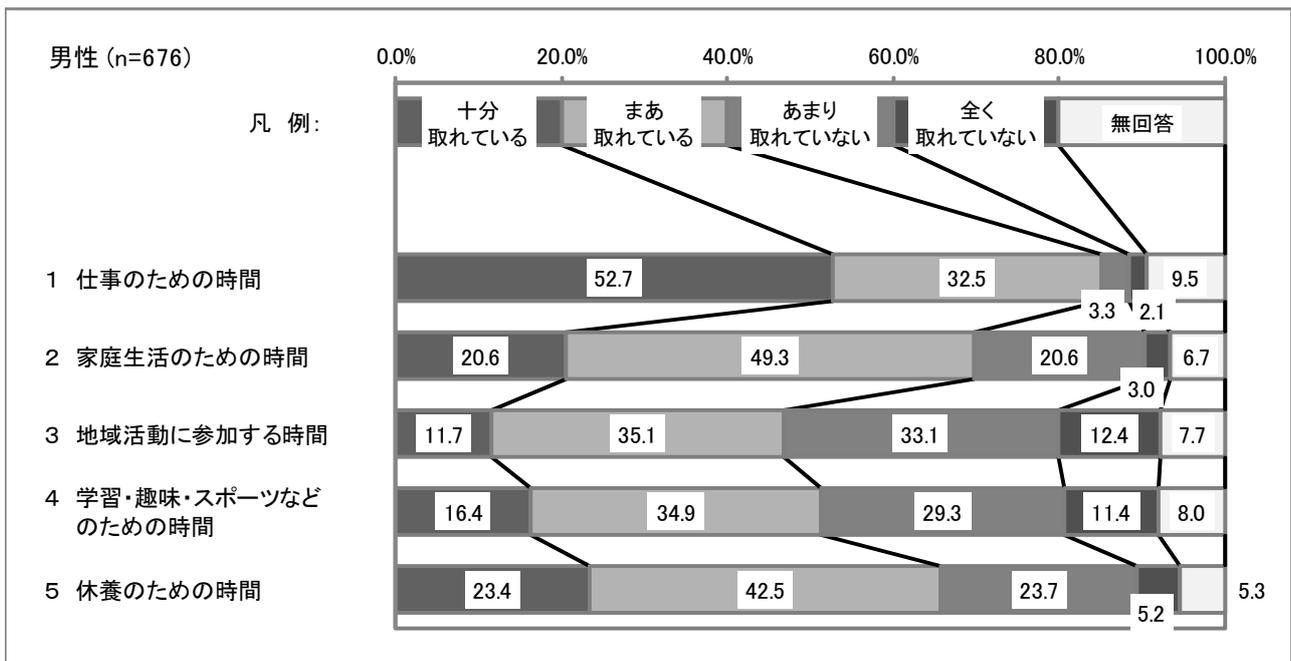
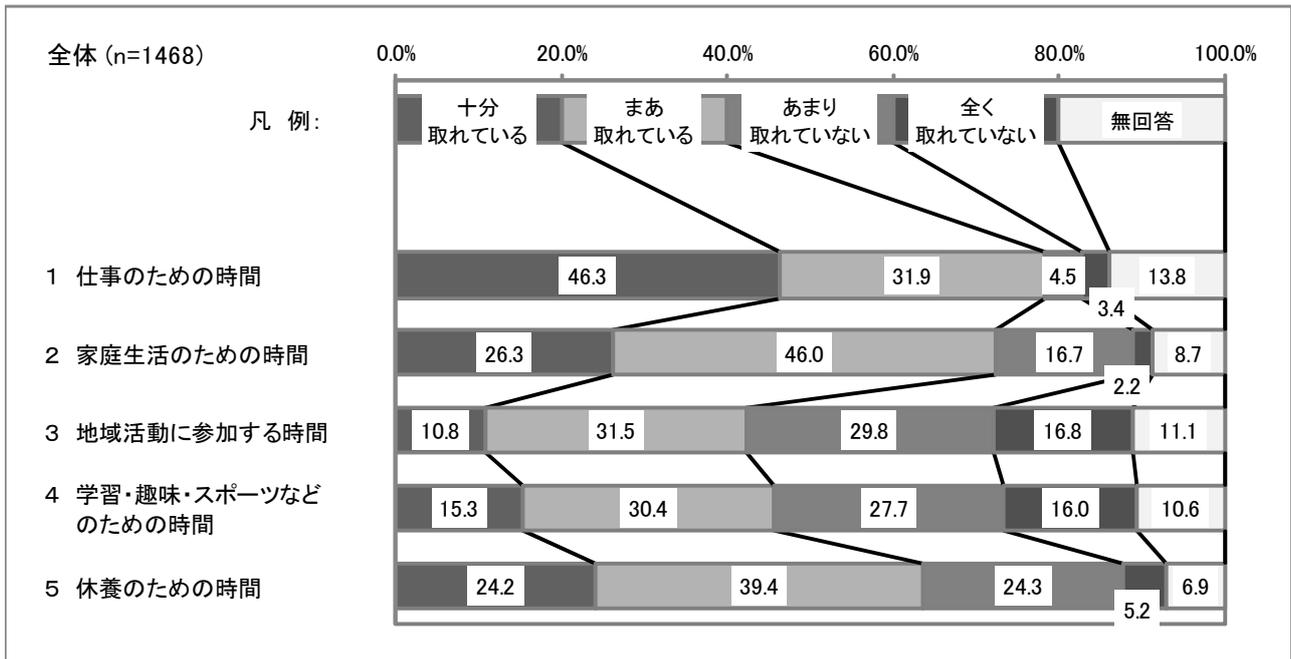


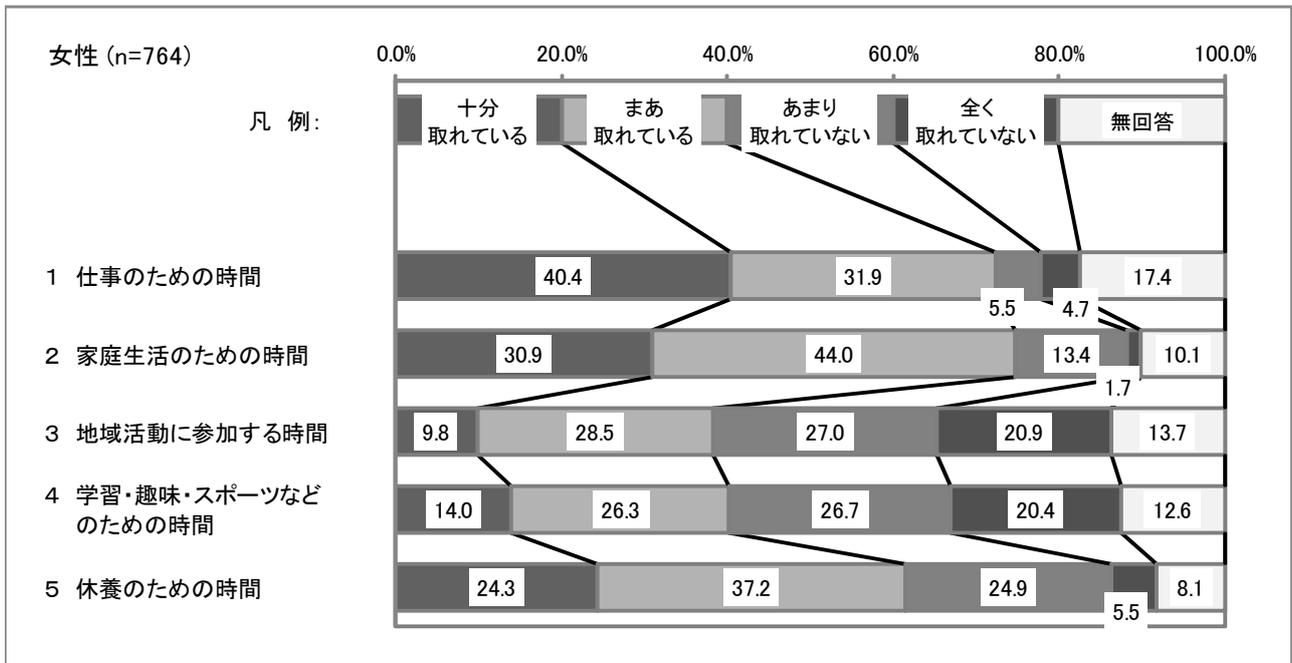
理想では男女共に「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」したい考えが最も高く、次いで「「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が高くなっている。

しかし、現実では男女共に、「仕事」が優先され、特に男性において「仕事」を優先している割合が他の項目と比べ高い傾向にある。

(8) ワーク・ライフ・バランスについて

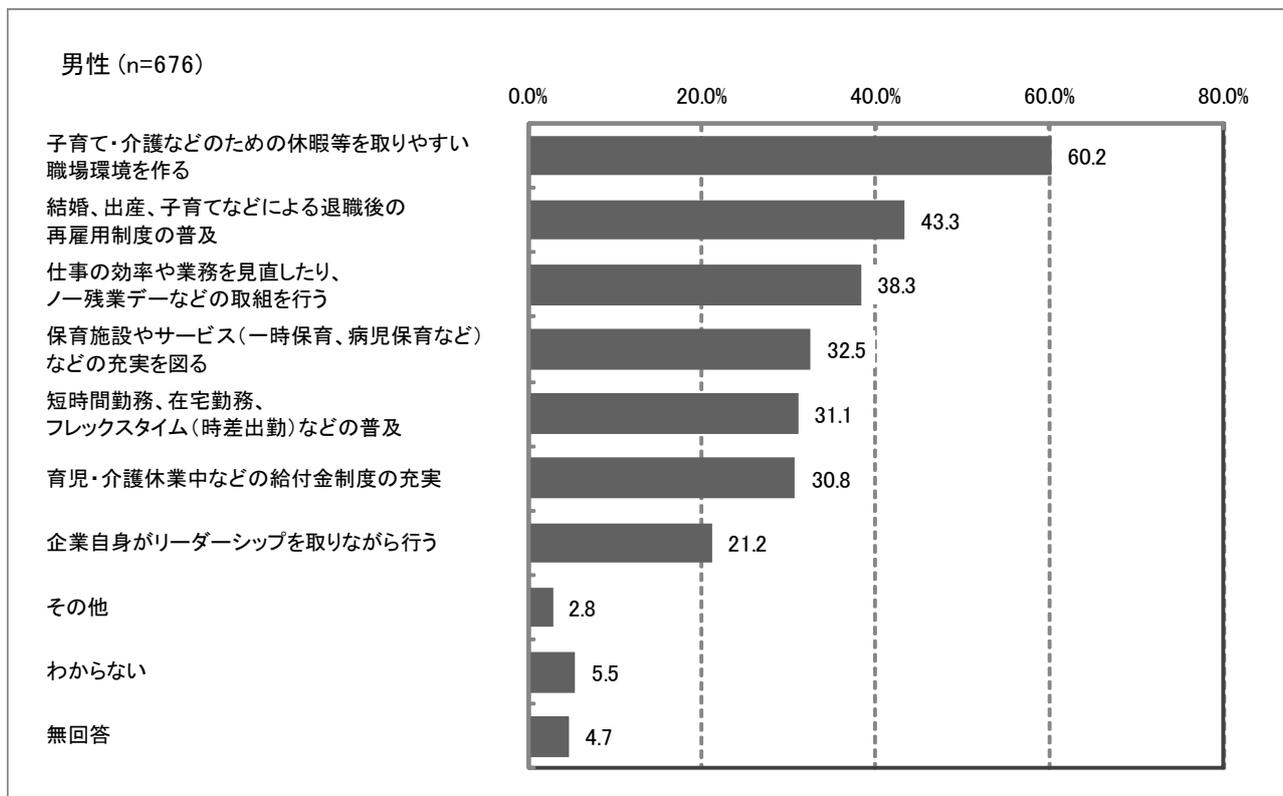
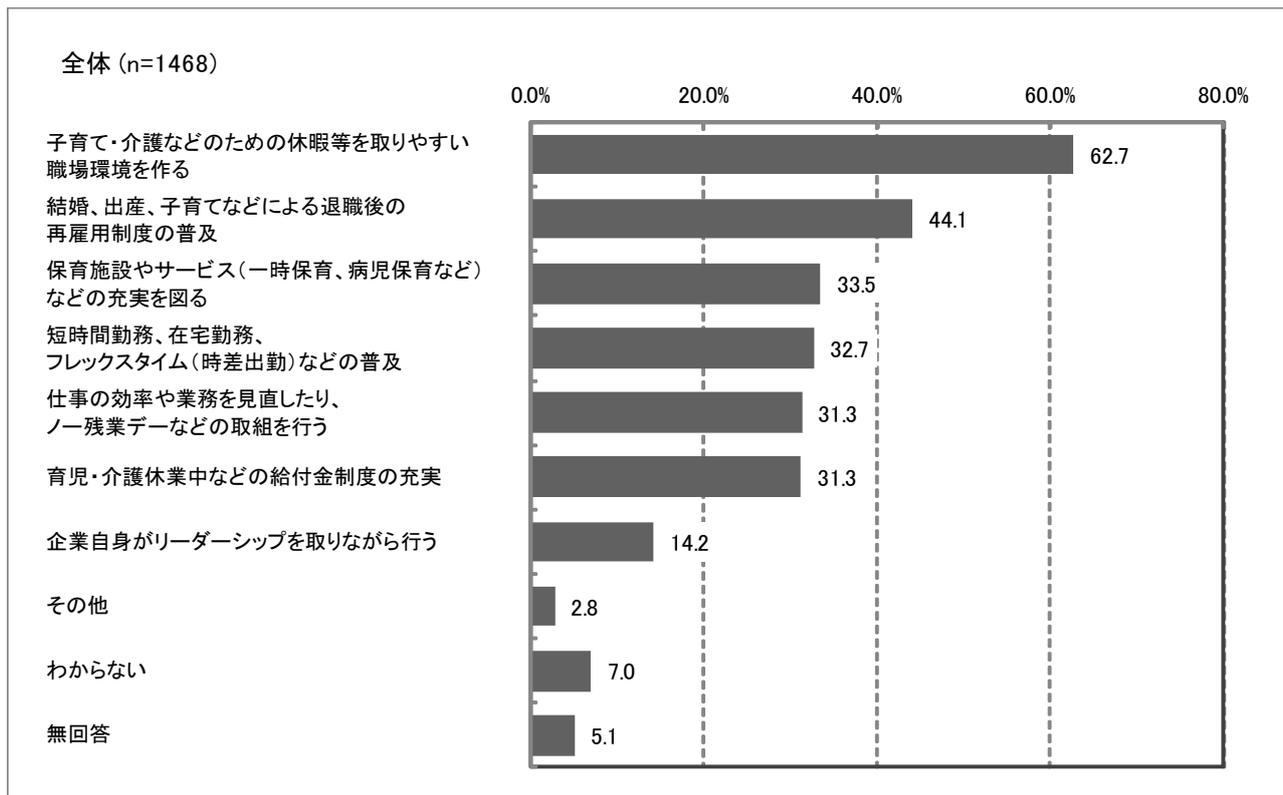
【設問】あなたの生活では、「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「学習・趣味・スポーツなど」、「休養」の時間は十分に取れていますか。1～5のそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。



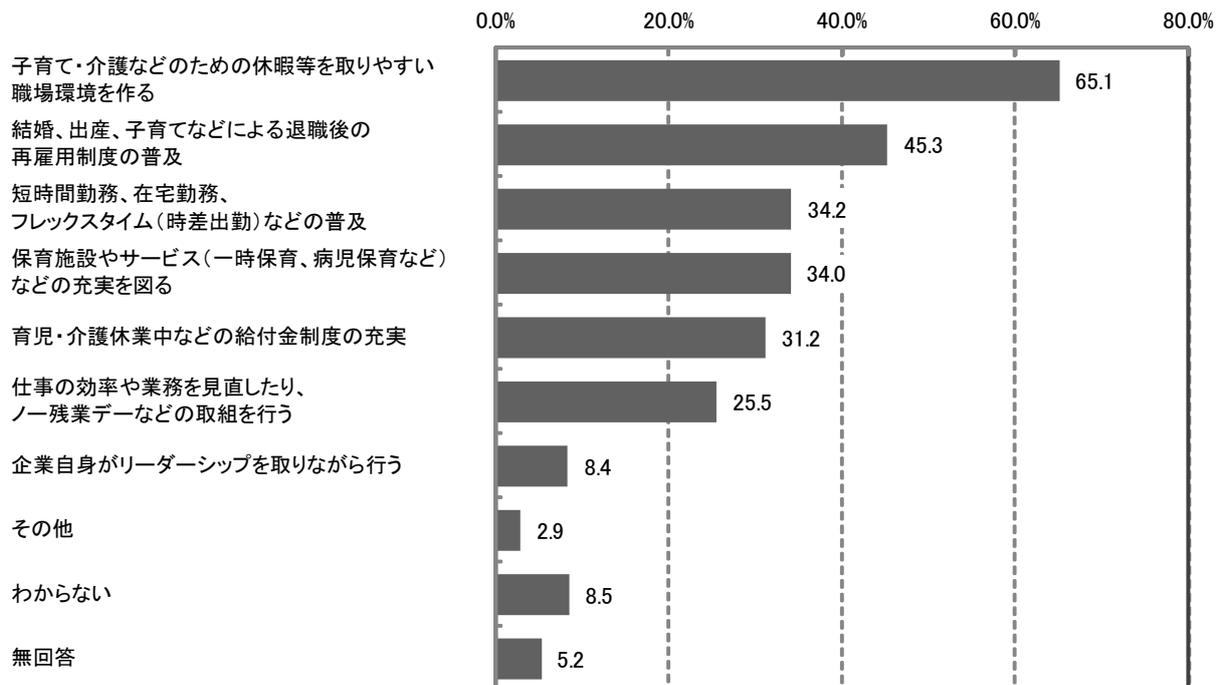


「十分取れている」、「まあ取れている」を合わせた回答を見ると、男女とも仕事や家庭生活の時間は比較的取れているが、地域活動や学習・趣味などの時間は、女性より男性の方が多く取れている傾向にある。

【設問】仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現のためにどのようなことが必要だと思いますか。主なもの3つを選んで○をつけてください。



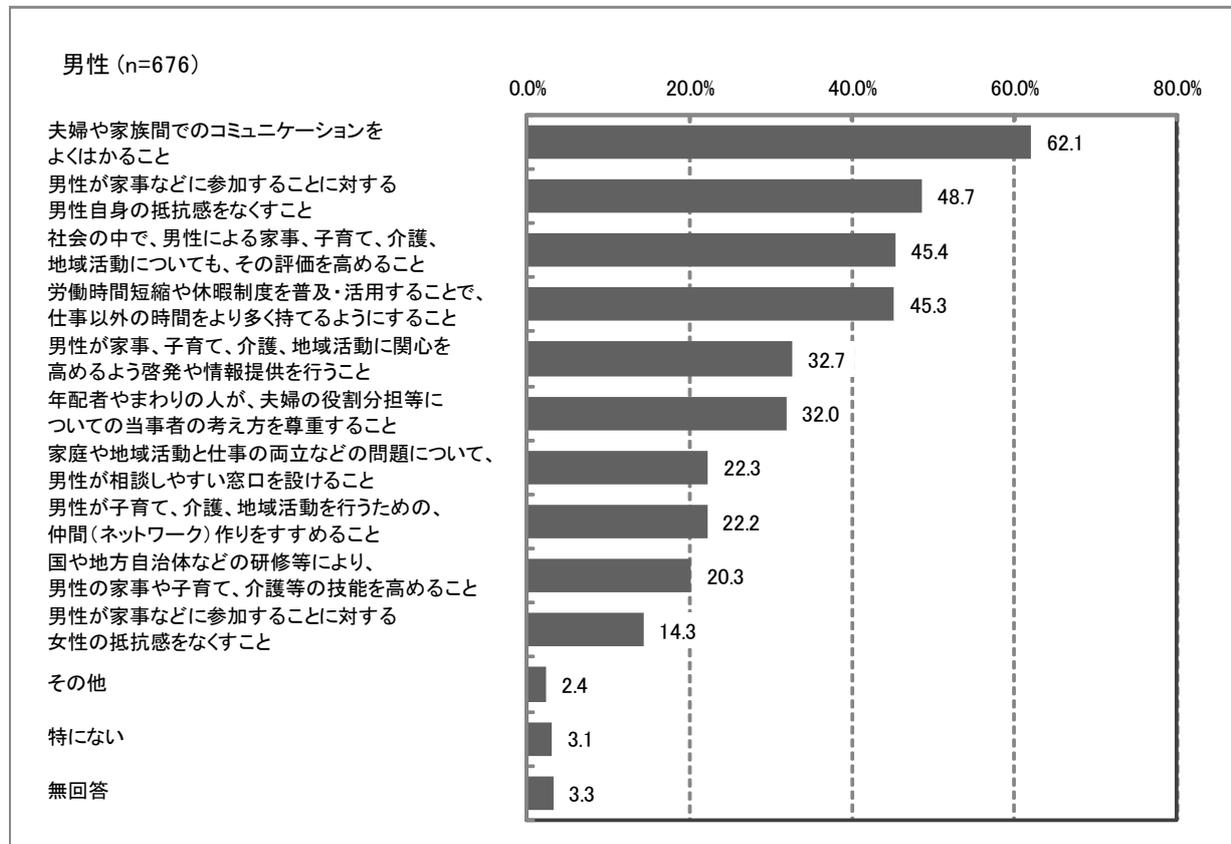
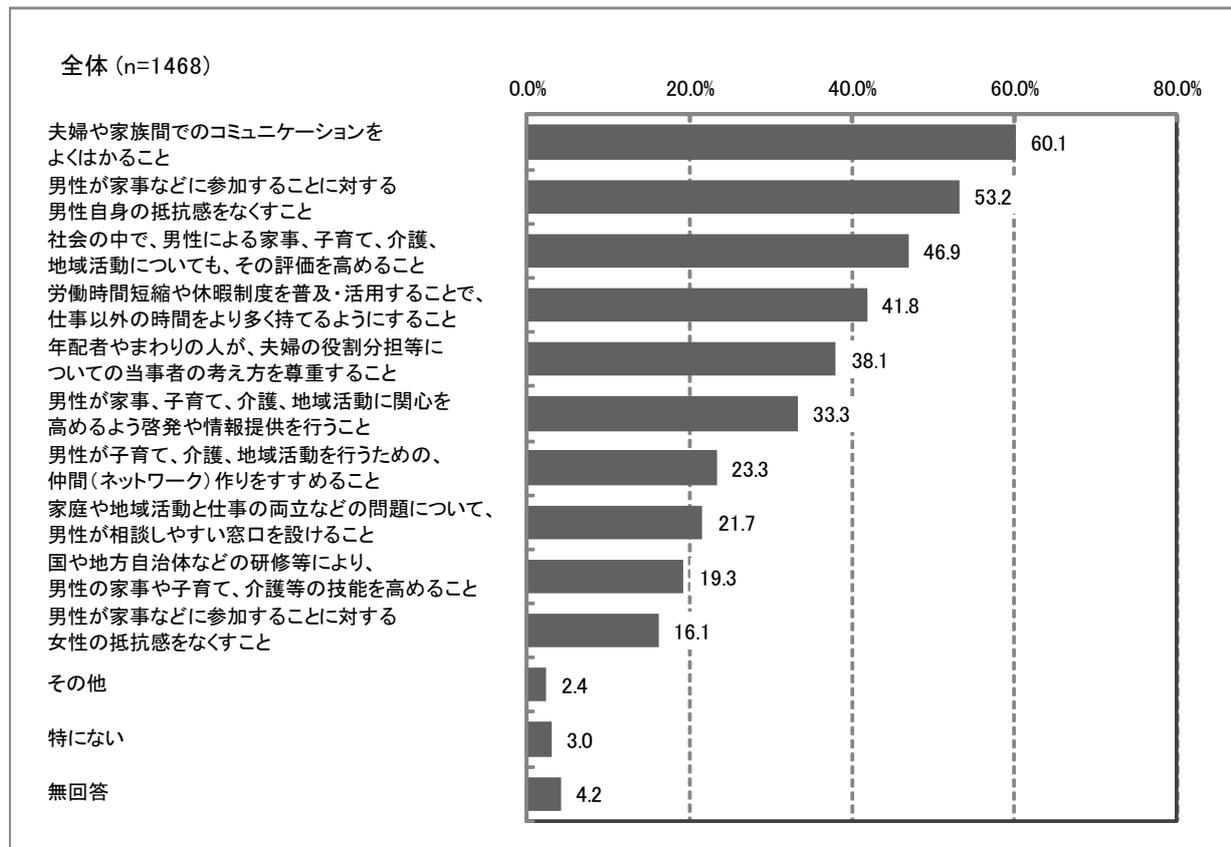
女性 (n=764)



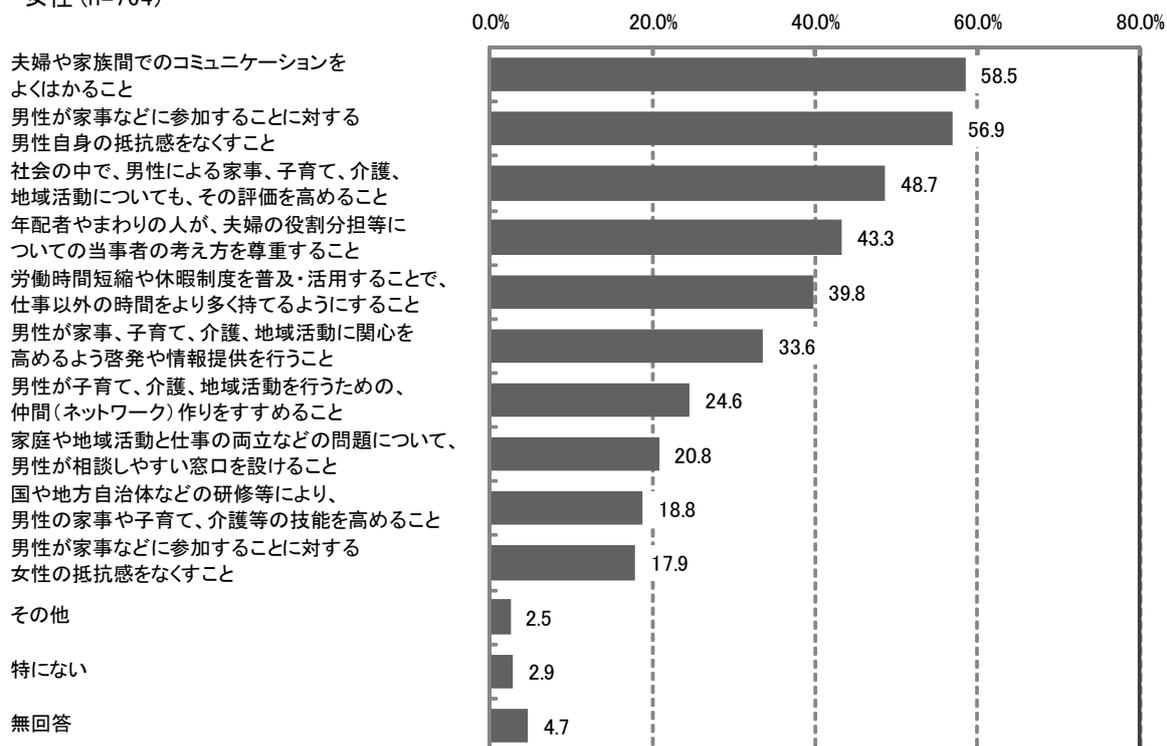
男女いずれも、「子育て・介護などのための休暇等を取りやすい職場環境を作る」との回答割合が高くなっており、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）実現において、仕事と育児等の両立ができる職場環境への改善を求める声が多いと考えられる。

(9) 男性が家事等に参加するために必要なこと

【設問】 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。



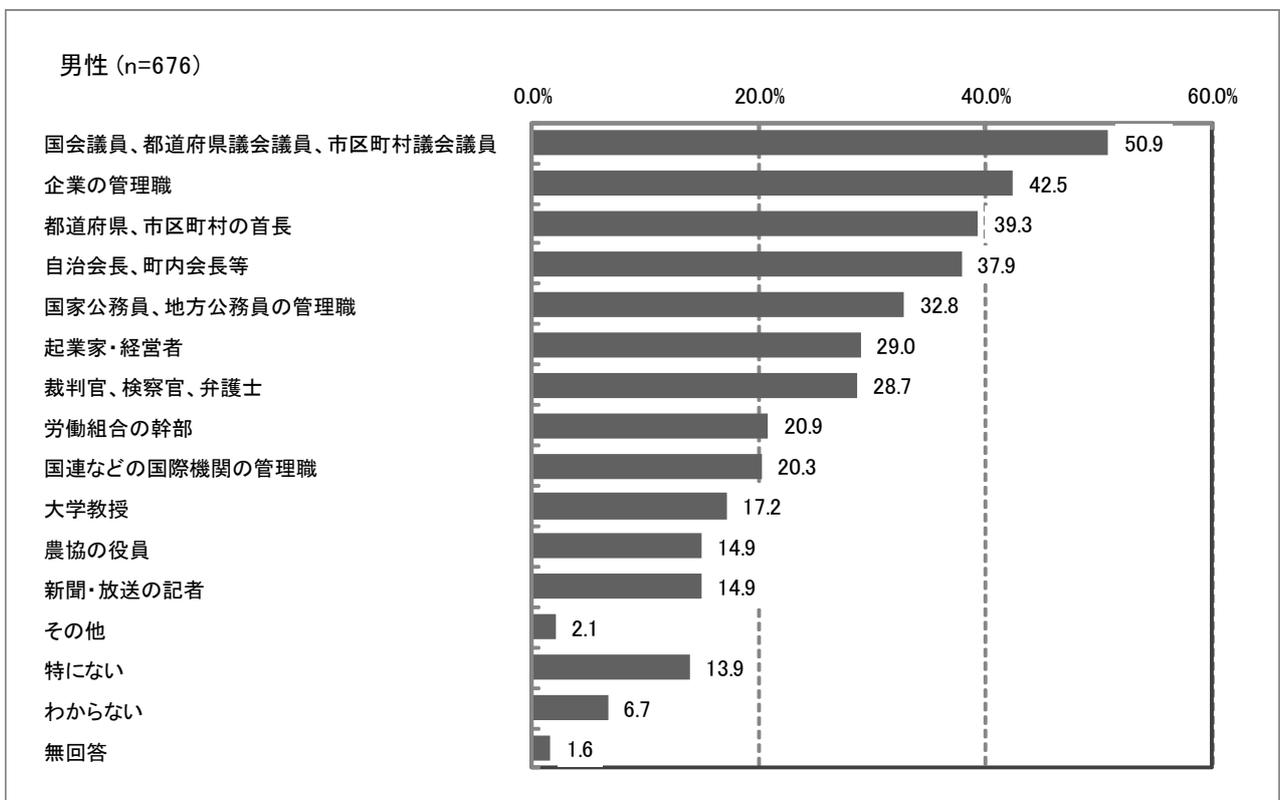
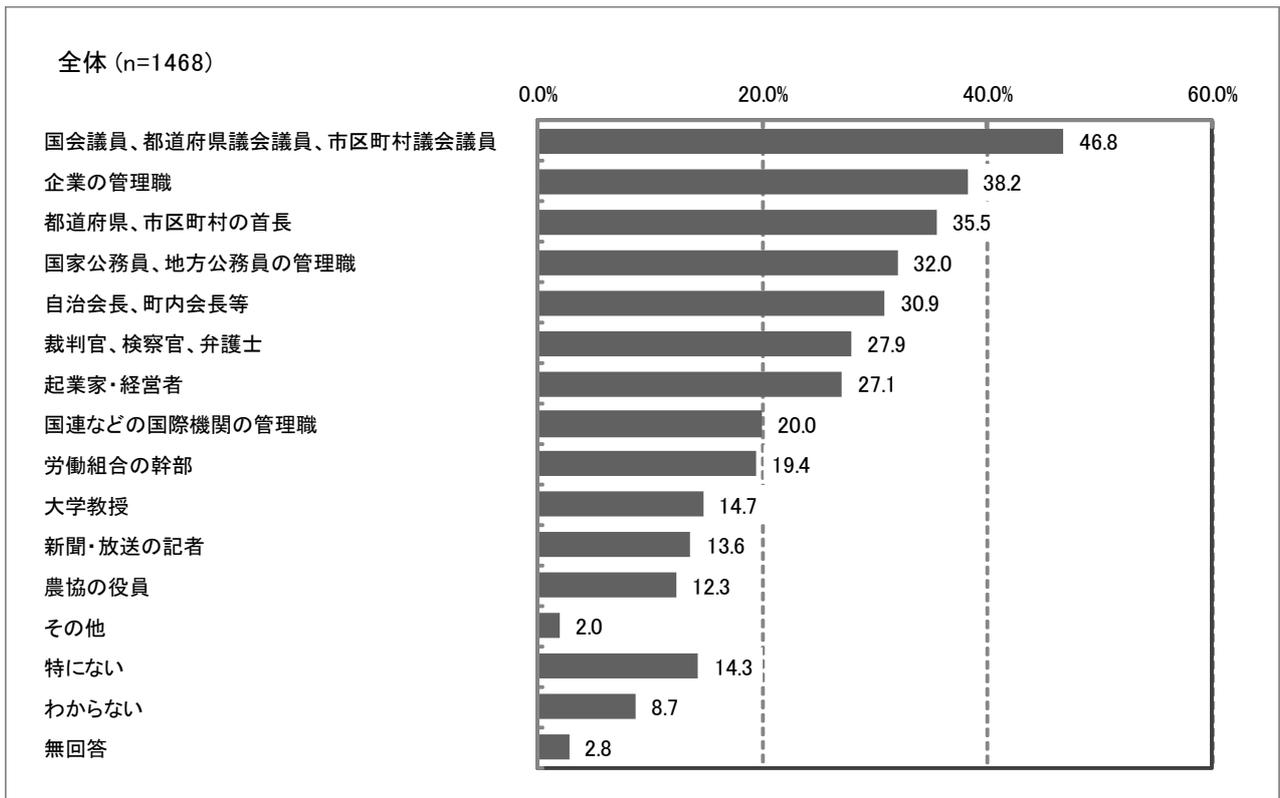
女性 (n=764)



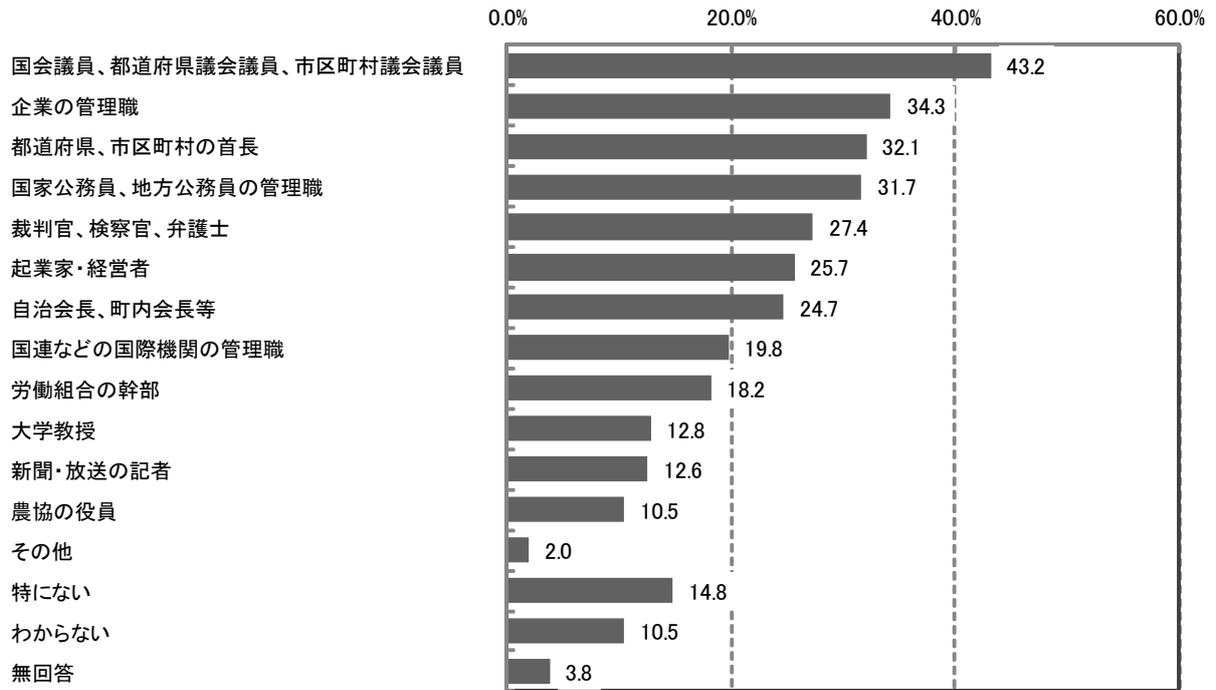
男女共に、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」についての回答割合が高くなっており、よりコミュニケーションを図り、相互理解を深めていくことが必要であると考えられる。

(10) 女性の進出を望む職業や役職

【設問】あなたが、次にあげるような職業や役職において今後女性がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。



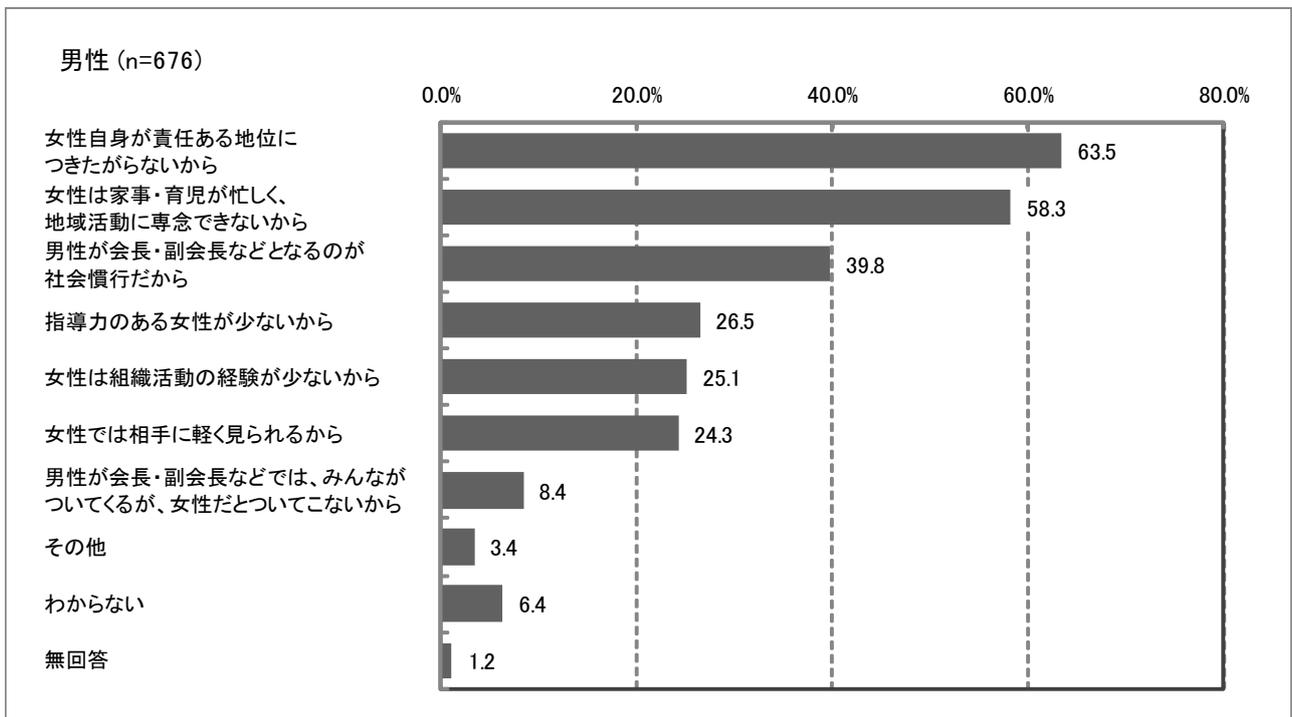
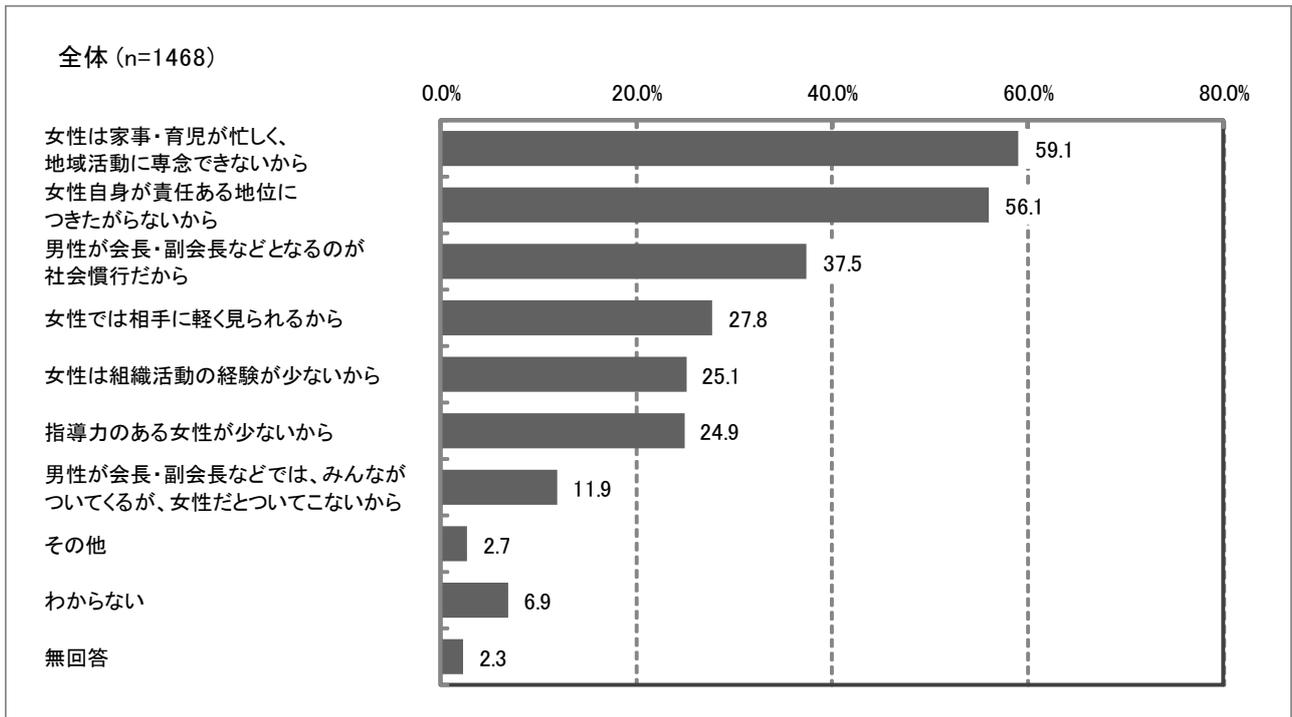
女性 (n=764)



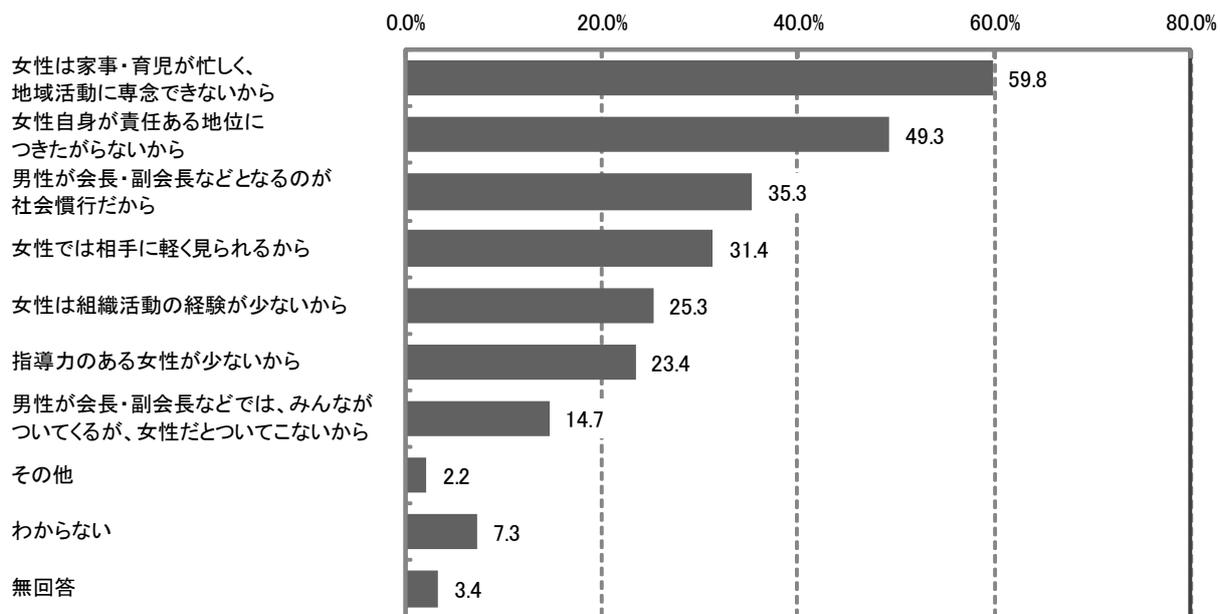
男女共に「国会議員、都道府県議会議員、市区町村議会議員」をはじめとする政治の分野へ女性の進出を望む回答が多く、企業の管理職、都道府県、市区町村の首長などがこれに続く。

(11) 地域リーダーに女性が少ない理由

【設問】PTAや町内会などの地域団体の役員の長に女性が就くことの妨げとなっている主な原因は何だと思いますか。主なもの3つを選んで○をつけてください。



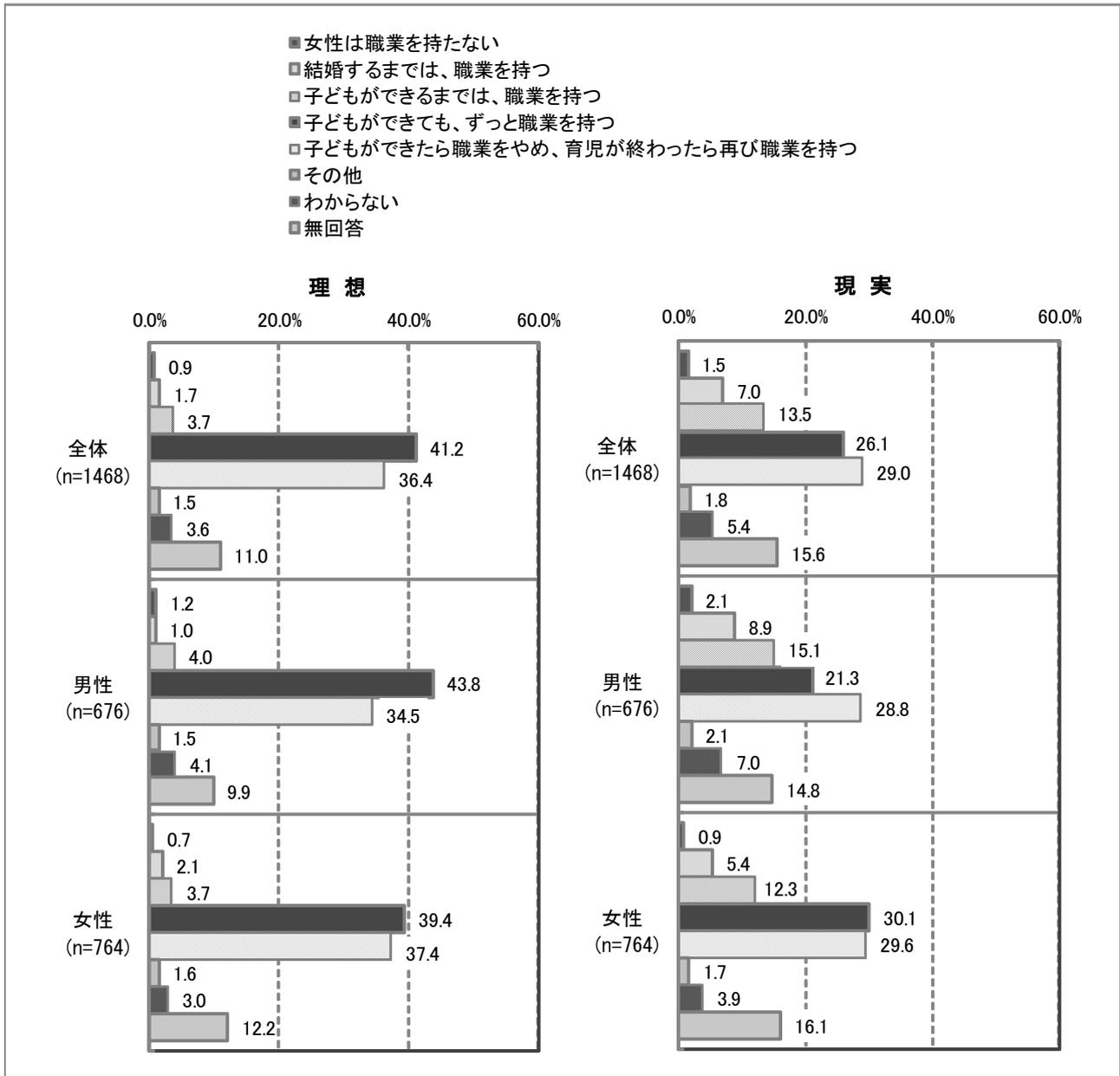
女性 (n=764)



男性では、「女性自身が責任ある地位につきたがらない」との回答が最も多いが、女性では「家事・育児が忙しく、地域活動に専念できない」との回答が最も多く、男女間の意識にギャップがあることが伺える。また、男女共に「男性が会長・副会長などとなるのが社会慣行だから」と回答する人が男性 39.8%、女性 35.3%と前回調査（男性 28.3%、女性 29.5%）と比べ上昇しており、性別により役割分担を固定する意識の解消が進んでいない傾向にある。

(12) 職業観

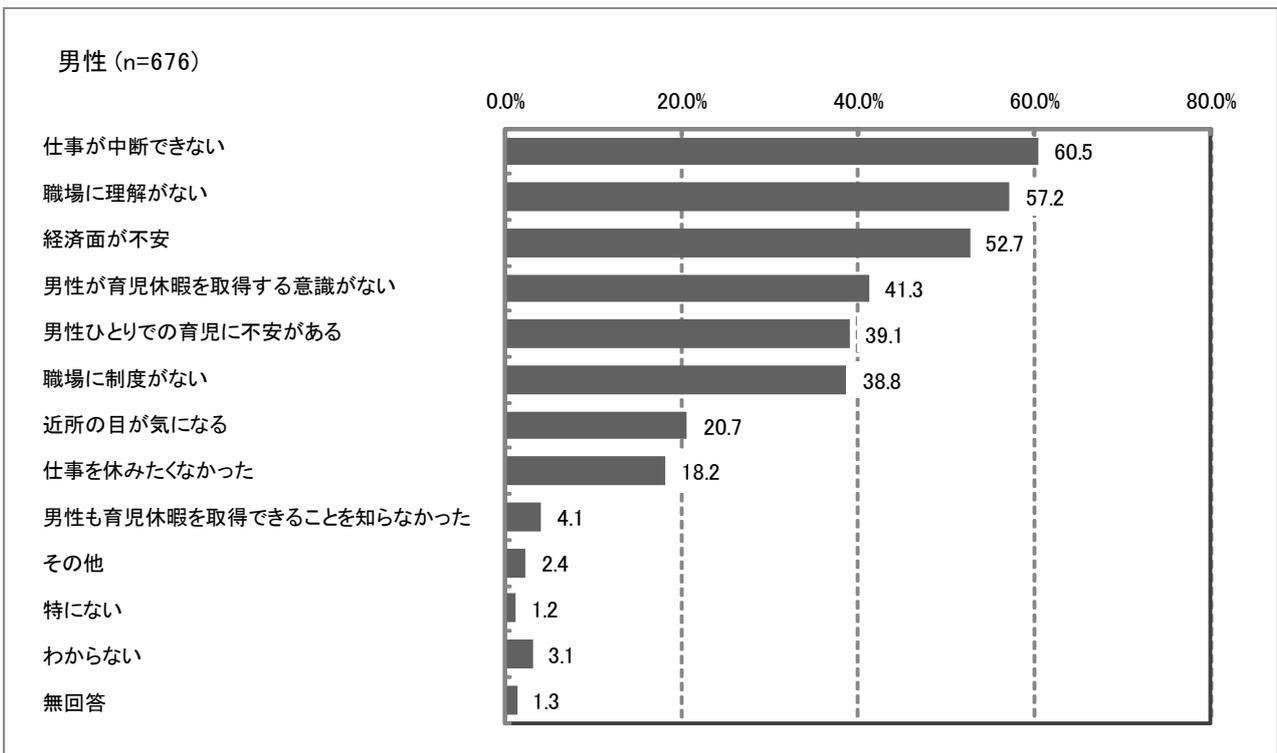
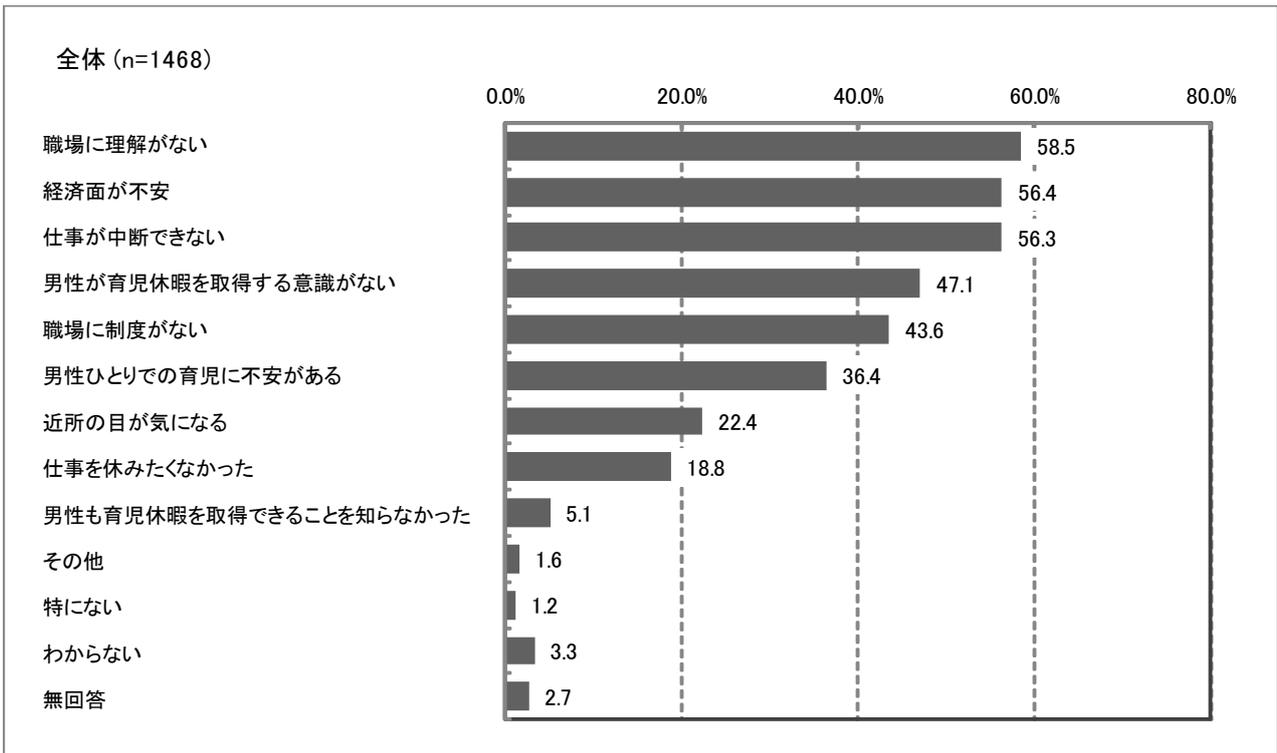
【設問】女性が職業を持つことについて、1～7のうちあなたが望ましい姿だと考えるもの一つを選び、「理想」欄に○をつけてください。また、あなたの経験や今後の予定、身近な女性で最も近いもの一つを選び、「現実」欄に○をつけてください。

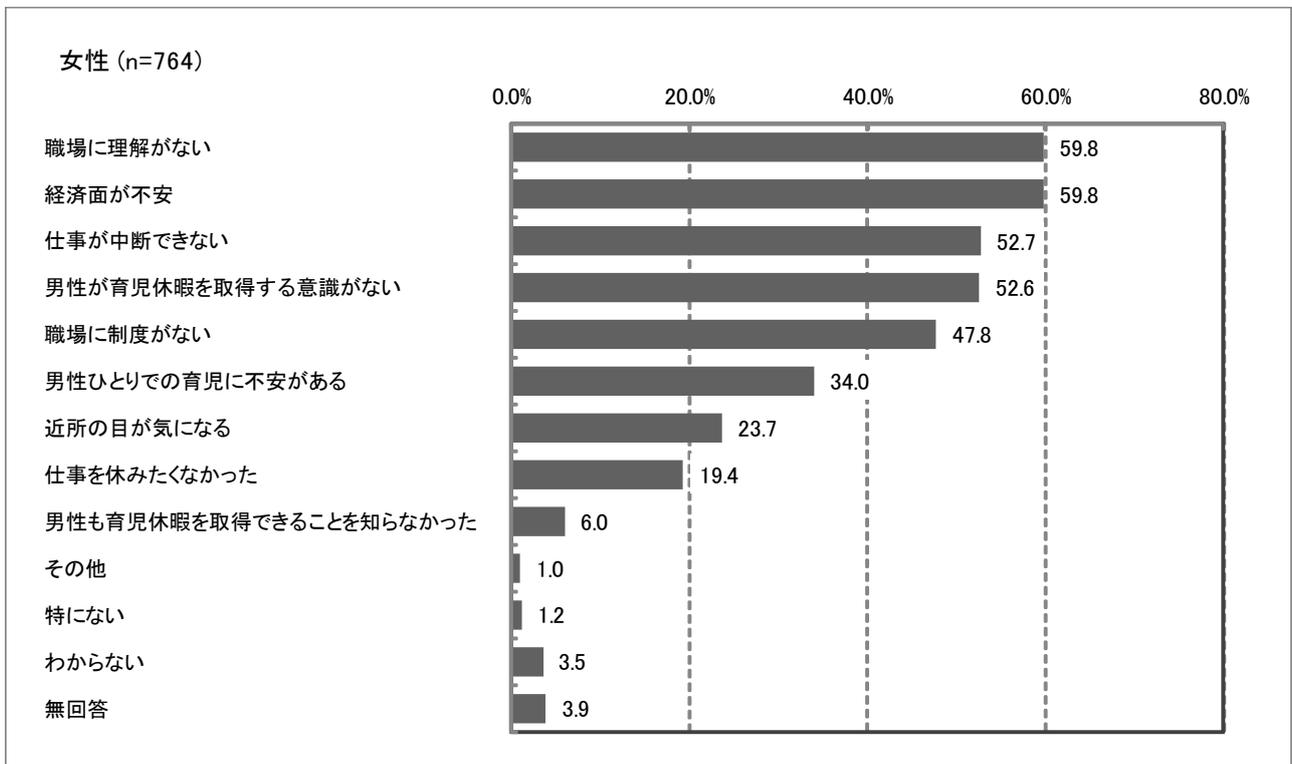


「理想」「現実」共に、男女いずれも「子どもができて、ずっと職業を持つ」と「子どもができたなら職業をやめ、育児が終わったら再び職業を持つ」の2つが他の項目と比べ割合が高い。しかし、現実には、結婚するまで、子どもができるまでは職業を持つとの回答が増加し、結婚・出産を機に職を離れざるを得ない状況が伺える。

(13) 男性が育児休暇を取得しづらい理由

【設問】男性が育児休暇を取得しづらい（しない）理由として考えられるもの全てに○をつけてください。



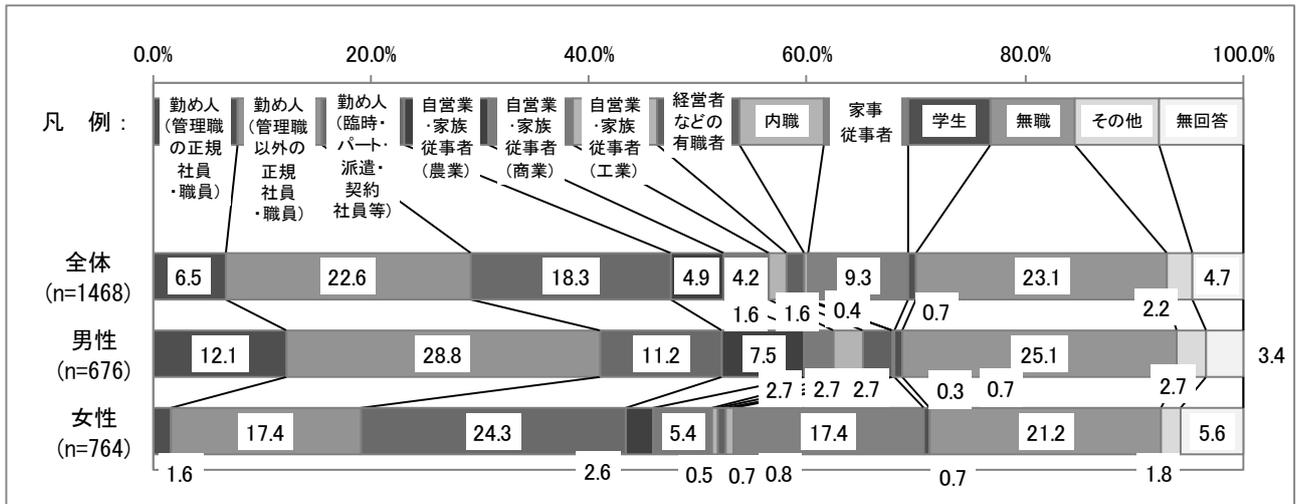


男女いずれも、「職場に理解がない」、「経済面が不安」、「仕事が中断できない」が50%を超えており、職場で男性が育児休暇を取得する意識・環境や、経済面での整備が整っていないことが伺える。また、「男性が育児休暇を取得する意識がない」が47.1%、「男性ひとりでの育児に不安がある」36.4%など、育児に対する消極的な意見も多く見られる。

(14) 就業状況

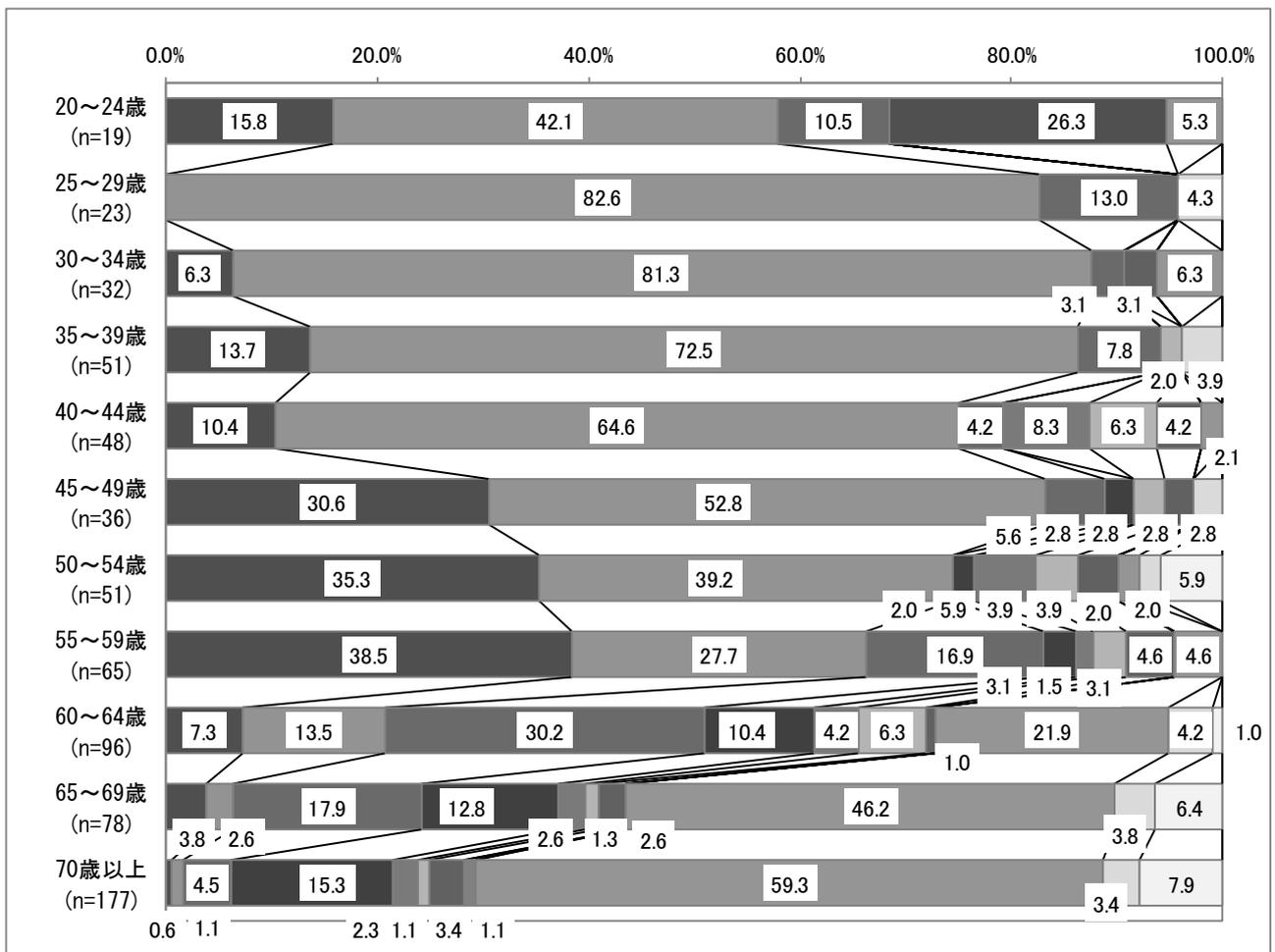
【設問】あなたは現在どのような職業にお就きですか。一つだけ選んで○をつけてください。

[就業状況]

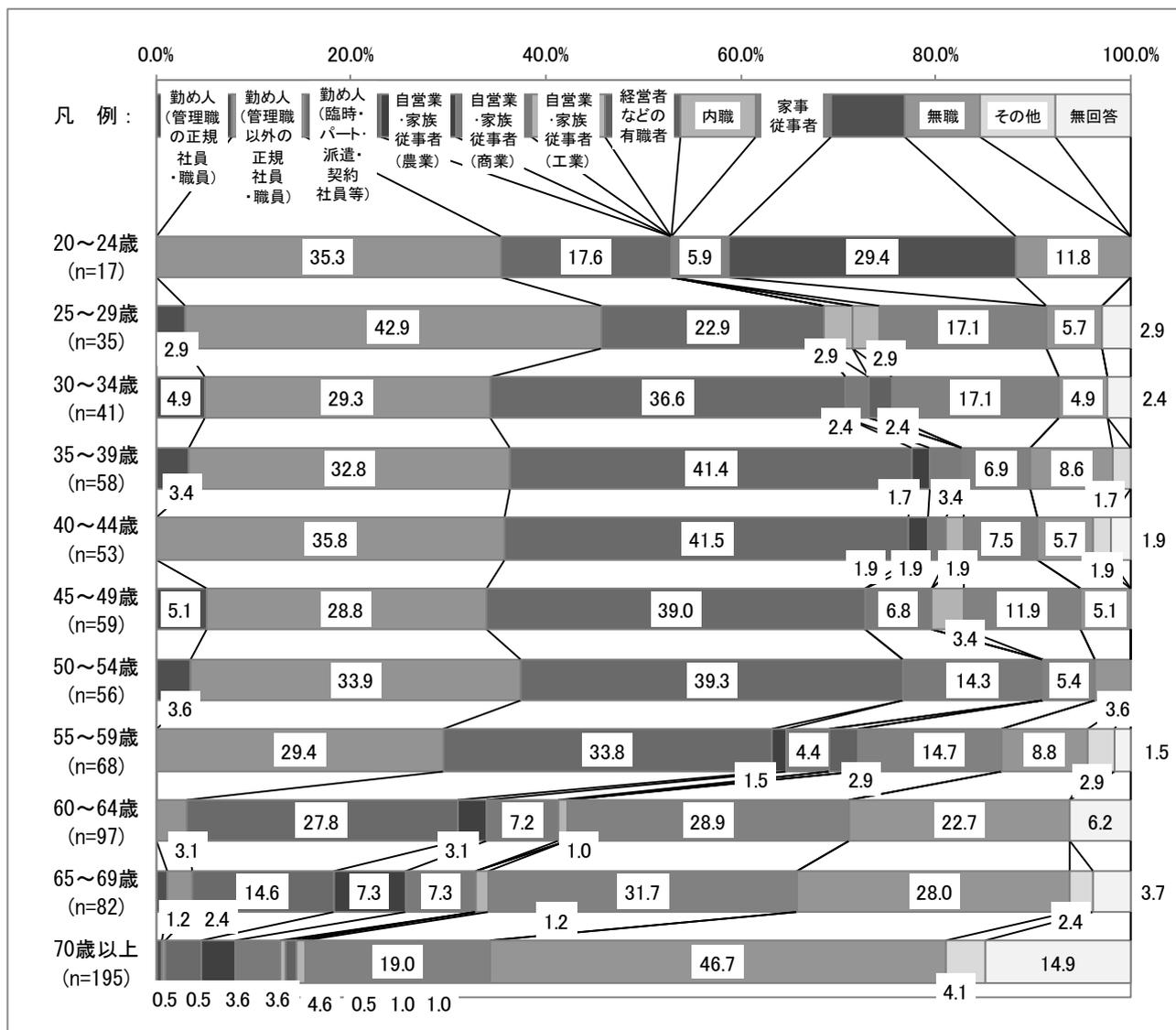


[就業状況 (年代別)]

(男性)

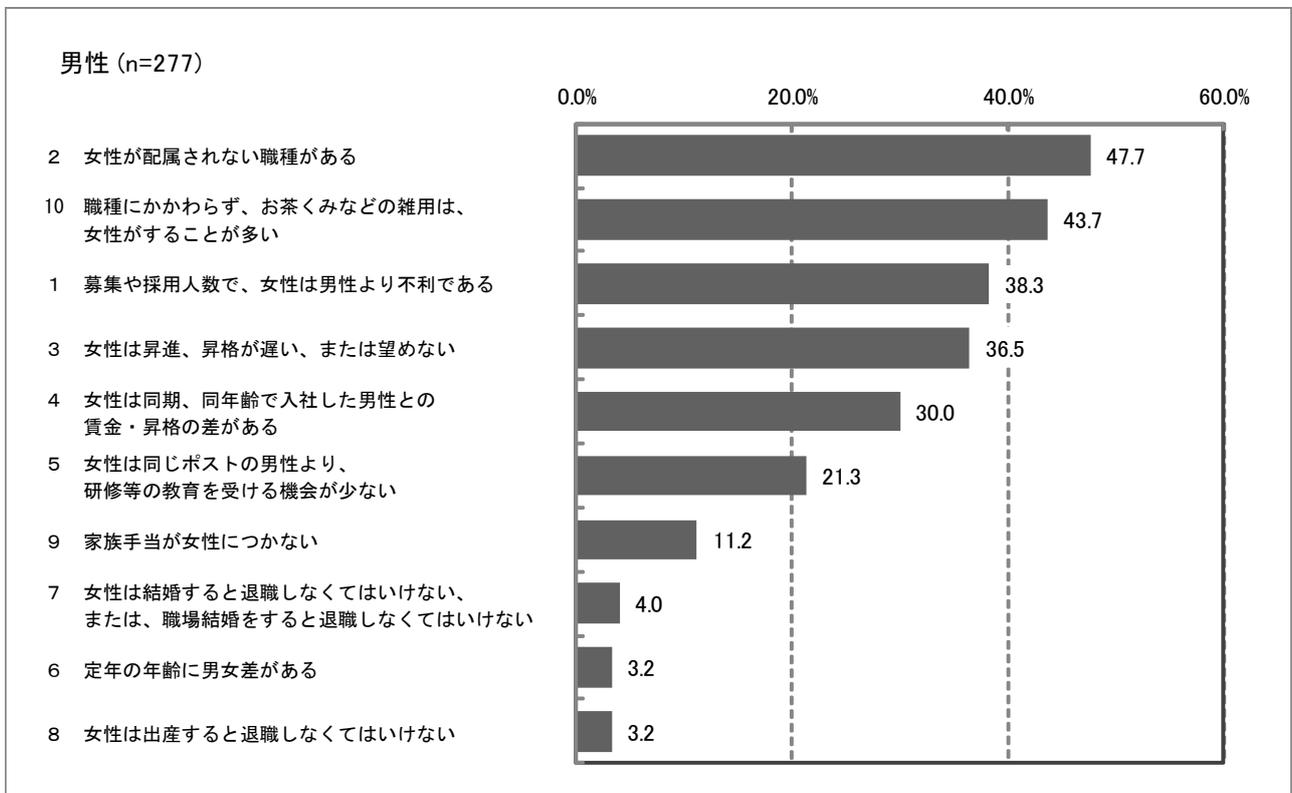
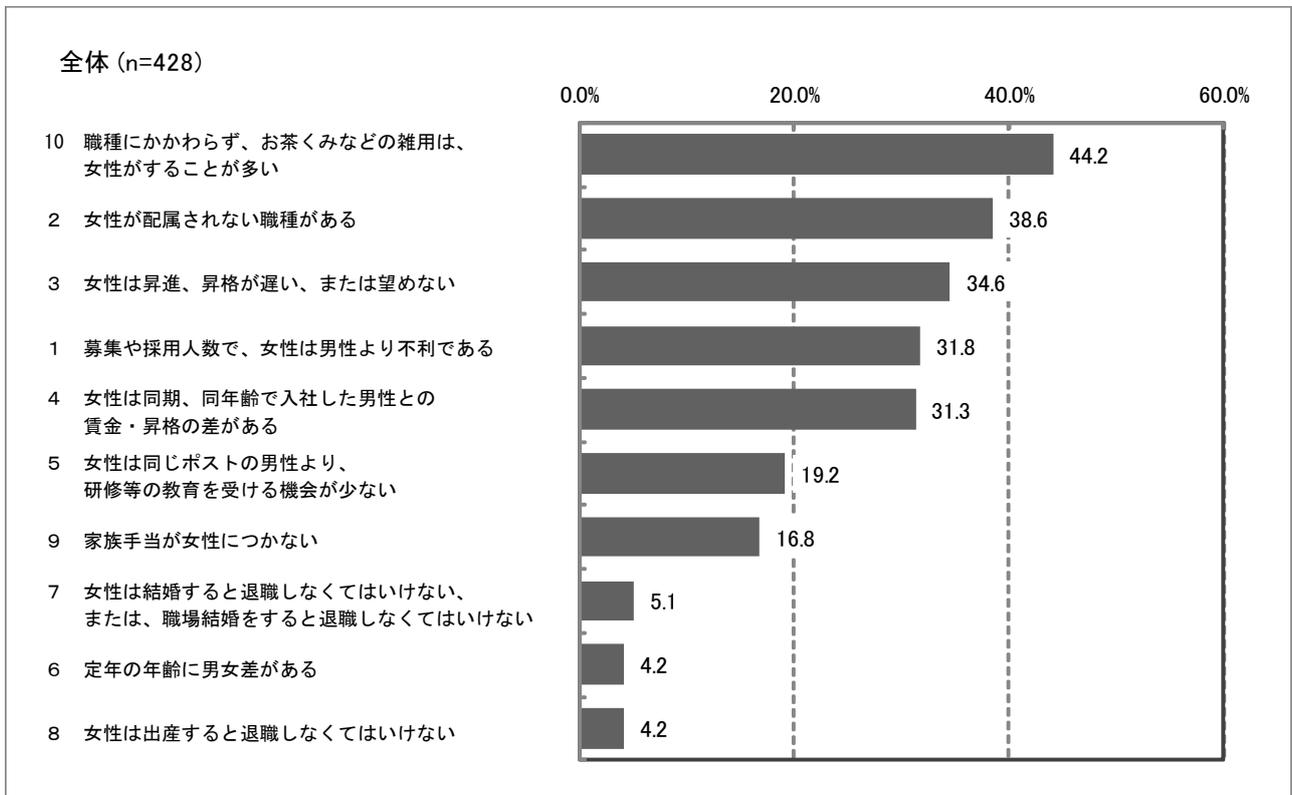


(女性)

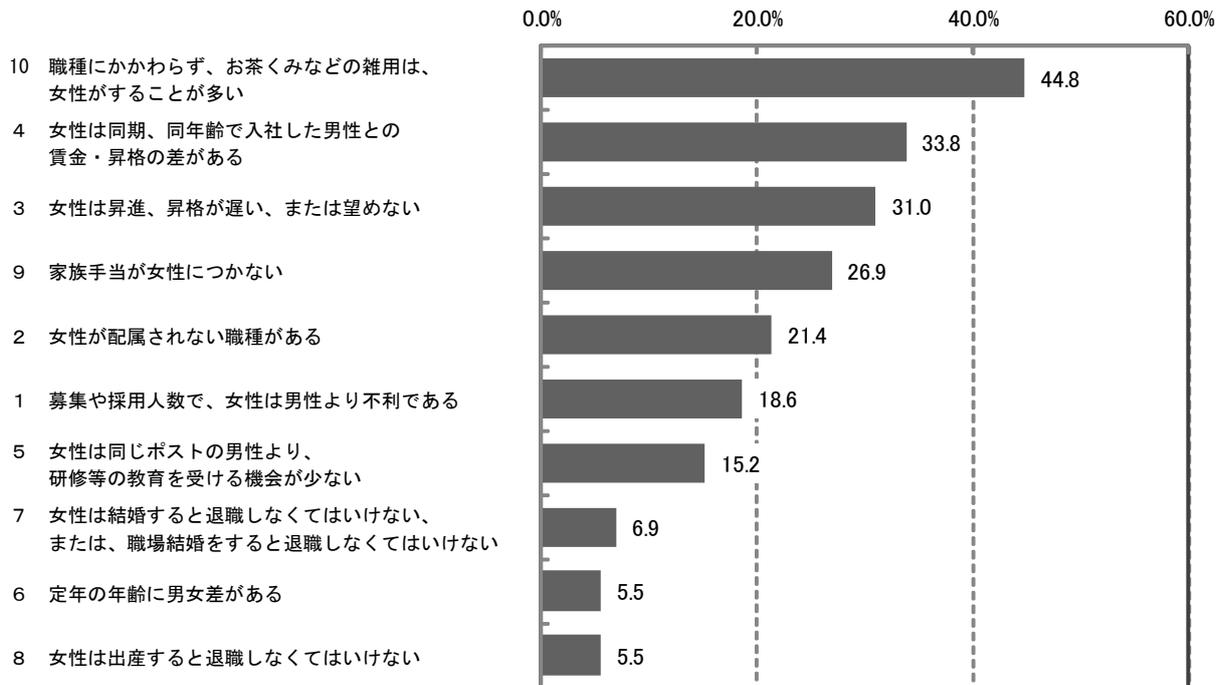


(15) 職場における男女平等

【設問】(勤め人(管理職の正規社員・職員、管理職以外の正規社員・職員)の方のみお答えください。)
 あなたの職場では次のようなことがありますか。1～10までのそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。



女性 (n=145)

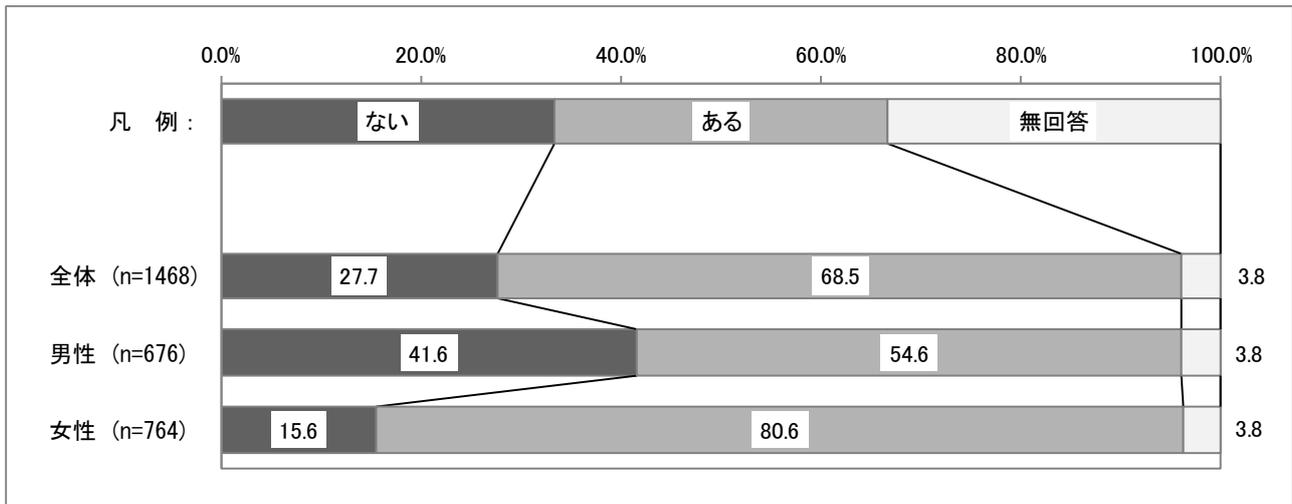


「職種にかかわらず、お茶くみなどの雑用は、女性がすることが多い」は、前回調査と比べ減少しているが、依然として半数近くを占めており、性別により役割分担を固定する意識がまだ残っていることが伺える。

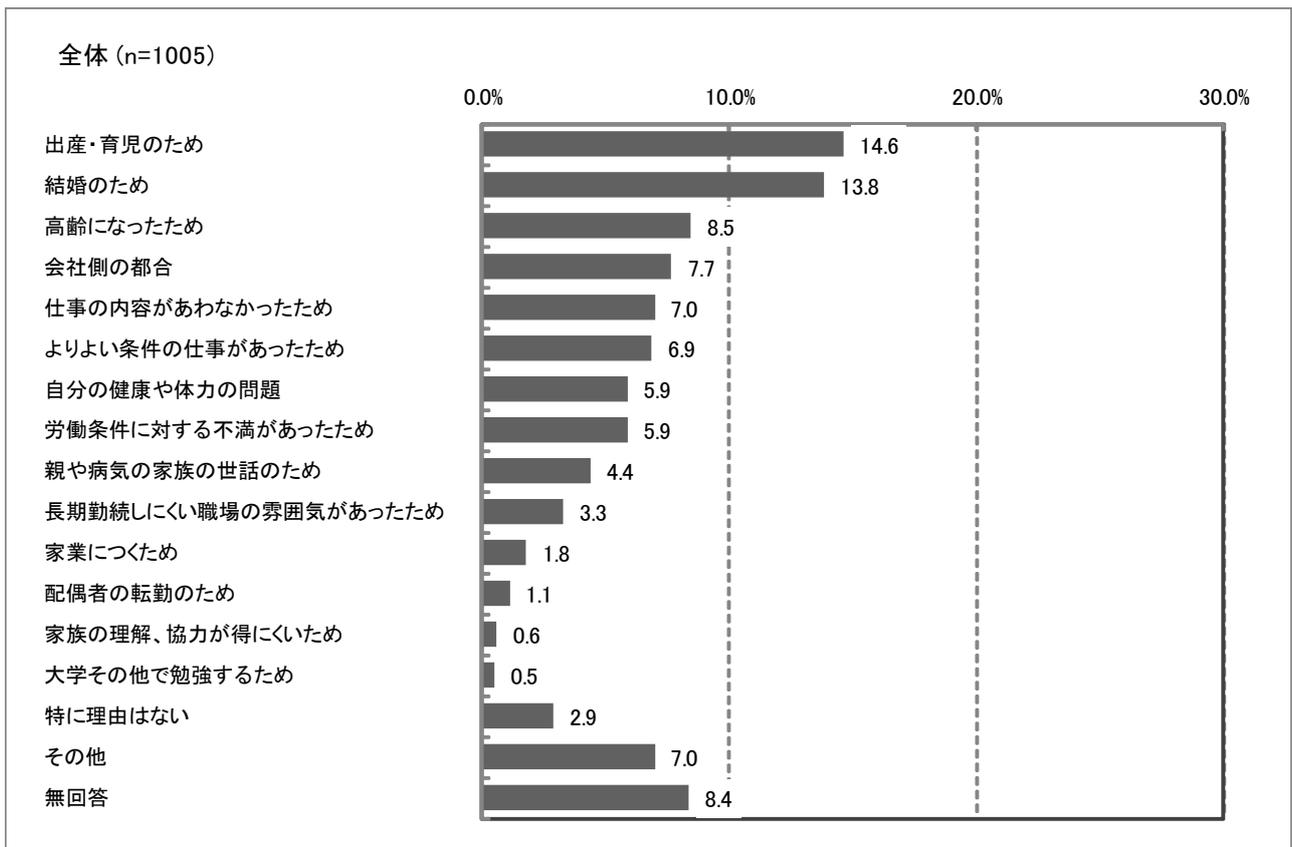
また前回調査と比べ「女性は出産すると退職しなくてはならない」、「女性は結婚すると退職しなくてはいけない、または、職場結婚をすると退職しなくてはいけない」が微増しており、「結婚・育児＝退職」という労働環境が依然として存在していることが伺える。

(16) 就労の継続

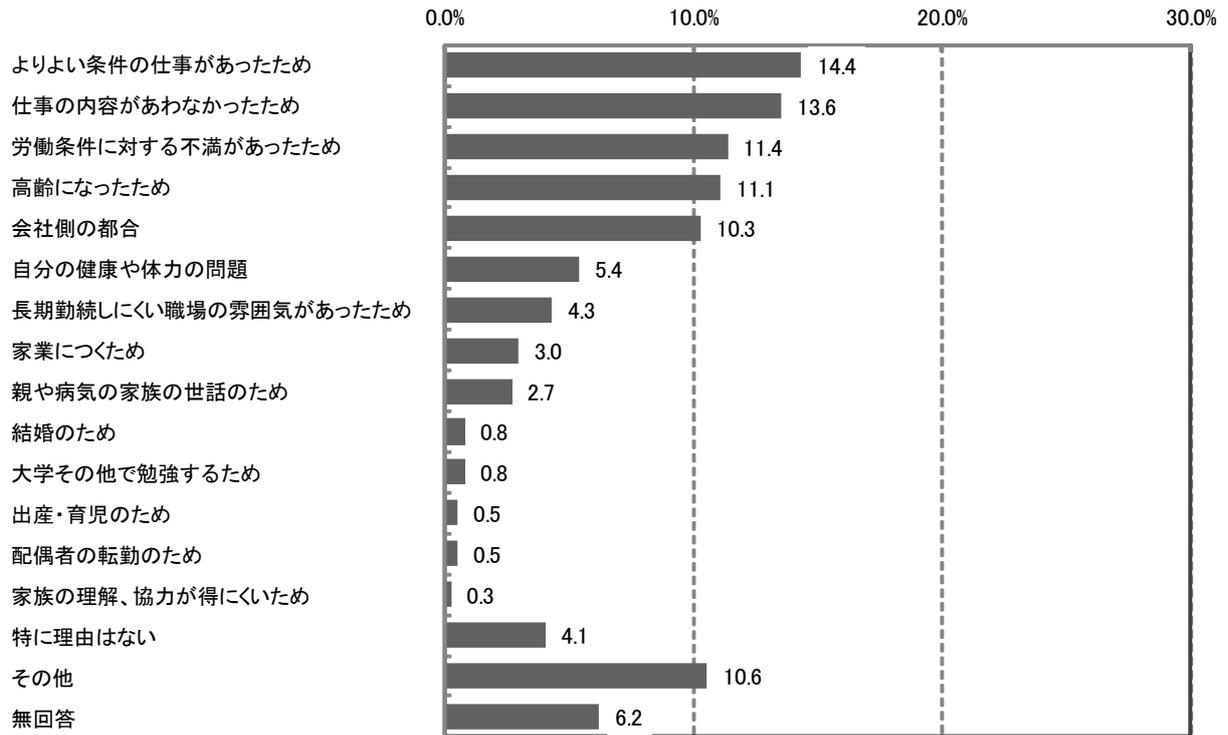
【設問】（全員の方がお答えください。）あなたは、今までに仕事を辞めたり中断したり、あるいは転職したことがありますか。また、その理由は何ですか。主なもの一つを選んで○をつけてください。



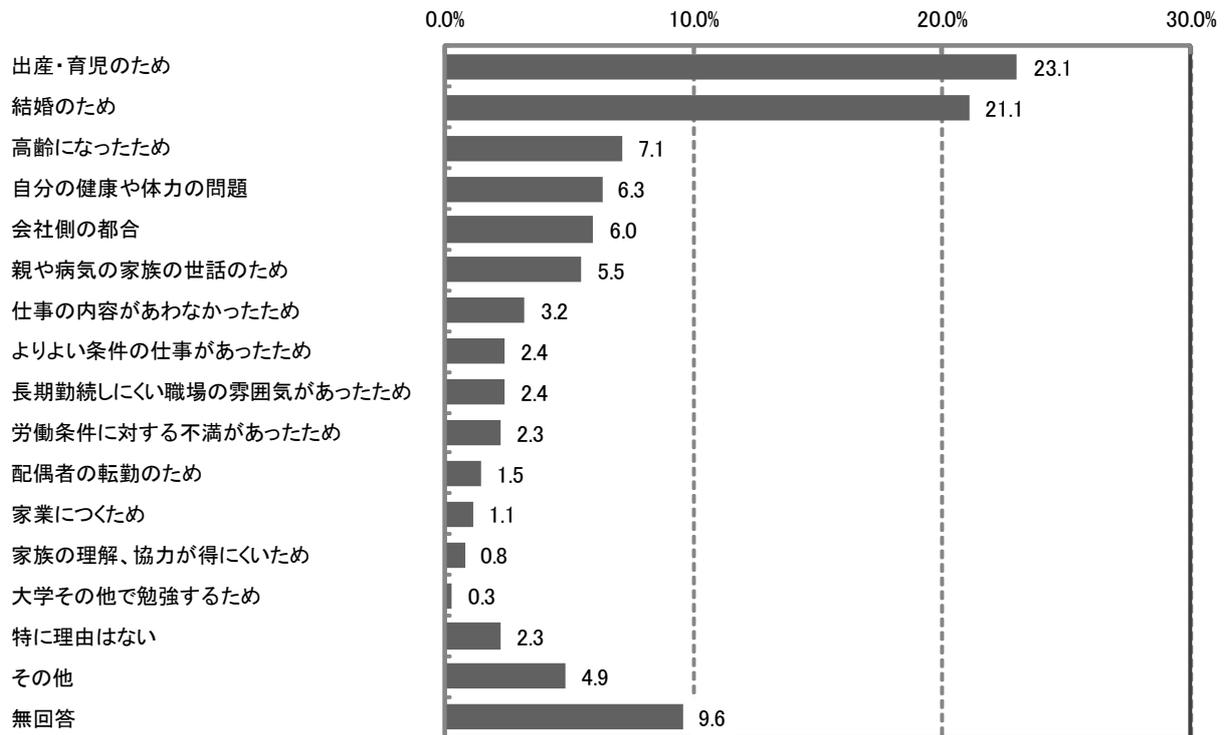
[仕事を辞めた、中断した理由]



男性 (n=369)



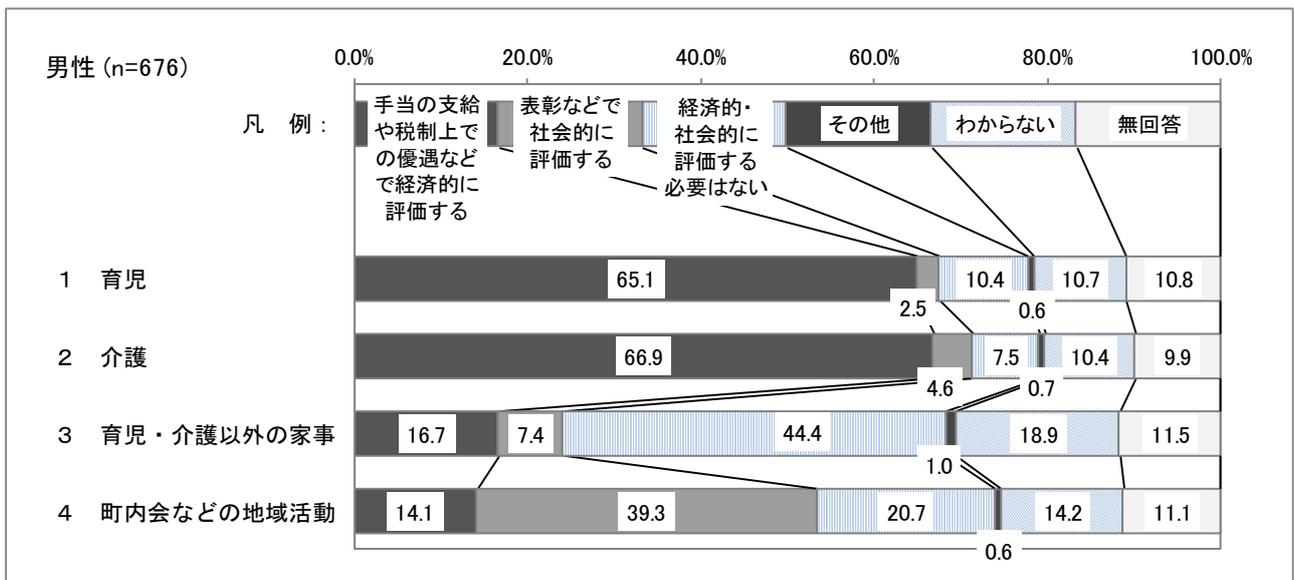
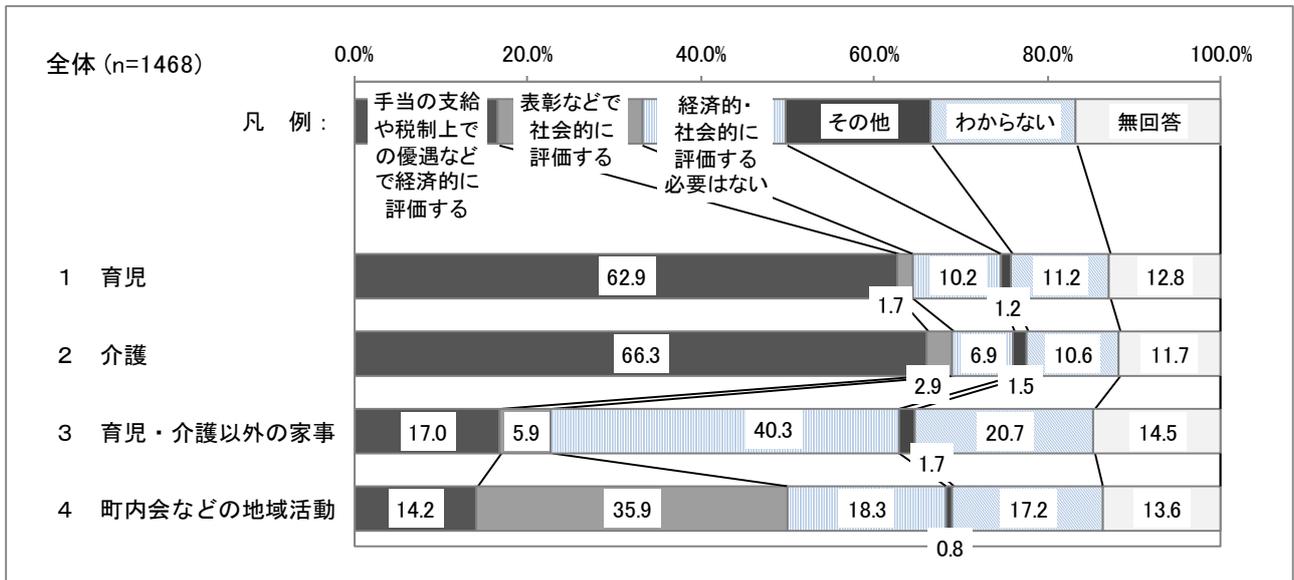
女性 (n=616)

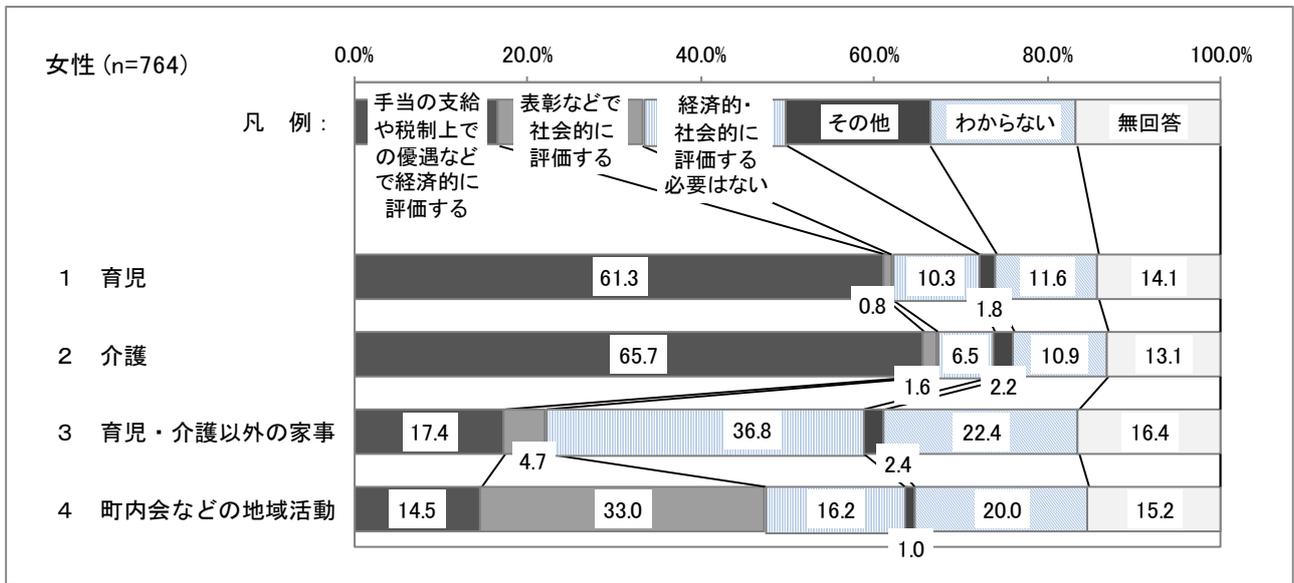


女性のうち 80.6% が離職を経験しており、そのうち「出産・育児のため」と「結婚のため」で全体の半数近くを占めている。

(17) 家庭での役割の評価

【設問】「育児・介護などの家庭で担われている役割は社会的にも重要であるため、社会全体で評価していこう」という考えがありますが、あなたは具体的にどのような形で評価する必要がありますか。1～5までのそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。



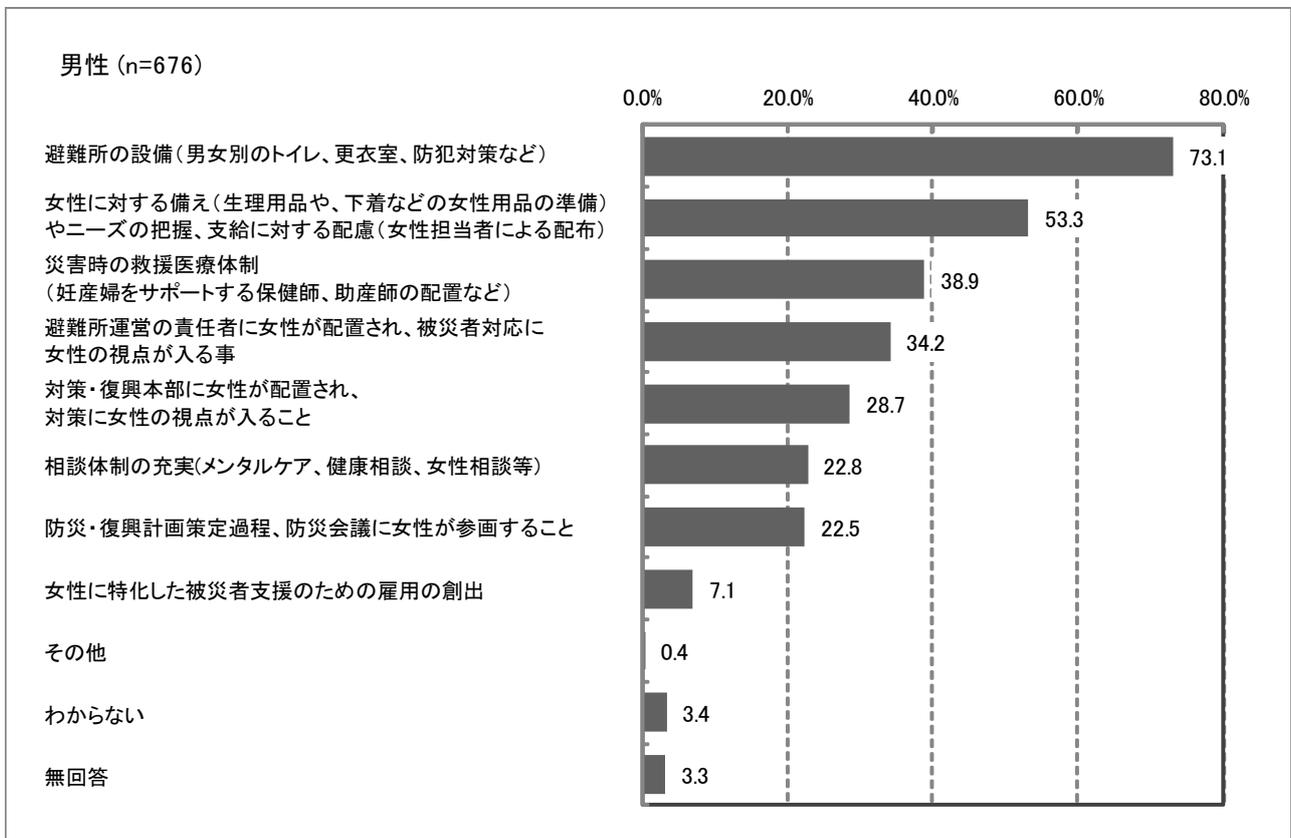
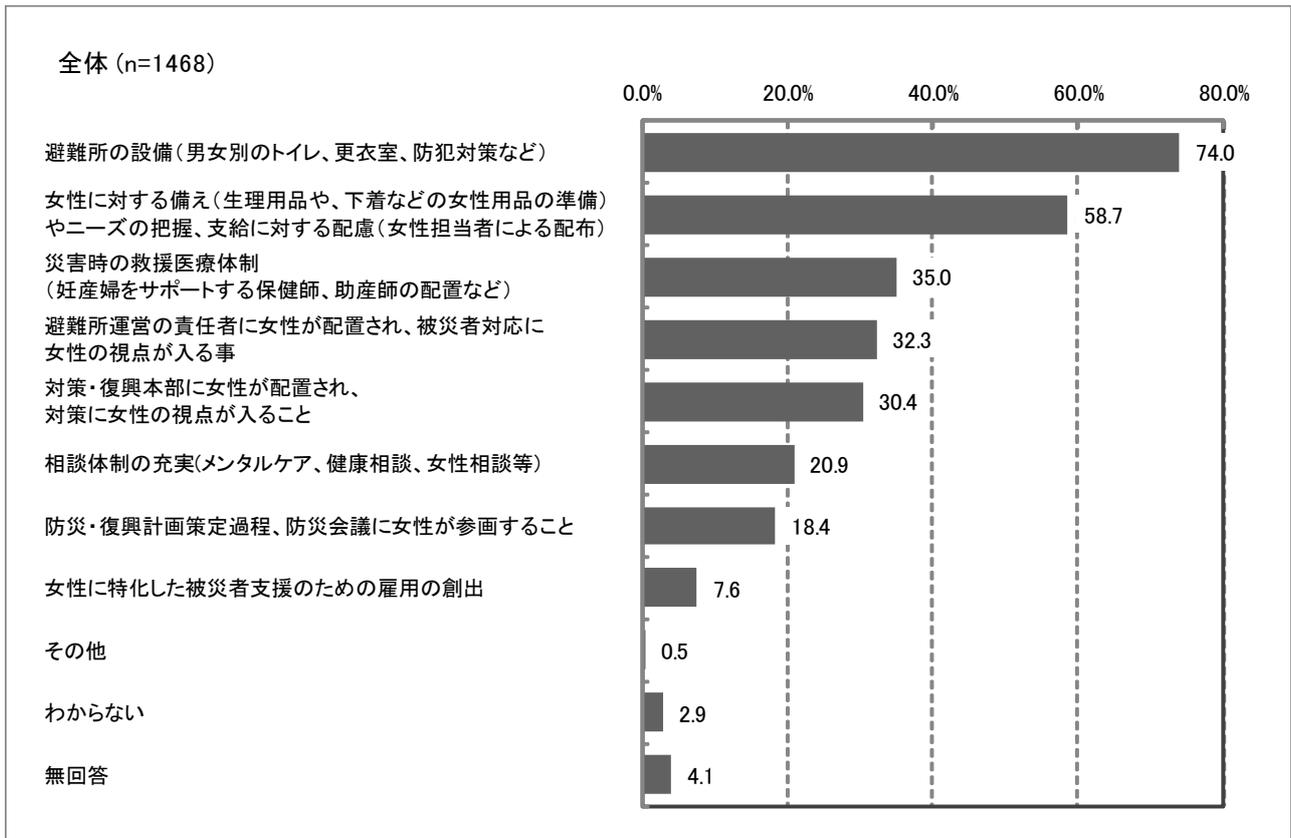


「育児」や「介護」では、男女共に約60%以上が「手当の支給や税制上での優遇などで経済的に評価する」が必要と感じているが、「育児・介護以外の家事」は「経済的・社会的に評価する必要はない」が40.3%と最も高くなっている。

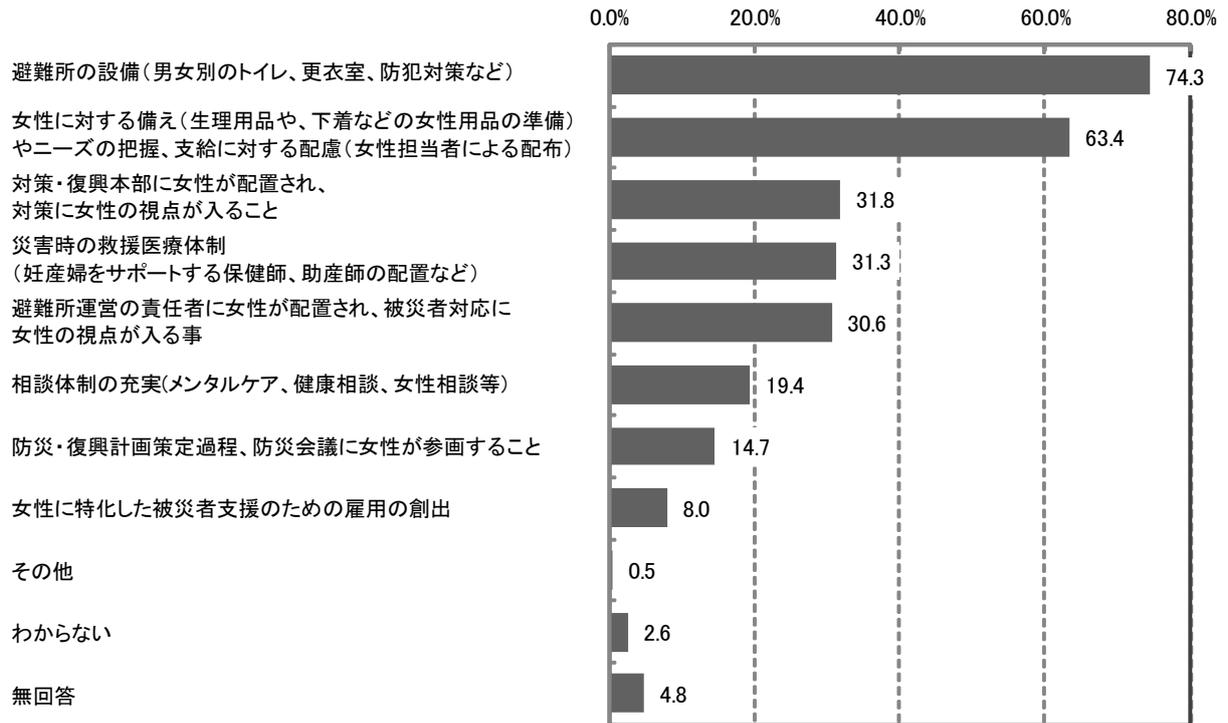
「町内会などの地域活動」は経済的な評価より、「表彰などで社会的に評価する」との回答が35.9%と最も高くなっている。

(18) 防災・災害復興対策で性別の配慮が必要なこと

【設問】 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思う事は何ですか。主なものの3つを選んで○をつけてください。



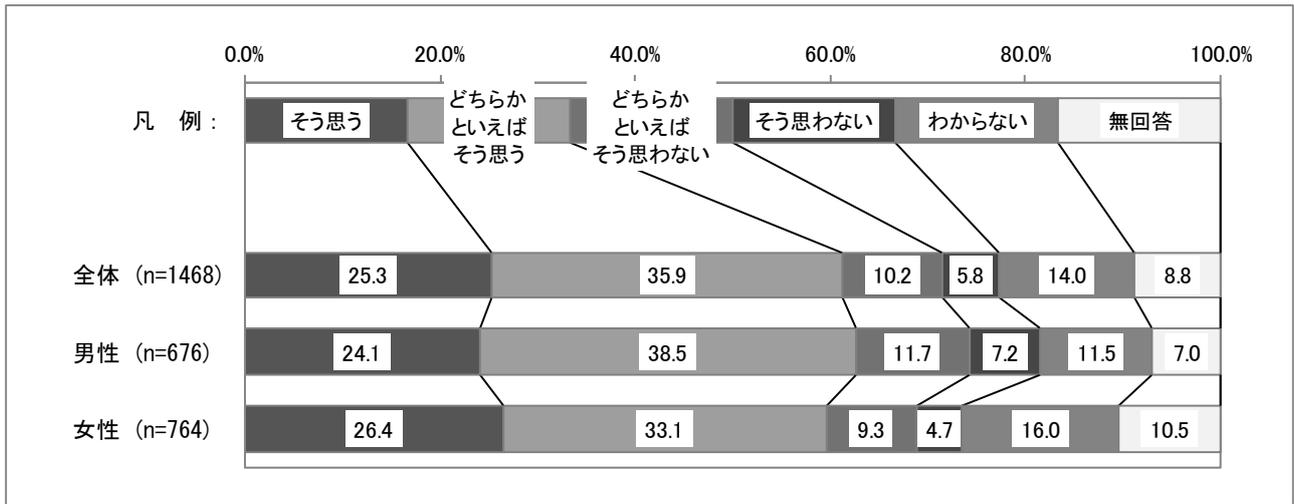
女性 (n=764)



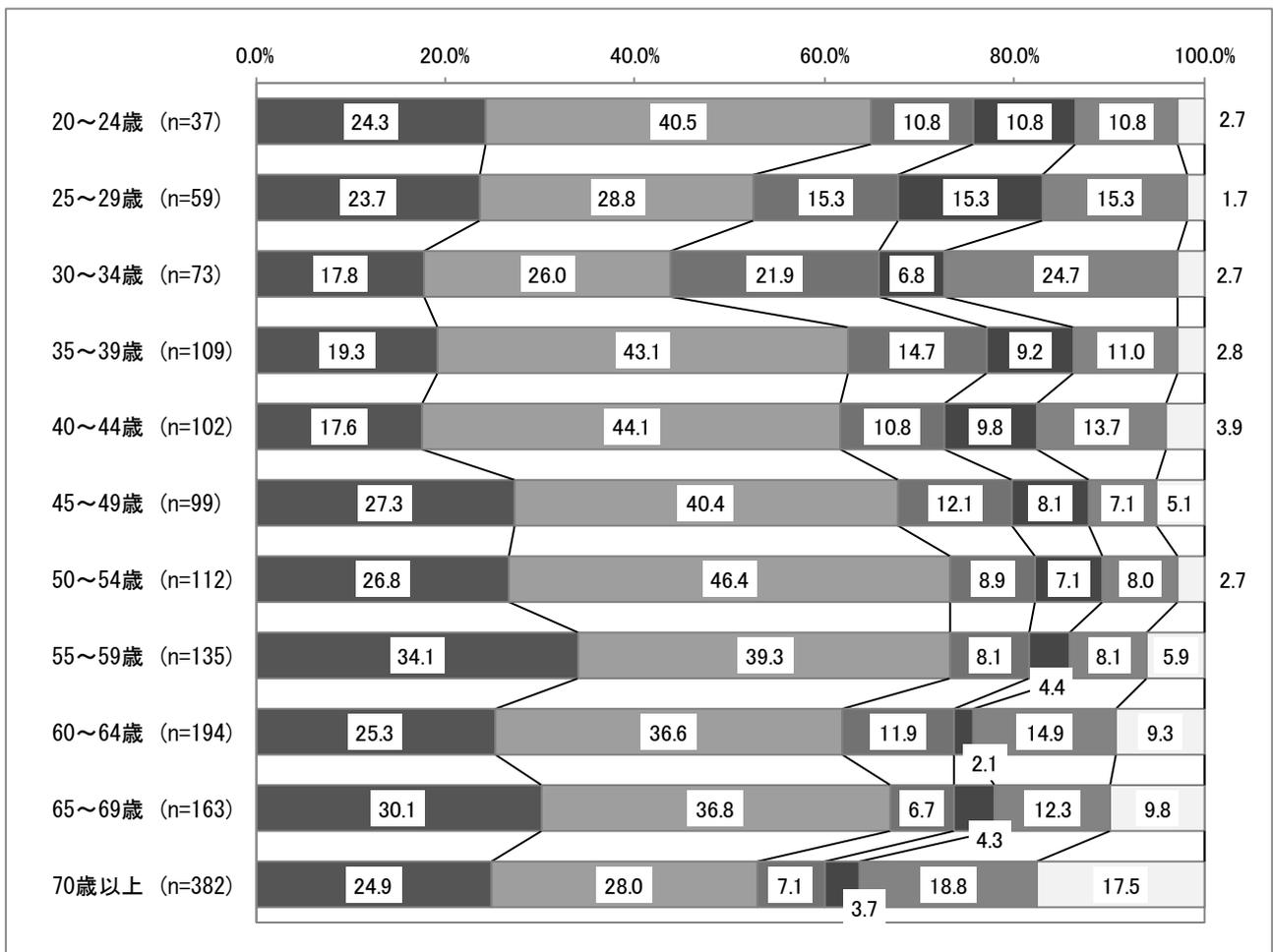
男女共に、「避難所の設備」、「女性に対する備え」と回答した割合が他の項目と比べて非常に高くなっている。一方で、対策本部や避難所運営への女性の参画に対する意識は、3割程度となっている。

(19) メディアにおける性・暴力表現

【設問】あなたは、テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどでのメディアにおける性・暴力表現について、問題があると思いますか。

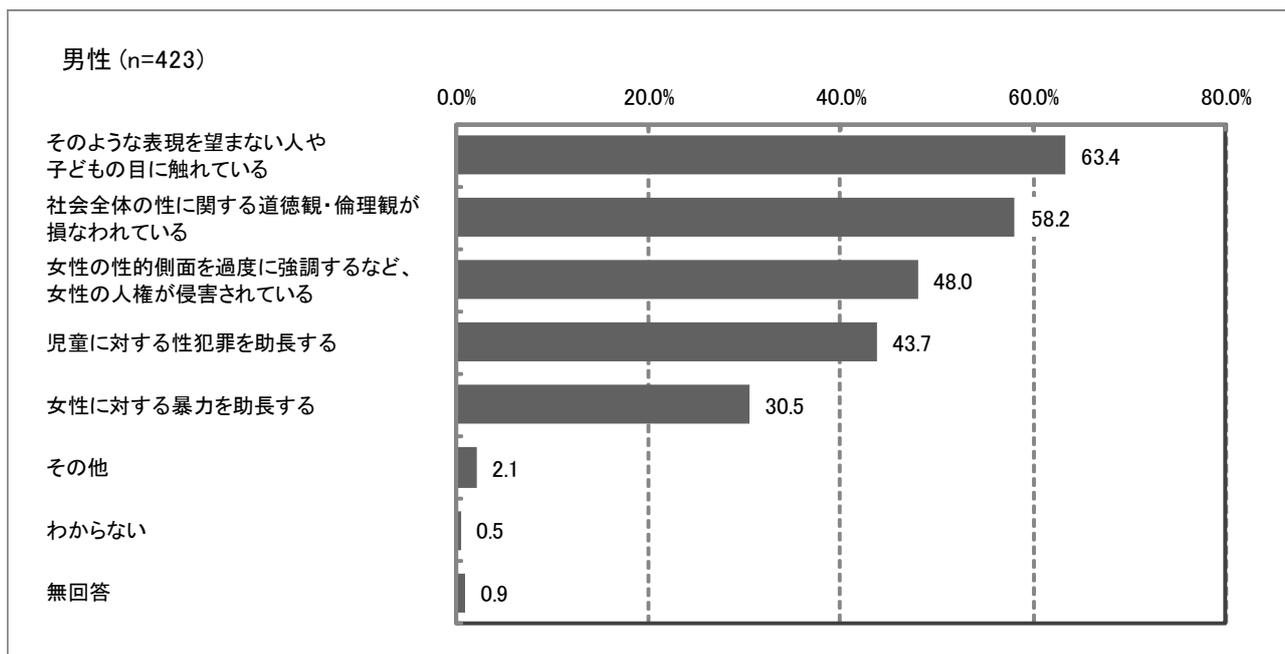
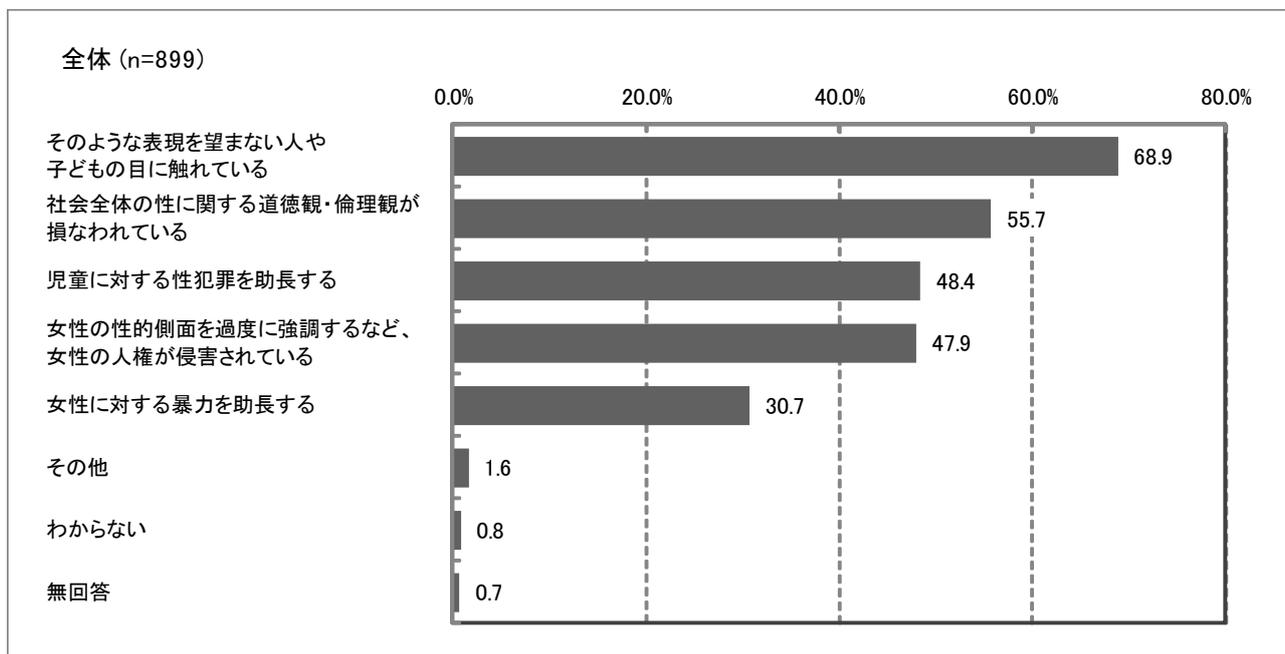


[年代別]

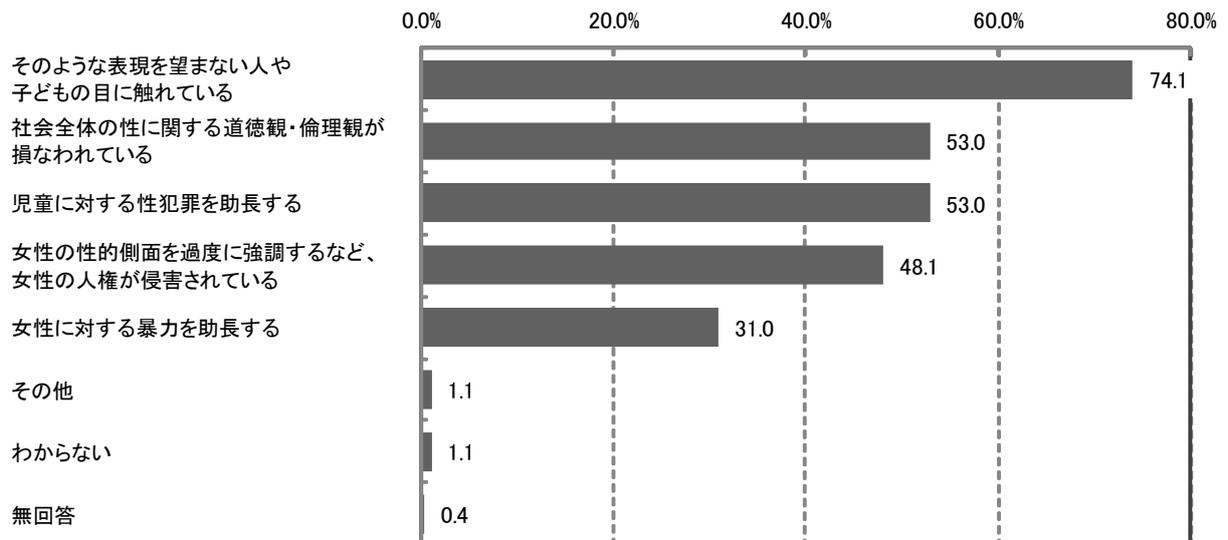


男女共に「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の回答が50～60%台となっている。但し、年代別では30～34歳が「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合が最も高くなっている。

【設問】（前問の問いに対して「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」とお答えされた方のみお答えください。）テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどでのメディアにおける性・暴力表現について、どのような点で問題があると思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

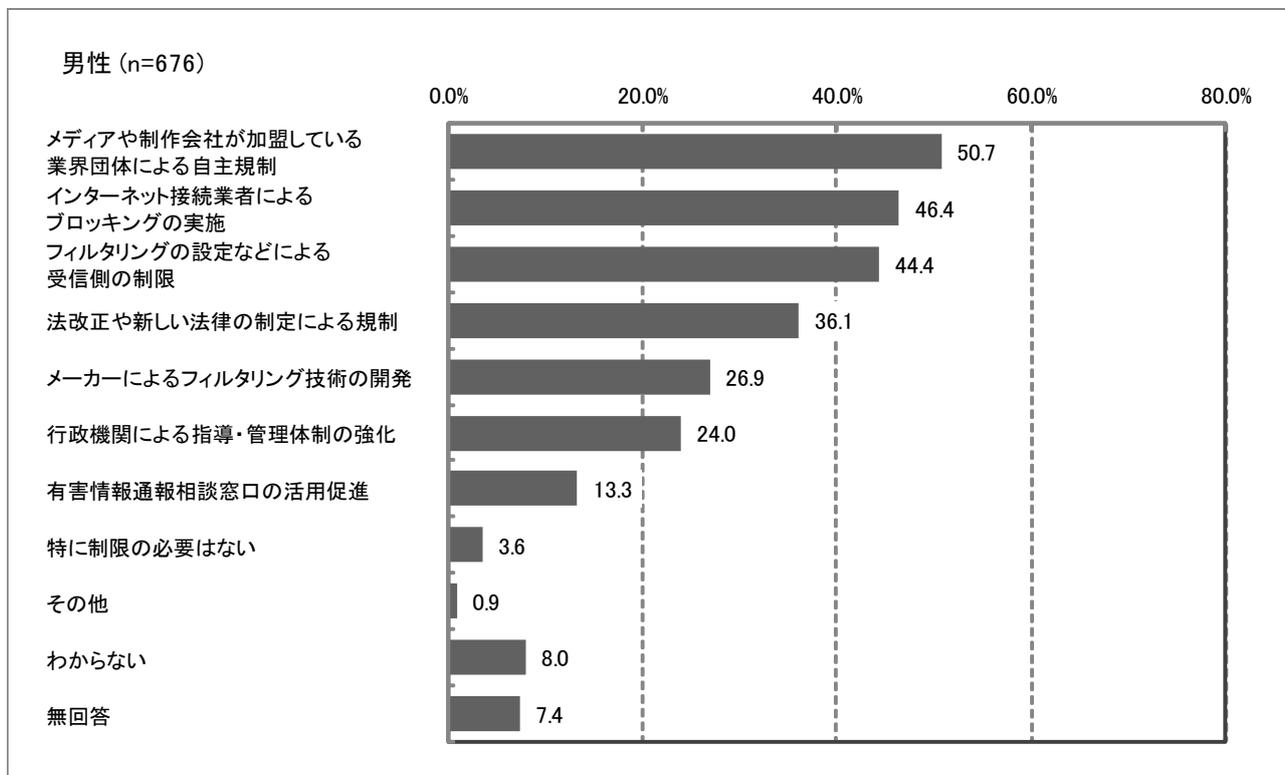
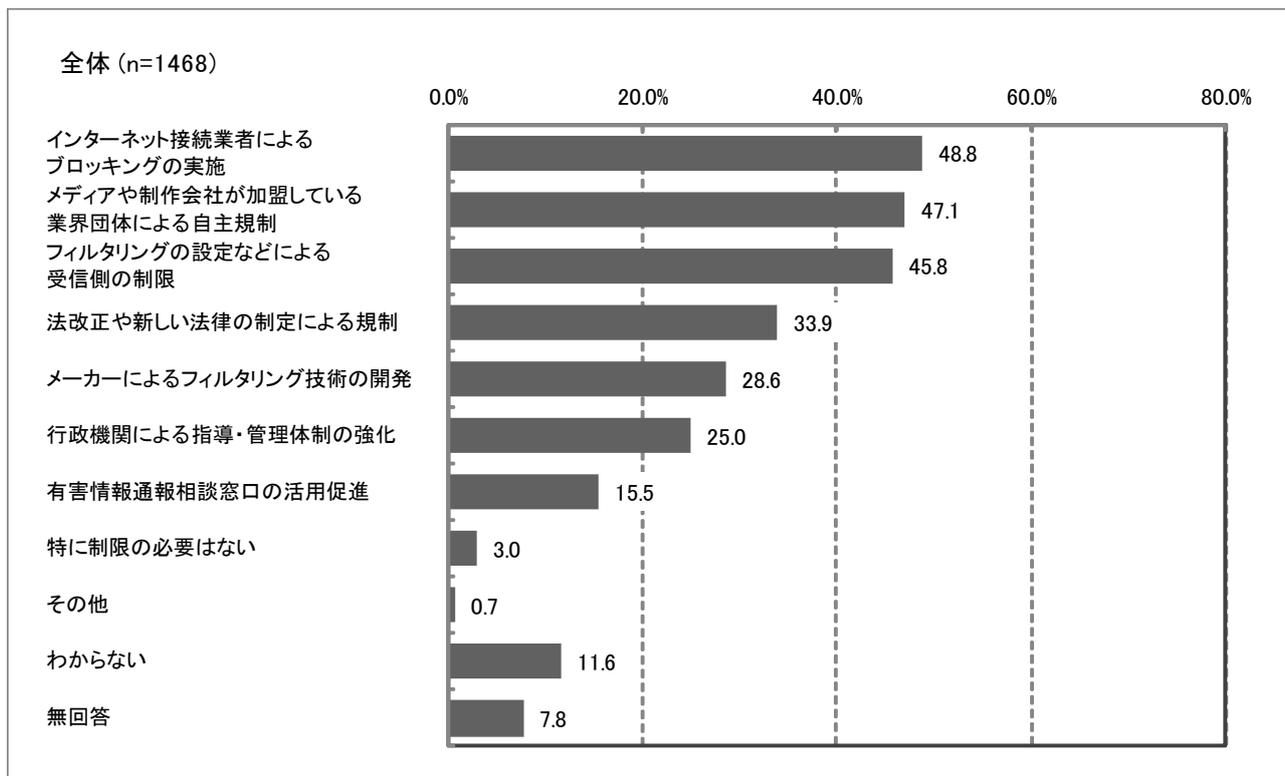


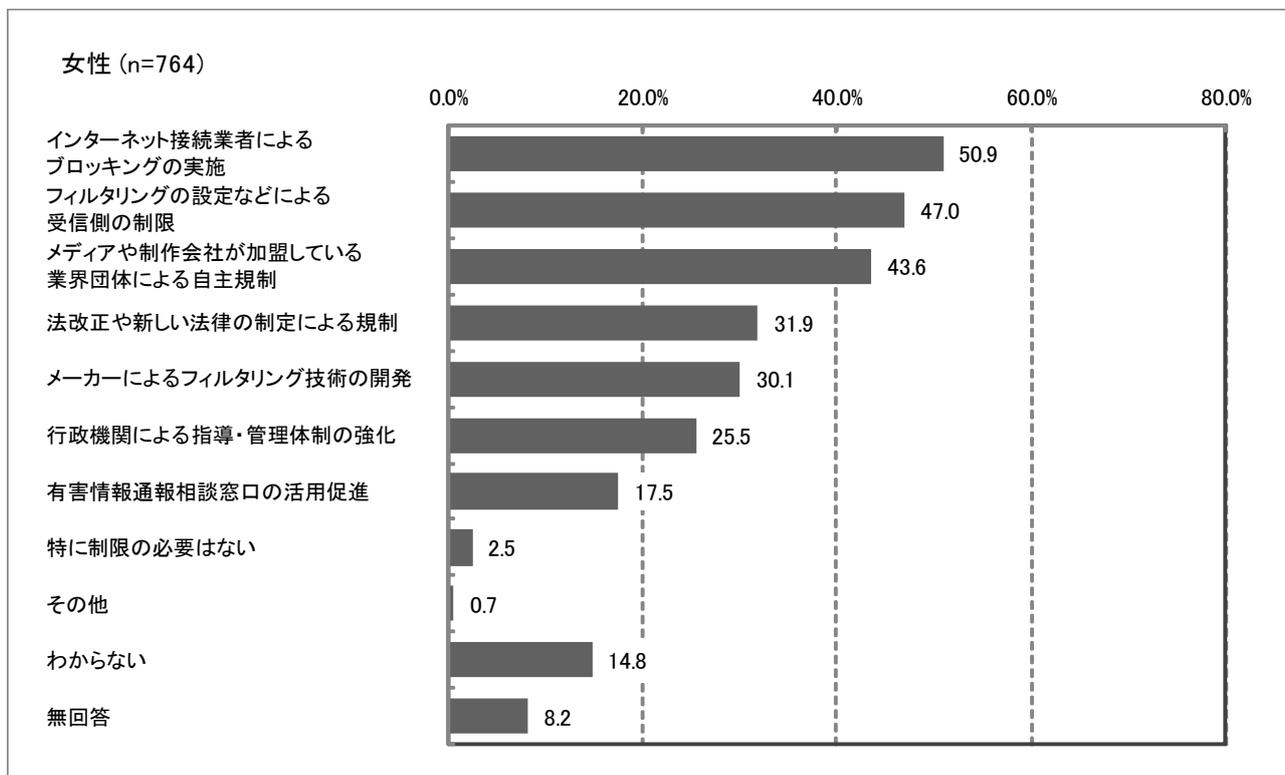
女性 (n=455)



メディアにおける性暴力表現について、問題があると回答した人のうち、特に女性においては「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」が74.1%と高い値となり「性・暴力表現」への問題意識が高い傾向がある。

【設問】（全員の方がお答えください。）テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどのメディアにおける性・暴力表現について制限をする場合、どのような方法で制限するのがよいと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。





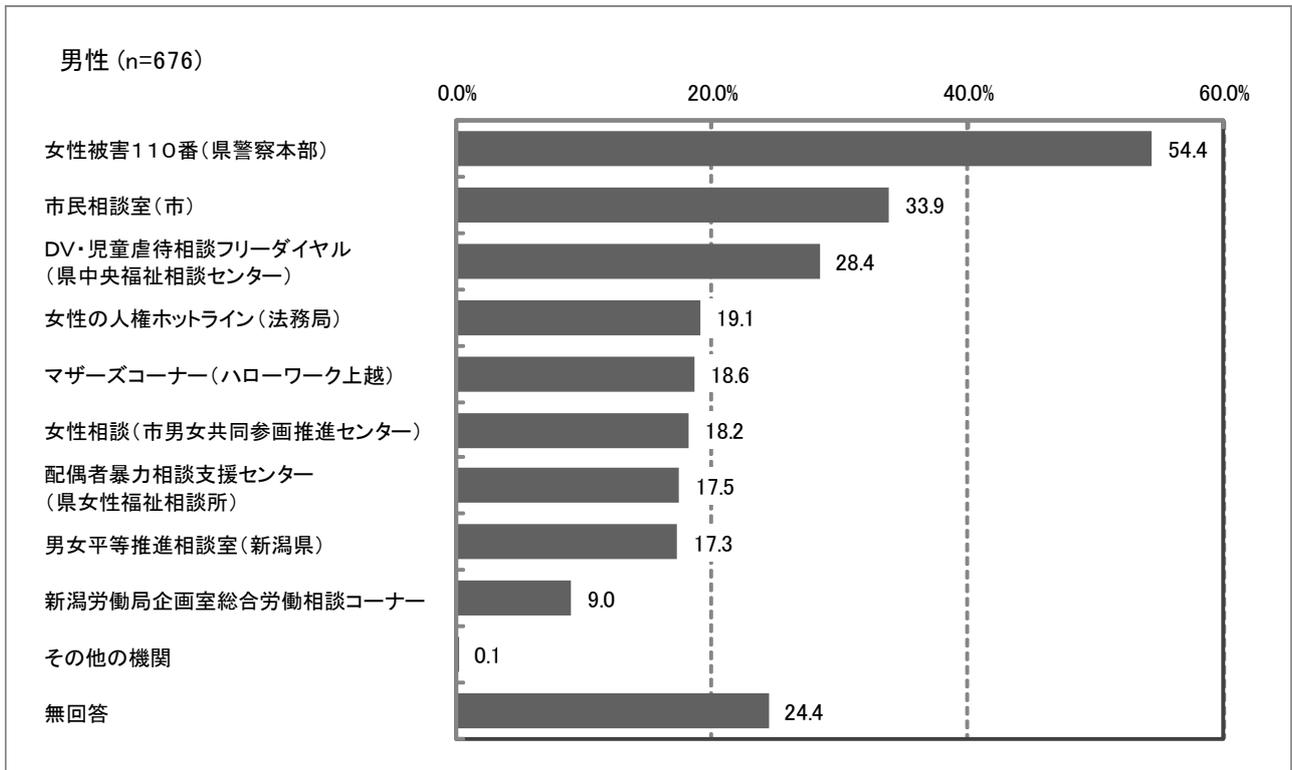
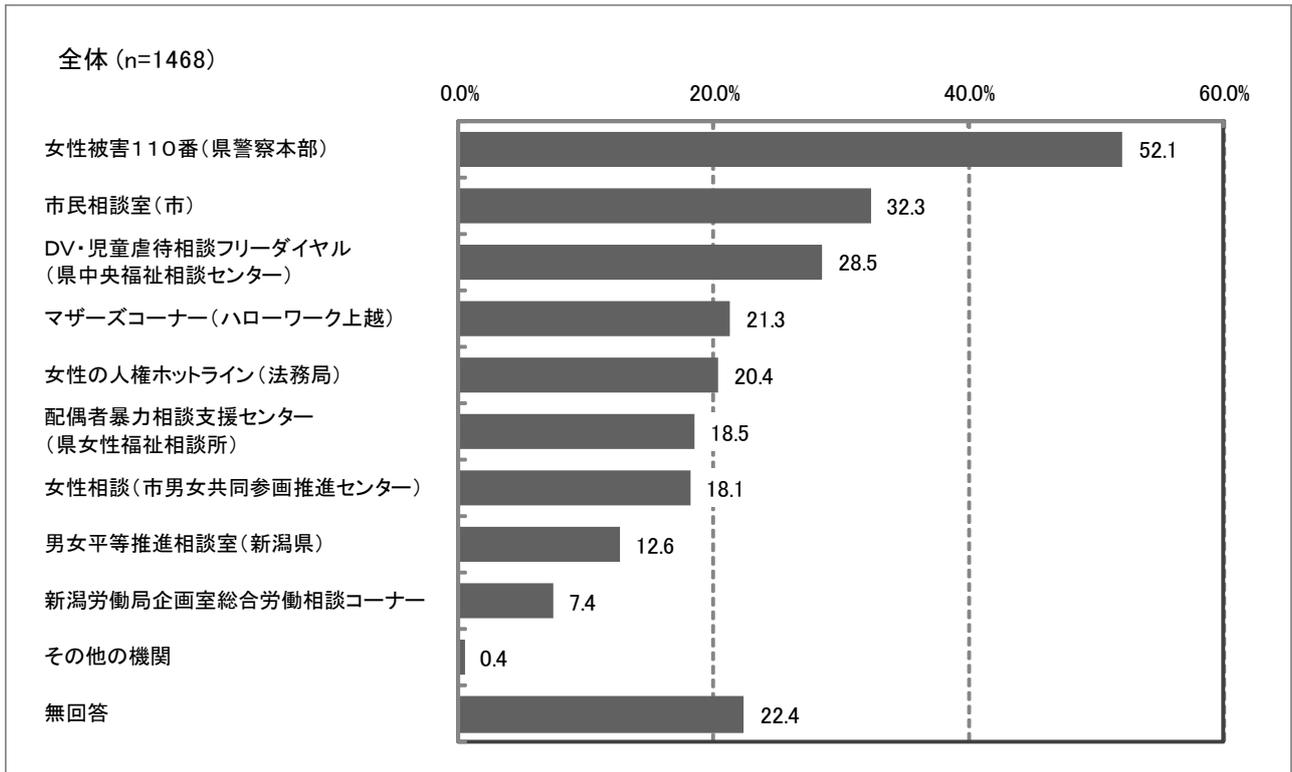
※1 「ブロッキング」とは、インターネットにアクセスするためのサービスを提供している接続業者において、有害なサイトへのアクセスを遮断する手法です。

※2 「フィルタリング」とは、携帯電話やパソコンなどでインターネットを利用する際に、有害なサイト（インターネット上で情報が掲載されている場所）へのアクセス（接続）を制限する機能です。

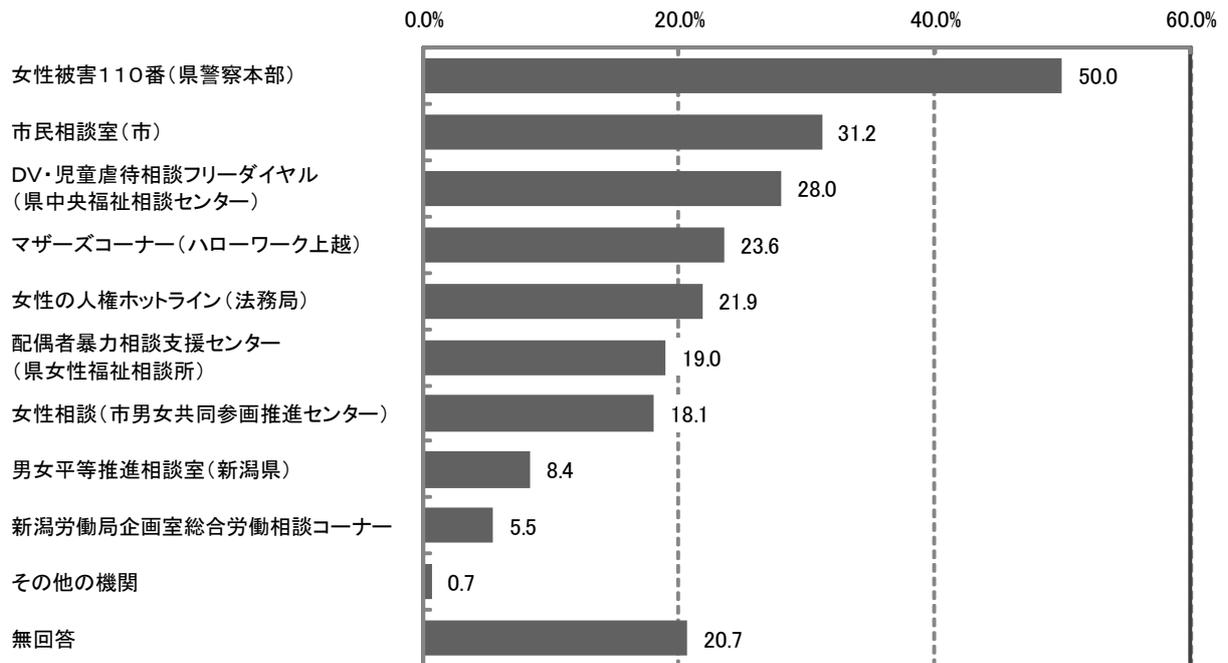
「インターネット接続業者によるブロッキングの実施」、「メディアや制作会社が加盟している業界団体による自主規制」が 40%を超え、情報発信側の規制を求める意見が多い。また、「フィルタリングの設定などによる受信側の制限」が前回調査と比べ 12.8 ポイントの増加となっており、閲覧制限に関する認識が高まってきていると考えられる。

(20) 女性に関する相談機関の認知度

【設問】女性が抱えている悩みを相談するところについて、ご存知の機関全てに○をつけてください。



女性 (n=764)



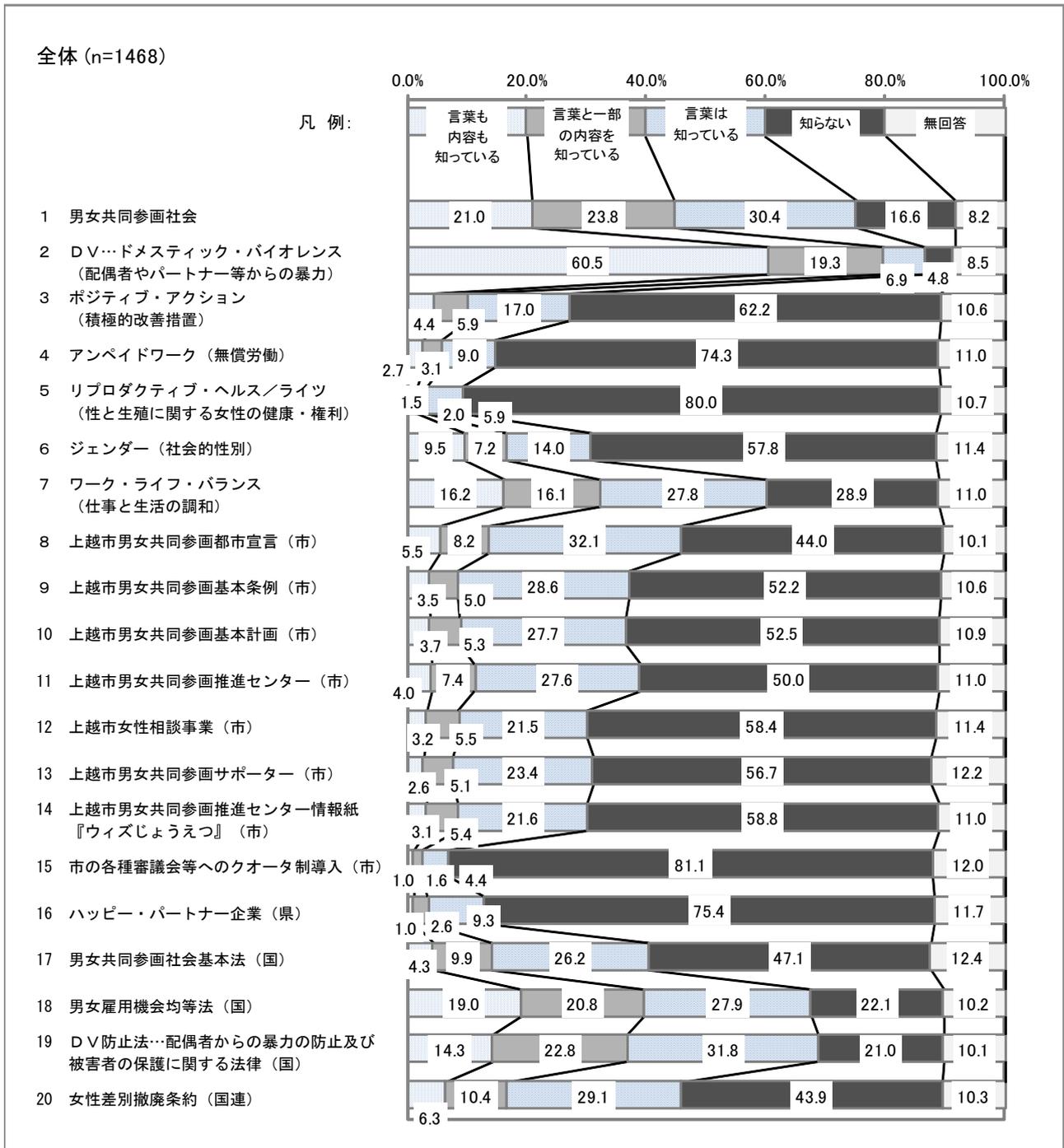
「女性被害 110 番 (県警察本部)」の認知度が男女問わず最も高く、全体で 52.1%と、前回調査と比べ 9.4 ポイントの増加となっている。

また、「DV・児童虐待相談フリーダイヤル」が 28.5%と、前回調査と比べ 5.8 ポイント、「マザーズコーナー」が、21.3%と 6.2 ポイントの増加となっている。

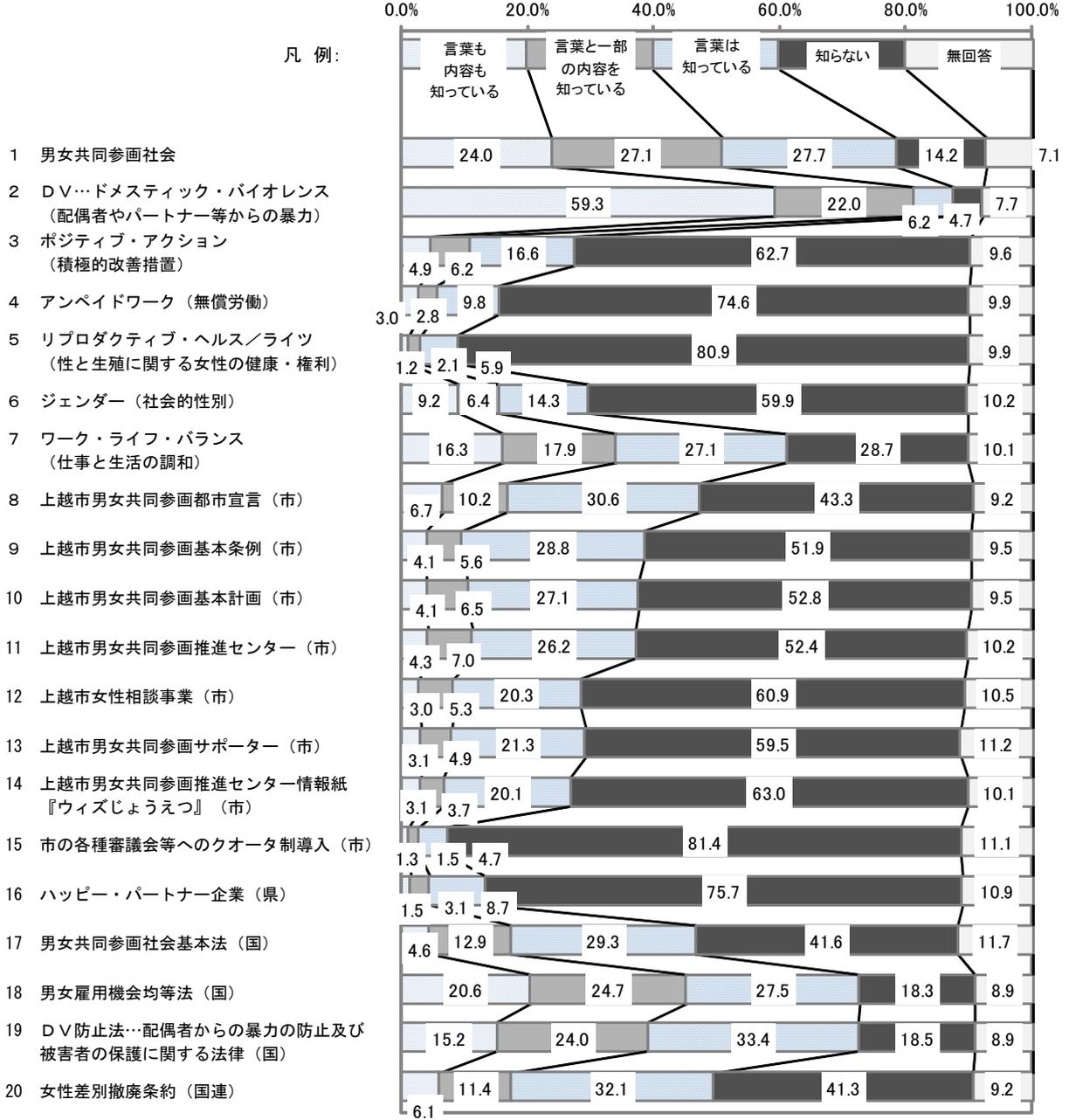
一方、市の女性相談の認知度は 0.5 ポイント減となっている。

(21) 男女共同参画に関することば及び国・県・市の取組の認知度

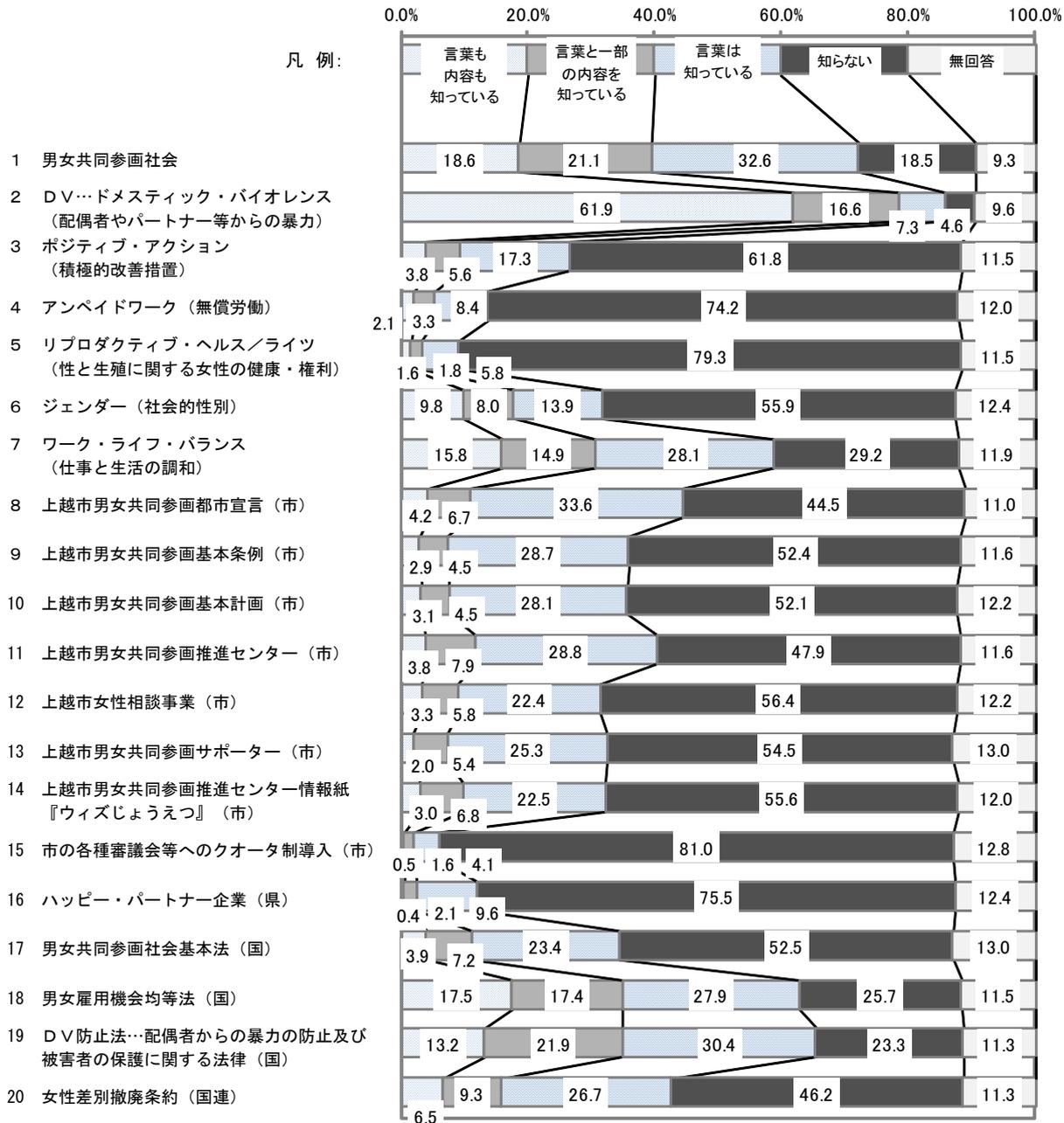
【設問】あなたは、次に掲げるものの名称やことばについてご存知ですか。1～20のそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。



男性 (n=676)



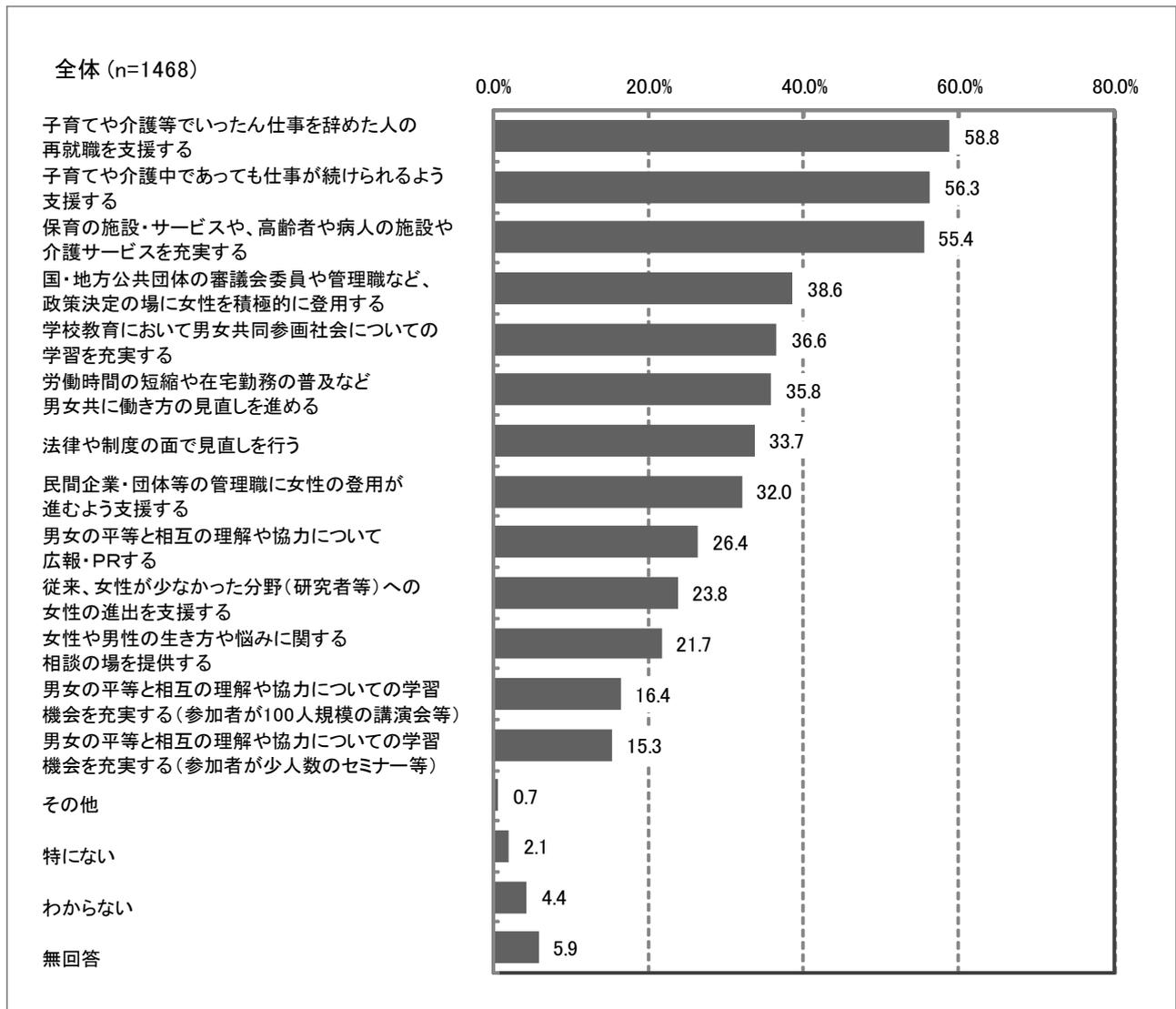
女性 (n=764)



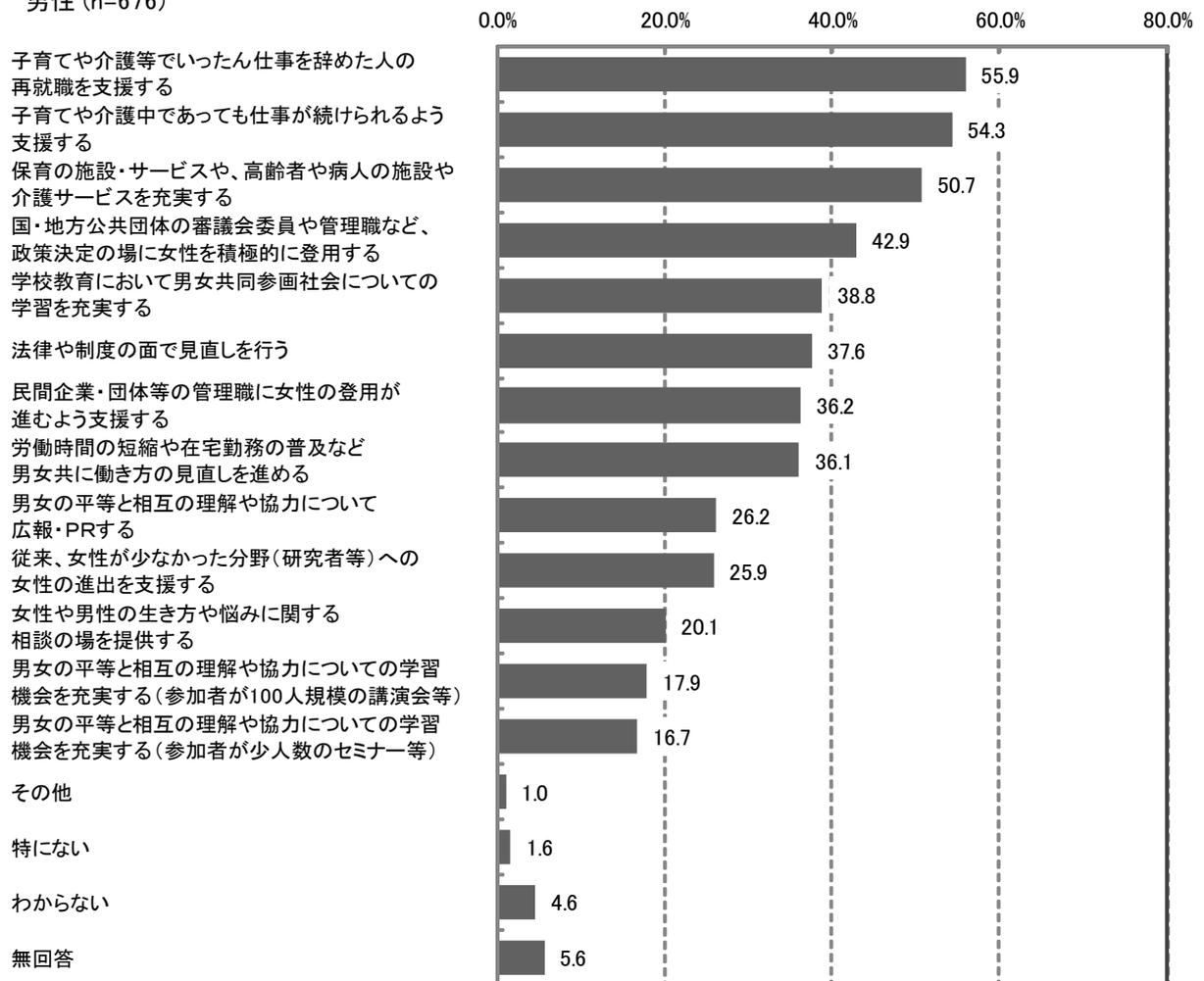
「男女共同参画社会」について、「言葉も内容も知っている」、「言葉と一部の内容を知っている」と答えた割合が合わせて44.8%と、前回調査35.9%と比較して、8.9ポイント上昇し、認知度は高まっていることが伺える。しかしながら、関連する言葉や事業について、「知らない」との回答が50%以上を超えるものも多く、浸透していない部分もある。

(22) 行政の今後の取組

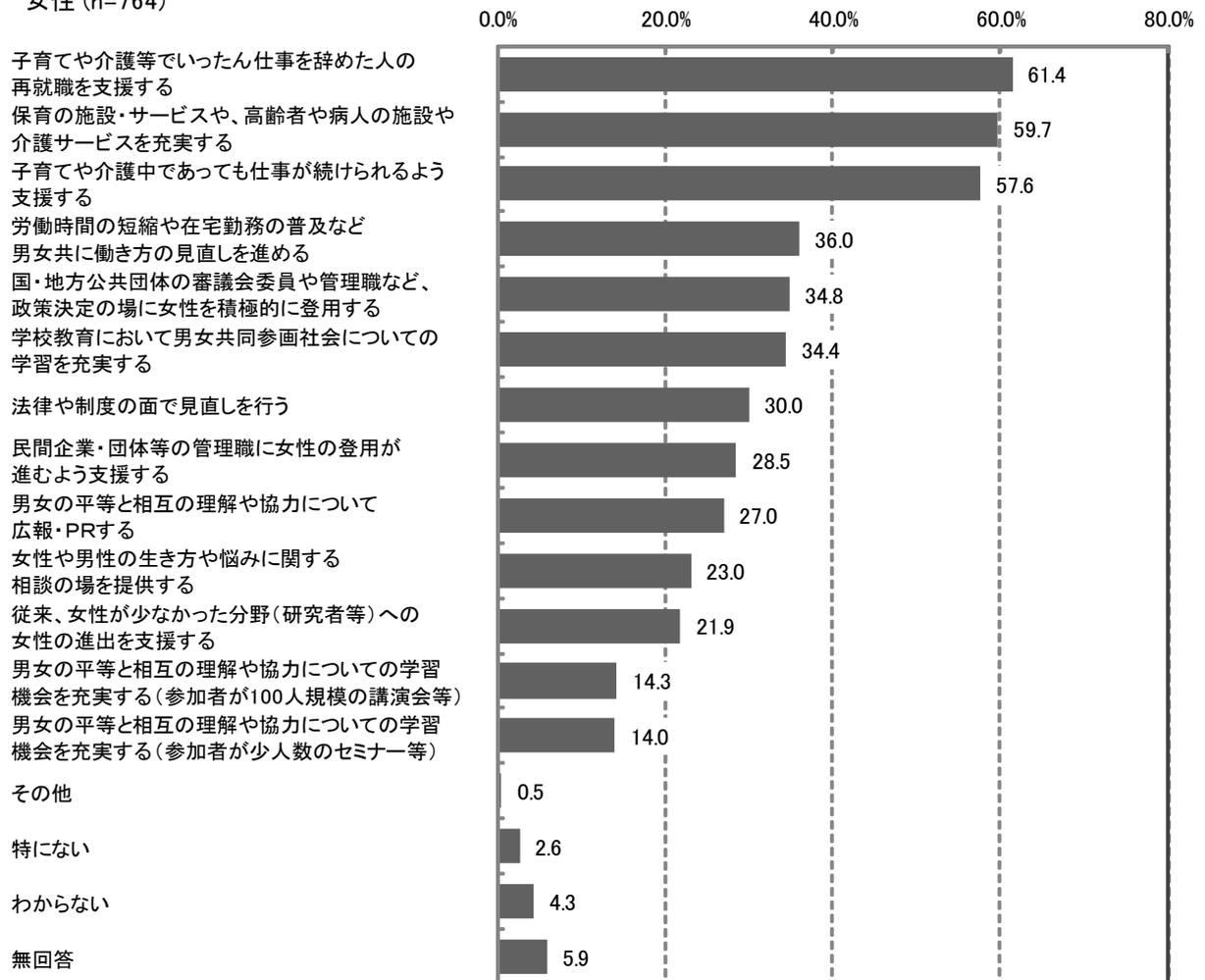
【設問】「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。



男性 (n=676)



女性 (n=764)



前回調査と同様に、再就職の支援や、子育て・介護・仕事の両立を求める意見が多い。また、講演会やセミナーなどの学習機会の充実については 15.3%~16.4%と他の項目と比べ低い結果となった。

意識啓発よりも行政サービス、支援の充実や拡充を求める意見が前回調査と同様に上位を占めている傾向にある。

(23) その他、自由記入など

各設問に関しての、主な意見は、次のとおりである。

各項目のカッコ内の件数は、寄せられた意見の数であるが、他の項目との重複も含む。

【問4】家庭での夫婦の役割分担について、どうあるべきだと思いますか。

(主な意見)

理想(14件)

- 生活の状況やお互いの事を考え必要だと思われることをできる範囲です。(40代男性)
- 仕事の有無に関わらず、家事を分担する。(30代女性)
- 性別は問わないが、子供が小さい時はどちらか一人が家庭にいた方が良い。(50代女性)

現実(17件)

- 夫も主に仕事をし、妻が主に家事等をする。(30代男性)
- 夫も妻も仕事を持っているので、姑が食事家事全部をする。(70代以上男性)
- 定年後は仕事、家事等ともにしている。(60代女性)
- 母子家庭のため、1人で行っている。(20代女性)

【問6】あなたが女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてでしょうか。

(47件)

(主な意見)

- 男は外、女は家という昔からの考えが、現代も根底に残っている。(60代女性)
- 社会・政治等における発言権が弱いと思う。(30代男性)
- 職場や社会での女性の昇進が少ない(70代以上男性)
- 子どものいない既婚女性(または男性)に対し「早く子供を産め」「作れ」という。ほとんど善意のつもりだが、相手を傷つける。人権無視だと思う。(30代女性)
- 職場でも、ゴミ出しやお茶出しが女性の仕事になってしまっていること。(30代女性)
- 仕事での責任者が女性である場合でも、男の責任者を呼べとクレームを受けること。(50代女性)

【問11】仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現のためにどのようなことが必要だと思いますか(40件)

(主な意見)

- 仕事と生活のバランスは人それぞれ違う。各人の希望になるべく沿うような形での職場配置をする。(40代男性)
- 理想だけど企業がリーダーシップをなかなか取らないのが現実。(70代以上男性)
- 主に職場での個性の尊重。業務に関係なくとも、集団に溶け込まないと、与えられる仕事に差がある。有休が全く使えず、休日出勤が当たり前の企業が多い。古く閉鎖的な考えが、個人のバランスを支配している。バランスが過剰に「仕事」に引っ張られる。(休日までも)(30代男性)
- 仕事も生活も大切にすべきだという社会概念の定着。(50代女性)
- 個人の価値観の共有。(30代女性)
- 自営業者に対する制度の普及。(50代男性)
- 現状の取組は設問の1、2、3等を実施しているが、現場サイドでは無理がある。(40代女性)

【問12】 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(35件)

(主な意見)

- 企業サイドからの積極的な働きかけ。(30代女性)
- 男性自身の意欲を高めてほしい。(30代女性)
- 国がサービス残業などを取り締まり、家庭の時間を作れるようにする。(20代男性)
- 男性の家事、育児参加を事業主が理解する。その上で育児休業等をとれるよう職場環境の改善。
(30代男性)
- 男性による家事・子育て・介護・地域活動について、女性は当たり前、男性だけ評価が高まるのもどうでしょう。私が中学の頃、女→家庭科、男→技術科と、女子と男子で授業が分けられている事がありました。学校教育の中で男女ともにもっと家庭に対して関心を持てるようにして欲しいです。
(30代女性)
- 男性による家事、子育て等について、職場での理解と推進を図る。(60代女性)

【問13】 あなたが、次にあげるような職業や役職において今後女性がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。(28件)

(主な意見)

- 能力によるものは性別関係なし。(60代男性)
- 育児、介護の環境が整備されれば必然的に増えるのでは。(70代以上男性)
- 男女を問わずその道の優れた人が評価の高い人がお仕事されればよいと思います。(30代女性)
- 男女問わずやる気のある方を望みます。(60代女性)
- 職業も役職も女性自身、自分の能力で獲得して行って欲しいです。(60代女性)

【問14】 PTAや町内会などの地域団体の役員の長に女性が就くことの妨げとなっている主な原因は何だと思いますか。(38件)

(主な意見)

- 家庭での理解、援助が得られないのではないかと。(60代男性)
- 男女の問題ではなく、人の問題。(30代男性)
- 男性がするという古い習慣がある。(30代女性)
- 町内会会議には、若い女性が出席しない。高齢者の女性が多い。(50代男性)
- 育児中は子供を連れての会議、集まり、会合等と、夕方、夜の会議に出席できないから。
(40代女性)
- 地域の役員は女性もふさわしいと思われる方があれば推薦した方がよい。同じメンバーの役員よりも、年度ごとに交代すると新しい役員の組織活動が街の活性化になると思う。(70代以上女性)
- 言う力があればいいと思っております。(50代女性)

【問15】 女性が職業を持つことについて、望ましい姿だと考えるものを教えてください。

(主な意見)

理想：21件

- 職業を持ってもらいが、子供が小さいうちは子どもを優先に考える。(30代女性)
- 子供ができて職業を持つが、育児・家庭生活の時間を確保できる働き方をする。(30代女性)
- 職業という枠にとらわれなく、収入で考えるべき。(20代男性)

- 育児休業を取りやすく、休業期間中の給与をある程度支給する事。(50代女性)

現実：23件

- 現実的には公務員、一部大企業では条件が良いが、中小企業では実際に法で決められても難しい。
(特に産休等はとりたくとも休めないのが現実でないか。)(70代以上男性)
- 出産しても仕事を持たないと生活が苦しい。(50代女性)
- 子どもが小学校に行くまでは職業を持ちづらい。(30代男性)
- 育児が終わったら再び職業を持ちたいが、親の介護もある。(50代女性)
- 人が決めるものではない。自分が働きたければ働けば良い。(70代以上女性)

【問16】 男性が育児休暇を取得しづらい(しない)理由として考えられるものを教えてください。(24件)

(主な意見)

- 育児休暇制度があっても取ることで(マイナス等)将来昇給に不安。(70代以上男性)
- 職場全体で男性の育休取得率(取得実績)が極めて少なく、取りづらい。
業務多忙、職員数減だったりすれば特に。取得したくても言い出しにくい風潮が根強くある。
育休取得→復帰にあたり、職務上の不利益が生じるかもしれないから。(30代女性)
- 男が仕事をし、女が育児をするものだという考えを持っている。男の職場で、上司もそういう考えを持つ人が多い。(30代女性)
- 昔から男性は外で働くというイメージが強いため。(40代女性)

【問19】 仕事を辞めたり、中断したり、あるいは転職した理由は何ですか。(68件)

(主な意見)

- 出産、育児のため長時間仕事ができなくなり、そういう雰囲気もあったため。(70代以上女性)
- 妊活のため。(職場(女性の上司)に理解してもらえなかったため)(60代女性)
- セクハラされたことがある。(30代女性)
- 上司のパワハラ。(40代女性)
- 孫出産のため、育児を引き受けるため。(70代以上男性)
- 親の死別による祖母の介護。(70代以上男性)

【問20】「育児・介護などの家庭で担われている役割の評価」について、あなたは具体的にどのような形で評価することが必要だと思いますか。

(主な意見)

育児：17件

- 経済的に評価するという事もいいとは思いますが、家庭での評価もあるととってもいいと思います。
(40代女性)
- 周囲の人たちの意識改革が必要。「ほめる」ことだけでも良いと思う。(20代女性)
- 育児や介護は大変なので、経済的にも評価してほしいが、1週間くらい代行してくれる信頼できる人材が欲しい。(30代女性)
- 親として自分の心の中に喜びを見出すもの。昔の親たちはそうやって命がけで育ててきた。
(70代以上男性)

介護：20件

- わざわざ評価せずとも当たり前を当たり前で尊重できる社会が良い。(30代女性)
- 介護保険が一定の役割を果たしていると思うが、施設が不足している。(60代男性)
- 手当の支給や、税制上で優遇に加えて、介護をする方の精神面のケア。(20代女性)
- 家庭介護の充実を図る。介護を受ける以前に、家族という考え方をしっかりと親子で作る事が必要であり、核家族状態の解消を図る事が必要である。(70代以上男性)

育児・介護以外の家事：20件

- 育児・介護などについては理解が少しあるかもしれないが、家事、地域活動については暇な人がやるものだろうと言われることがある。どんなことも大事だとみんなが思っている世の中になるといいと思う。(40代女性)
- 家族みんなが分かってくれて、協力してくれれば(少しでも)いい。(40代女性)
- 家事についての交流会や話し合いの機会などがあったら良いと思う。(60代女性)
- 機運を盛り上げていく。家事も立派な社会貢献。(30代男性)

町内会などの地域活動：12件

- 町内会等の活動については、それなりの手当等がある場合が多い。又、「志」がある人が前向きに行っているケースが多い事があるためその気持ちも尊重すべき。(50代男性)
- 積雪時の除雪などへの町内への支援。(70代以上男性)
- 昔のように隣近所の付き合いがなくなり、周りが分からない。(70代以上女性)

【問21】 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思う事は何ですか。
(6件)

(主な意見)

- 病気の治療中で免疫が下がっている人(抗がん剤治療中など)に対して、隔離できるようなスペースの確保。(30代女性)
- 避難所運営の責任者に限定せず、女性視点であったり、理想とする構想が実現できる実行力のある人の配置であったり、人事の実行、そうすることで、設問の内容について網羅することも可能ではないでしょうか。(30代女性)

【問23】 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどでのメディアにおける性・暴力表現について、どのような点で問題があると思いますか。(22件)

(主な意見)

- CMで女性がさせられている仕草で非常に不快なものがある。販売促進につながると思えない。
(40代女性)
- 特に未成年者の場合、性や暴力表現に対して免疫がないと思うので、何が危険で怖い事かの判断が難しいと思います。(30代男性)
- 情報を発信する側に問題があると報道されることが多いが、過度な規制は「報道の自由」の妨げや、知るべきことを知らされない事につながると思う。受け手に対する教育をもっとするべきだと思う。
(子どもなど) (30代男性)
- ゲームはリセットできるが現実の社会では取り返しがつかない場合がある。(60代男性)

【問24】 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどでのメディアにおける性・暴力について制限をする場合、どのような方法で制限するのがよいと思いますか。(9件)

(主な意見)

- 広告等を簡単に載せないようにする。(30代女性)
- 個人の意思の問題だと思う。(30代男性)
- 刺激が強く、色んな犯罪のお手本になりやすい。(70代以上女性)

【問25】 女性が抱えている悩みを相談するところについて、ご存知の機関を教えてください。(4件)

(主な意見)

- 男性の人権ホットラインを。(50代男性)
- 色々な機関がある事は知っているが、名前とか場所は知らない。(70代以上女性)

【問27】 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(9件)

(主な意見)

- 意識改革及び、学校、企業等での啓蒙活動や制度が必要。(30代男性)
- 男女にかかわらず、雇用を創出していく。(30代男性)
- 沢山の相談所があるが、窓口を統合できないのだろうか。どこへ相談して良いか分からないと思う。(40代男性)
- 年輩者の意見を素直に聞ける若者と、若者の言葉を素直に聞き入れる年輩者の相互理解の成り立つ関係、社会人の育成が必要。(50代女性)

【問28】 今後、男女共同参画を推進していくためには、どのように取り組んでいけばよいかご意見・ご要望・ご提案などをご記入ください。(241件)

1. 行政の取組について

(主な意見)

- 男女共同参画に関する上越市のアピールが全く不足しているような気がする。そして、行政が推進してもどうやって現実の社会職場等で機能するのか？ (50代男性)
- 問26(ことばの認知等)について、知らない事が多かったことにショックでした。もっとこの件についてたくさんの方の目に触れ、認識・理解してもらえるPR法を考案して頂けると良いのですが、いかがでしょうか？ (年齢が上がると「市のホームページでもPRしています」と言われてもPC自体を嫌う人がいて見てもらえない事が多いですし…。特に田舎になればなるほど(私の住む地域然り)「男女共同参画」について知らない人が多く、偏見も多いです。男性は外で働き、女性は家庭を守る…という風に。そのような田舎のご高齢の方にも、そんな偏見のなくなる社会となればよいと願います。(30代女性)
- 一部の関係者のみが頑張っておられる様子。市民の多くが目を引くようなPR、参加母体の充実を望みます。(60代女性)

- 子育て等で仕事を辞めた人の再就職をもっと上越市でも支援してほしい（看護師や保育士等、技能を持った人がいると思うので）。子供を産みやすい、育てやすい環境を整備してほしい。
(60代男性)
- 言葉は知っているが、皆なかなか理解されていない。分かってもらうための企画や、学習機会を増やしてほしい。(30代男性)
- 男性が女性に対するセクハラ・パワハラ等各企業や自治体などで学習会を行って頂きたいです。又、女性でも有能な方はたくさんいらっしゃると思うので、家事など子供の頃からできるよう男子生徒も学校や家庭で教えていくようにしてもらいたいと考えています。(30代女性)
- 男女平等の社会づくりには相当な時間、労力が必要だと思います。国、市町村レベルでの取り組みは非常に重要だと思いますが、まずは1人1人の意識改革が大事だと感じています。その反面、業種によっては男性よりも体力的な面で劣る場合もあるので、一概に平等にする事に難しさもあると思います。今以上に女性の意見を市政に反映できるような取り組みを期待しています。
(30代男性)
- 市役所職員がまず見本とならなければ、社会全体のレベルが上がっていかないと思う。
(60代男性)
- 子どもを預けられる場や子育てしながらでも働ける体制を整えなければ、女性は仕事を続けるのは困難だと思う。そのため女性が出世しにくくなっているのではないかと。そして子どもを預けられる様経済的支援ももっと国や県、市で取り組んでほしい。(20代女性)
- セミナーや見直し程度では男女共同参画社会は無理だと思う。一度辞めても再就職を保障する法律や、行政で男性の育児休暇を率先して取らせる等、もっと踏み込んだ改革が必要。(30代女性)
- 今回、このアンケートで初めて上越市が男女共同参画都市宣言や条例などの取り組みをしている事を知りました。私のように、普通に暮らしているだけではその取り組みをしていること自体知らない方や見逃している方がたくさんいると思います。とても、もったいない事だと思います。積極的にホームページを見たり情報誌を見たりしない限り知ることができないというのではなく、普通に過ごしていても目に触れることができるようにしてもらいたいと思います。ほかに、男性の様に1日8時間正社員で働きたくても、子育てをしていると雇用自体がとても少なかったり、保育園や幼稚園の時間が制限されている、など非常に働きづらい環境にあると感じます。延長保育をお願いすると割高になってしまったりして、そちらにお金がかかり、いったいなんの為に働いているのかわからない、という声も周りに多く聞かれます。そういう問題もどうにかして解決して頂かないと、女性が仕事に社会に進出しにくい状況がいつまでも続いてしまうのではないかと感じています。あと、男性の方が、今現在は収入が多いご家庭が多いように思うのですが、その男性が家庭生活（育児なども）や地域の行事などに参加する事により、収入が減ってしまうという事になると、生活が維持できなくなってしまうという恐れから、なかなか男女対等に仕事と家庭生活の両立ができないと思うので、その問題も解決に向けて力を入れて頂きたいと思います。(30代女性)

ほか39件

2. 男女共同参画に関する意識・考え方など

(主な意見)

- 男女共同参画社会という言葉は昔から耳にしていたのですが、あまり深く考えたことがありませんでした。しかし、今回のアンケートを機に意識が高まりました。昔の考え（男は外で働く、女は家事をする）働いているのだから、家事をするのが当たり前という観念がなくなれば良いと思います。そのためには、女性が職場でのリーダーとなる事が重要だと考えます。色々と勉強になりました。(20代女性)

- Gender Equality という用語自体あまり意味を成していないのでは？男女の区別はあるべきです。女性と男性は生まれてくる姿から、役割分担がある。それを尊重しつつ協力することが重要。現在の男女共同参画の思想的背景は、それを無視しているようで賛同できません。
(50代女性)
- 外で働くことは労働内容に応じた対価が賃金として評価されますが、家事・育児・介護はそれに従事しない人からは内容が理解されず正当な評価（対価としての賃金の支払い）がされていない事が問題であると思います。（40代女性）
- 町内会の役員を決める場で「××さん、うちの母ちゃんを役員に推します」と発言したところ、老人から「母ちゃんが役員になったら、父ちゃんが何をやっているんだと言われ困るだろう」。「男女共同参画の社会である」と言ったら老人「理想ばかり言うな」。先頭を切って元気の良い母ちゃんが町内会役員になる日を願っています。（60代男性）
- 自分自身、言葉は聞くが実際どうしたらいいとか、自分からアクションを起こして取り組みたいかと思うまでの知識はない。そのため世間で推進していてもよく分かっていないというのが本音。これは、自分自身だけではなく、同世代の人たちも似たような意見だと思う。身近な問題としてとらえられるような知識を得られれば、考えも変わると思うのですが…なので要望、提案出来ない。すみません。（30代女性）
- 男女共同参画の言葉も意味も、市民の方々の多くは全く知らない方が多いのではないのでしょうか？年代、性別に関係なく「男女は平等なんだ」という事を市民の皆さんが強く意識し、理解するよう、各地域においても話し合いがもたれてもいいのでは。（50代女性）
- 高齢者になるほど男女共同参画に対する理解が低い、不足する気がしますので、それらの方の意識改革が必要です。（70代男性）
- 法や制度が整ってきていても、古くからある男女間の意識が変わっていかないと、結局は何も変わらないと思う。国や行政による啓蒙活動、情報提供はもちろんの事、地域や企業等、社会全体での取り組みがまだまだ求められると思う。固定概念にとらわれない、多様な価値観、生き方がもっと認められる世の中になるべき。その点においてはやはり、都市部（主に東京などの大都市圏）に比べると、少し遅れをとっているように思う。（30代女性）
- 過度な女性雇用登用等は見直すべき。能力、資質に見合った配置を行うべき。一人親の助成について、男性側への配慮が足りない等、男性が冷遇されている事例もあるが、男女平等を推進するのであれば、そのような部分も見直すべき。（30代男性）
- やはり市民一人一人の意思が一番大切であると思う。市がどんなに良い事を行っていただいても、市民の気持ち市と同じ方向に向かなくては意味がないと思う。市民の意思、意識を変化させる行動が必要であると思う。仕事においても同じことを思う。（30代男性）
- 小さな時からの学校教育が必要だと思います。特に集落での年長者の古い考え方を若い男性が信じやすい。妊娠を機会に経済的主導権がある事を理由に、急に態度を変える男性もいる。まだ女性の地位が低いのではないかと男女共同参画という言葉がある自体、まだこの地域が遅れているのではないかと思います。（50代男性）
- 人口減少時代における改善策とあわせて、本事業を考える必要もあると考えます。
(50代男性)
- 女性も男性も同じ人間です。そういう考え方からすれば誤解が生まれません。男性だから、女性だからと意識すると返って話が難しくなる気がします。（60代男性）

- 男女共同参画を声高に叫ぶ必要はないと思います。本当に男女の格差はあるのでしょうか。男性が家事をしたり、女性が仕事を頑張っている例はいくらでもあります。それぞれが自分の意見をしっかりと持って行動すれば、自ずと平等社会が築かれていくと考えます。
(70歳以上男性)
- 「～のクセに」という意識を減らすよう、小さい頃からの教育（特に教育現場）が大切だと思う。「差別全体」を皆で考えるべきではないでしょうか。
(70歳以上男性)
- 1.ともかく女性だからという考え方を変える事。2.女性は自分が女性だからと引いていない事。3.女性も積極的にいろんな部分に参加する事。4.男性はもっと頭を柔らかく物事を考える事。
(70歳以上男性)
- 自分のパートナーもですが、それよりもっと自分たちの親世代の「女は（男は）こうあるべき」「昔はこういうのが当たり前だった」という考えの押し付けが障害になる事が多々あります。身近なサポーターでいてほしいのに、こんな考えでは困るので、親世代の方々にも、今のこの社会の考えが広まるようになるといいと思います。(30代女性)
- 男性には男性の、女性には女性の得意とする分野がある事も事実で、無理に男性の仕事を女性にとかその逆とかをしないでお互いの生活の為に必要な事をしているのだという事を理解し尊重しあえばいいのではないかと思う。地域の活動はやりたくてやっている人は少ないと思う。時間を取られるのだから経済的に評価するべき。(30代女性)
- 現に高齢（65歳以上）の親に育てられた男性は、その親の世代が男仕事、女家事という家庭の中で、家事や育児を恥ととらえる人が多いと思います。もう少し若い世代が大人になっていく時、社会もまた変化していくと思います。学校活動などでは、若い父親世代は積極的に参加していると思います。ただ、横並び世代なので、人の上に立つ、自ら手を貸す…という事は全くしないとも思いますが。そう感じています。(40代女性)
- 権利は男女とも平等でいいと思います。ただし、男女は身体の作りや特質などが違って同質ではない部分もあるので、なんでも全て平等でなくてもいいのでは？男の人、女の人それぞれの持ち味をもっと生かす事が出来ればと思います。(40代女性)
- 町内で共同参画を推進しようという話があっても、現実には町内行事の支度、片づけは女性の仕事。台所仕事、雑用は女性のみ、祭りに関しても表に出るのは男性。女性陣は雑用を任せられるのが当然という日常です。町内役員の会議でも支度、片づけは女性に丸投げ。飲むのは男性役員。町内会長の考え方がそのまま町内行事にも表れています。現実ではこの様な事は多く、アンケート書きながら割り切れない思いが募ります。(60代女性)
- 共同参画と言っても男女の違いはあって当然。それぞれの特質をうまく生かしていくことが大切だと思う。(60代女性)
- 法整備や女性登用等に力点を置いても、女性の意識改革を推進しなくては実現困難と思う。
(70歳以上女性)
- 女性の社会的地位向上を叫ぶことが、すでに権力を伴っているという事に目を向けるべき。レディースデイなどを設けることで、男性が排除されていることがその例。また、性同一障がいの方たちにも目を向ける必要がある。心は女性にもかかわらず、体は男性と言う人は居酒屋などの”レディースデイ”を見てどう思うのか。つまり、女性の権利を声高に叫ぶことで、そこから排除される少数者はどうなるのか考えるべき。もちろん、すべての人は平等であるべき。
(20代男性)

ほか86件

3. その他（各種制度に関する事など）

（主な意見）

- 男性も女性も自立した個人として社会活動が行えるよう、学校教育の段階で学校、家庭、両サイドからの教育が必要。女性も男性依存しないで、自立した経済活動を実現することが必要。そのために行政は「女性ならではの」「女性目線」の仕事の発掘を積極的に行ってほしい。税収確保のためにも、女性の就労を今まで以上に行政レベルで促進。働く女性に家事サービス、育児サービス、地域で使えるギフトカード等を提供することで、女性の労働意識を高める事が出来ると思う。（30代女性）
- そもそも、女性全員が社会進出し、男性と同じ環境の中で仕事をしていきたいと考えているのだろうか？。家事であっても仕事として評価する事が必要かもしれないが、その道を選択する事も権利としてあっていいと思う。全てを男女共同参画としてくくり、枠の中にはめることがいい事だとは思わない。ただし、女性が社会で活躍する、できる環境は必要だと思うし、そうあるべきだと考える。（30代男性）
- 法律や制度を作っても、職場や社会で理解がなければ意味がない。例えば、育休など、法律上企業で育休制度を取り入れないといけないから取り入れても、「使えるか」は別の問題。
（30代男性）
- 役員等に積極的な女性の登用が望ましいが、それには子育て、介護等安心してゆだねられる施設、社会環境の充実を図る事と、女性の責務に対する実力を発揮される事が望ましい。そして期待しています。（70歳以上男性）
- 1人1人が心の壁を取り払う必要が第一である（男女とも）。力は決して相手の心までを屈するものではない事を知る必要がある。両性があるのはじめて社会が存在するのだから、男女平等は普遍の原理である。常にともに歩む仲間である。現実的には介護老人も増加する一方の中、老々介護世帯をどう助力させていくか、システム作り。若者が安心して家庭を持ち、子供を育てられる社会を作るかがとにかく肝要である。男女共同参画社会の実現もそのためにあると思う。（70歳以上男性）
- 私の周りには、結婚、出産を機に仕事を辞めたいと思っている人は多いです。その人たちは、育児が一段落したらパートに出て稼ぎたいと思っているので、再雇用も大切ですがパートの条件を良くしてあげた方が、女性には嬉しいと思います。自分も多少の稼ぎがあることで、旦那さんに悪いと思う気持ちもなくなるのではないのでしょうか。家事なども分担してくれると思います。（20代女性）
- 女性は出産の機会に、どうしても仕事から離れなくてはならない時期があるので、結果として責任あるポジションに就きづらい事はあると思う。フレックスタイムや在宅でも出勤扱いになるような制度がもっと普及すると良いと思います。現代の20~40代の男性は、家事にも協力的な人が多くなってきているが、上の世代がそれをあまりよく思わない事があるようなので女性が社会に出ている時代ではごく自然な事だと理解してもらえる事も重要だと思います。
（30代女性）
- 日本全体で男女差別をなくすようにする。女性も社会進出しやすい雰囲気や国のトップから作っていくべき。それには、保育制度の充実が欠かせないと思う。また、共働きだと女性は家に帰っても家事や子供の世話など、男性よりもすることが多くなってしまふ。子供の頃から、両親の姿を見てそのことが学べていれば、大人になっても女性の大変さがわかるが、同居家族がいてわからない家庭もあると思うので、学校で職業などについて学ぶ機会があれば、その時に夫婦で仕事を分け合って助けあう事が大切な事も学べればよいと思う。男女でいろいろな仕事

を分けるのではなく、それぞれ得意分野を伸ばしながら助け合えば、職場でも家庭でも効率よく、雰囲気良くやっていける事もあると思う。(30代女性)

- 男性の長時間労働の残業部分で女性を雇用し、男を早く家に帰し、家事参加、女性も収入を得て、男性に依存しない、対応な関係を築くこと。そのための行政や法整備があれば良いと思う。三世帯同居が女性の地位向上を妨げている感もある。(若い世帯は男性の家事、育児参加は進んでいるように見える)。(40代女性)
- 「男女共同参画の実現」は実に耳ざわりのよい言葉ですが、男性の積極的家事参加、保育・介護施設の充実等いくら推進し女性が社会に出やすくなったとしても、真に温かみのある家庭、社会を作るのは難しいように思います。やはり、心にゆとり(時間)がないと全ての活動が義務の遂行の様になってしまい、結局は育児の失敗(後悔)(引きこもり、不登校)、老親の介護放棄へとつながってしまうような気がします。家庭に一人くらいは心のゆとりがある人が欲しい…。行政と言うより社会に望むことはお金を得る仕事だけが立派という風潮をなくし、専業主婦の地位ももう少し認めてもらえたらと願います。(40代女性)

ほか71件

付録

1 男女の地位の平等感

(1) 男女共同参画に関する市民意識調査（無回答を除く）

	平成26年度					平成22年度					平成19年度					平成16年度					平成12年度					平成09年度										
	非常 に優 遇さ れて いる	男性 の方が 優遇 されて いる	ど ちら か と い え ば	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	非常 に優 遇さ れて いる	男性 の方が 優遇 されて いる	ど ちら か と い え ば	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	非常 に優 遇さ れて いる	男性 の方が 優遇 されて いる	ど ちら か と い え ば	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	非常 に優 遇さ れて いる	男性 の方が 優遇 されて いる	ど ちら か と い え ば	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	非常 に優 遇さ れて いる	男性 の方が 優遇 されて いる	ど ちら か と い え ば	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い						
(1)家庭生活	12.5	48.4	26.9	5.9	1.2	5.1	13.5	49.6	26.3	5.8	1.3	3.5	12.9	53.0	24.7	4.0	1.0	4.3	16.8	51.2	20.4	4.6	1.1	5.9	15.9	52.3	22.7	4.5	0.9	3.8	15.8	58.7	18.7	3.8	0.9	2.0
(2)職場	12.7	42.5	24.3	5.7	1.4	13.4	14.3	43.4	25.7	4.1	1.1	11.4	12.7	42.0	27.5	5.2	1.1	11.6	15.8	49.2	22.0	5.6	0.9	6.4	18.5	51.2	16.6	4.7	1.0	8.0	20.8	47.9	16.7	7.3	1.0	6.3
(3)学校教育の場	1.3	11.8	61.1	2.6	0.5	22.6	2.4	13.8	58.9	3.0	0.4	21.5	1.5	12.5	57.1	3.5	0.1	25.3	3.8	13.4	55.5	3.6	0.2	23.4	3.8	16.7	58.8	3.8	0.6	16.3	4.1	20.0	58.3	3.2	0.6	13.7
(4)政治の場	22.5	49.7	14.7	1.2	0.3	11.6	21.2	44.1	22.2	1.8	0.0	10.7	21.3	44.9	19.5	1.4	0.3	12.7	28.2	43.9	15.8	1.9	0.2	10.0	32.6	40.7	14.7	1.6	0.1	10.2	30.6	42.6	17.5	1.0	0.0	8.4
(5)法律や制度上で	9.0	33.4	34.8	5.7	1.3	15.8	8.7	31.1	41.1	6.5	0.9	11.7	9.7	29.9	37.2	5.9	1.1	16.3	14.1	31.3	37.1	5.5	1.1	10.9	12.2	34.6	35.8	5.1	0.8	11.5	11.3	37.0	35.6	5.8	0.5	9.8
(6)社会通念・習慣・しきたり等で	18.3	56.5	13.2	2.8	0.9	8.4	20.1	56.3	14.4	2.3	0.7	6.3	20.2	57.2	12.7	2.3	0.3	7.4	26.7	54.0	9.2	3.0	0.0	7.1	26.5	56.0	8.1	2.3	0.3	6.7	30.5	56.9	6.8	1.7	0.4	3.6
(7)町内会等の地域活動の場	10.6	44.8	29.5	4.5	1.4	9.1	14.5	40.4	30.4	5.5	1.0	8.3	12.9	43.6	27.9	4.1	0.5	10.9	14.8	44.7	24.2	3.9	0.6	11.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均	12.4	41.0	29.2	4.1	1.0	12.3	13.5	39.8	31.3	4.1	0.8	10.5	13.0	40.4	29.5	3.8	0.6	12.6	17.2	41.1	26.3	4.0	0.6	10.8	18.2	41.9	26.1	3.7	0.6	9.4	18.8	43.9	25.6	3.8	0.6	7.3
(8)社会全体で	9.2	60.4	15.9	4.2	0.5	9.8	10.0	59.1	17.4	4.5	0.7	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

出典：男女共同参画に関する市民意識調査（上越市共生まちづくり課）



(2) 男女共同参画社会に関する世論調査

	平成24年度					平成21年度					平成16年度					平成14年度					平成12年度					平成07年度										
	非常 に優 遇さ れて いる	男性 の方が 優遇 されて いる	ど ちら か と い え ば	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	非常 に優 遇さ れて いる	男性 の方が 優遇 されて いる	ど ちら か と い え ば	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	非常 に優 遇さ れて いる	男性 の方が 優遇 されて いる	ど ちら か と い え ば	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	非常 に優 遇さ れて いる	男性 の方が 優遇 されて いる	ど ちら か と い え ば	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	非常 に優 遇さ れて いる	男性 の方が 優遇 されて いる	ど ちら か と い え ば	平 等 に な っ て い る	女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い						
(1)家庭生活	8.5	34.7	47.0	6.1	1.3	2.3	7.8	38.7	43.1	6.7	1.7	1.9	10.8	38.5	39.9	6.7	1.4	2.6	11.5	38.7	40.4	5.1	1.0	3.3	10.5	40.2	39.7	5.4	1.0	3.1	11.0	42.6	39.0	4.0	0.9	2.5
(2)職場	15.6	42.1	28.5	4.2	0.5	9.2	15.6	46.5	24.4	4.4	0.9	8.1	16.7	42.7	25.0	3.7	0.5	11.3	18.0	41.0	25.9	2.8	0.3	12.0	16.4	44.3	24.5	3.0	0.3	11.4	17.3	42.0	25.2	3.1	0.5	11.9
(3)学校教育の場	2.4	11.0	67.0	3.0	0.7	15.8	1.9	12.0	68.1	3.9	0.9	13.1	2.6	11.4	66.8	3.1	0.4	16.0	2.8	11.8	63.1	3.1	0.5	18.8	2.5	12.3	63.9	3.4	0.4	17.5	1.7	11.3	65.2	3.0	0.5	18.3
(4)自治会やNPOなどの地域活動の場	6.9	26.5	52.1	6.1	0.9	7.6	6.5	28.2	51.0	6.4	0.6	7.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(5)政治の場	30.0	44.0	18.6	0.9	0.3	6.3	23.7	48.1	21.0	1.9	0.3	5.1	30.9	41.0	19.7	1.1	0.2	7.1	30.2	42.2	18.8	1.8	0.3	6.6	29.2	42.8	19.0	0.9	0.2	7.9	22.7	44.4	22.4	1.5	0.0	9.0
(6)法律や制度の上で	8.7	29.5	45.4	6.2	1.1	9.0	7.8	33.5	44.4	6.5	0.9	6.9	11.7	34.4	39.3	4.3	0.8	9.5	13.0	35.4	36.0	4.1	0.6	10.9	11.8	36.3	38.6	2.6	0.3	10.4	9.2	35.2	40.4	2.7	0.3	12.1
(7)社会通念・習慣・しきたりなどで	18.6	51.7	21.4	2.9	0.6	4.7	18.7	53.2	20.6	3.4	0.5	3.6	24.1	50.6	17.2	2.9	0.3	4.8	22.7	50.5	18.4	2.4	0.6	5.4	23.8	52.8	15.8	2.5	0.4	4.7	21.5	55.5	15.6	2.0	0.3	5.0
平均	12.9	34.2	40.0	4.2	0.7	7.8	11.7	37.2	38.9	4.7	0.8	6.6	16.1	36.4	34.7	3.6	0.6	8.6	16.4	36.6	33.8	3.2	0.6	9.5	15.7	38.1	33.6	3.0	0.4	9.2	13.9	38.5	34.6	2.7	0.4	9.8
社会全体で	10.8	59.1	24.6	3.4	0.4	1.8	9.7	61.9	23.2	3.4	0.3	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

出典：男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府大臣官房政府広報室）

2 アンケート調査表

男女共同参画に関する市民意識調査票

ご自身のことについておうかがいします。あてはまるところの[]内に1つ○をつけてください。

(1) あなたは、どちらにお住まいですか。

- []安塚区 []浦川原区 []大島区 []牧区 []柿崎区
[]大潟区 []頸城区 []吉川区 []中郷区 []板倉区
[]清里区 []三和区 []名立区 []合併前上越市

(2) あなたの性別をお知らせください。

- []男性 []女性

(3) あなたの年齢は何歳代ですか。

- []20～24歳 []25～29歳 []30～34歳 []35～39歳 []40～44歳
[]45～49歳 []50～54歳 []55～59歳 []60～64歳 []65～69歳
[]70歳以上

(4) あなたは結婚していらっしゃいますか。

- []結婚している []結婚していないがパートナーと暮らしている
[]離別 []死別 []未婚

(5) あなたに、お子さんはいらっしゃいますか。

- []いる []いない

(6) 現在同居しているご家族の構成について

- []同居家族はいない []夫婦のみ []親と子 []親と子と孫 []その他

アンケート調査にご協力
よろしくお願ひします。



以下調査項目になります。

問1 あなたの平日の生活時間についてお聞きします。それぞれ平均した時間をお書き下さい。
 (日曜・休日などは含めずにお考えください。合計が24時間に満たなくても結構です。)

- 1 家事・育児・介護などの時間 平均 () 時間 () 分
- 2 収入を得る仕事の時間 平均 () 時間 () 分
 (通勤時間含む)
- 3 睡眠時間 平均 () 時間 () 分
- 4 自由に使える時間 平均 () 時間 () 分

問2 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。1～8のそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
1 家庭生活	1	2	3	4	5	6
2 職場	1	2	3	4	5	6
3 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
4 政治の場	1	2	3	4	5	6
5 法律や制度上で	1	2	3	4	5	6
6 社会通念・習慣・しきたり等で	1	2	3	4	5	6
7 町内会等の地域活動の場	1	2	3	4	5	6
8 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問3 結婚、家庭等について、あなたのご意見をお聞きします。1～4までのそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
1 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
2 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
3 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
4 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5

問4 家庭での夫婦の役割分担について、1～6のうちあなたが望ましい姿だと考えるものを一つ選び「理想」欄に○をつけてください。また、あなたが実際に経験した状況に最も近いものを一つ選び「現実」欄に○をつけてください。（現実欄は結婚（事実婚を含む）している方のみお答えください。）

	理想	現実
1 夫は主に仕事をし、妻が主に家事等をする		
2 妻は主に仕事をし、夫が主に家事等をする		
3 夫も妻も仕事をし、妻が主に家事等をする		
4 夫も妻も仕事をし、夫が主に家事等をする		
5 夫も妻も仕事をし、共に家事等をする		
6 その他（具体的に： _____）		

問5 結婚（事実婚を含む）している方にお聞きします。あなたのご家庭では次のような家事を男性は分担していますか。1～6までのそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。

	分担している	分担していない		分担している	分担していない	該当なし
1 掃除	1	2	4 食後の後片付け、食器洗い	1	2	
2 洗濯	1	2	5 子育て	1	2	3
3 食事のしたく	1	2	6 介護	1	2	3

問6 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてでしょうか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 売春・買春
- 2 女性の働く風俗営業
- 3 家庭内での夫から妻への暴力（心や身体を傷つける暴言や暴力）
- 4 職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
- 5 テレビや新聞・雑誌などで、商品とは直接関係がない女性のヌードや水着姿、媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など
- 6 女性の容ぼうを競うミス・コンテスト
- 7 固有名詞で呼ばれず、女性にだけ用いられる言葉
（例…「〇〇さんの奥さん」、「〇〇女史」「女医」など）
- 8 女性に対する痴漢行為やストーカー（つきまとい行為）
- 9 その他（具体的に： _____）
- 10 特になし

問7 あなたは、次のようなことが夫婦間（事実婚を含む）で行われた場合、それを暴力だと思いますか。あなたの考えに一番近いものを1～7のそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。

	暴力だと思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない
1 平手で打ったり、身体を傷つける可能性のあるもので殴る	1	2	3
2 あなたの交友関係や電話を細かく監視する	1	2	3
3 あなたが大切にしているものを、わざと壊したりすてたりする	1	2	3
4 大声でどなる、馬鹿だグズだ等言葉による中傷や批判など	1	2	3
5 誰のおかげで、お前は食べられると思っているのだと言う	1	2	3
6 相手の言うことや存在を無視する	1	2	3
7 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	1	2	3

問8 あなたは、夫婦間（元配偶者や事実婚を含む）で次のような暴力を受けたことがありますか。1～3のそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。

	何度もあった	1、2度あった	まったくない
1 身体に対する暴行を受けた	1	2	3
2 精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
3 性的な行為を強要された	1	2	3

問9 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度について、1～8のうちあなたが望ましい姿だと考えるものを一つ選び「理想」欄に○をつけてください。また、あなたが実際に経験した状況に最も近いものを一つ選び「現実」欄に○をつけてください。

	理想	現実
1 「仕事」を優先		
2 「家庭生活」を優先		
3 「地域・個人の生活」を優先		
4 「仕事」と「家庭生活」を共に優先		
5 「仕事」と「地域・個人の生活」を共に優先		
6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先		
7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先		
8 わからない		

問10 あなたの生活では、「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「学習・趣味・スポーツなど」、「休養」の時間は十分に取れていますか。1～5のそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。

	十分取れている	まあ取れている	あまり取れていない	全く取れていない
1 仕事のための時間	1	2	3	4
2 家庭生活のための時間	1	2	3	4
3 地域活動に参加する時間	1	2	3	4
4 学習・趣味・スポーツなどのための時間	1	2	3	4
5 休養のための時間	1	2	3	4

問11 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス※）の実現のためにどのようなことが必要だと思いますか。主なもの3つを選んで○をつけてください。

- 1 仕事の効率や業務を見直したり、ノー残業デーなどの取組を行う
- 2 子育て・介護などのための休暇等を取りやすい職場環境を作る
- 3 保育施設やサービス（一時保育、病児保育など）などの充実を図る
- 4 短時間勤務、在宅勤務、フレックスタイム（時差出勤）などの普及
- 5 育児・介護休業中などの給付金制度の充実
- 6 結婚、出産、子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及
- 7 企業自身がリーダーシップを取りながら行う
- 8 その他（具体的に： _____)
- 9 わからない

※ ワーク・ライフ・バランスとは
地域や職場、家庭などにおいて様々な活動を自分の希望する状態で実現できるような在り方です。

問12 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
- 6 労働時間短縮や休暇制度を普及・活用することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 8 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- 9 男性が子育て、介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
- 10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 その他（具体的に： _____)
- 12 特にない

問13 あなたが、次あげるような職業や役職において今後女性がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 都道府県、市区町村の首長
- 2 国会議員、都道府県議会議員、市区町村議会議員
- 3 国家公務員、地方公務員の管理職
- 4 裁判官、検察官、弁護士
- 5 大学教授
- 6 国連などの国際機関の管理職
- 7 企業の管理職
- 8 起業家・経営者
- 9 労働組合の幹部
- 10 農協の役員
- 11 新聞・放送の記者
- 12 自治会長、町内会長等
- 13 その他(具体的に: _____)
- 14 特にない
- 15 わからない

問14 PTAや町内会などの地域団体の役員の長に女性が就くことの妨げとなっている主な原因は何だと思いますか。主なもの3つを選んで○をつけてください。

- 1 女性自身が責任ある地位につきたがらないから
- 2 女性は家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから
- 3 女性は組織活動の経験が少ないから
- 4 指導力のある女性が少ないから
- 5 女性では相手に軽く見られるから
- 6 男性が会長・副会長などでは、みんながついてくるが、女性だつてこないから
- 7 男性が会長・副会長などとなるのが社会慣行だから
- 8 その他(具体的に: _____)
- 9 わからない

問15 女性が職業を持つことについて、1～7のうちあなたが望ましい姿だと考えるものを一つ選び「理想」欄に○をつけてください。また、あなたの経験や今後の予定、身近な女性で最も近いものを一つ選び「現実」欄に○をつけてください。

	理想	現実
1 女性は職業を持たない		
2 結婚するまでは、職業を持つ		
3 子どもができるまでは、職業を持つ		
4 子どもができて、ずっと職業を持つ		
5 子どもができたなら職業をやめ、育児が終わったら再び職業を持つ		
6 その他(具体的に: _____)		
7 わからない		

問16 男性が育児休暇を取得しづらい(しない)理由として考えられるもの全てに○をつけてください。

- 1 男性ひとりでの育児に不安がある
- 2 仕事が中断できない
- 3 職場に理解がない
- 4 職場に制度がない
- 5 仕事を休みたくなかった
- 6 経済面が不安
- 7 男性も育児休暇を取得できることを知らなかった
- 8 近所の目が気になる
- 9 男性が育児休暇を取得する意識がない
- 10 その他(具体的に: _____)
- 11 特になし
- 12 わからない

問17 あなたは現在どのような職業にお就きですか。一つだけ選んで○をつけてください。

1 勤め人 (管理職の正規社員・職員)	2 勤め人 (管理職以外の正規社員・職員)	3 勤め人 (臨時・パート・派遣・契約社員等)
4 自営業・家族従事者(農業)	5 自営業・家族従事者(商業)	6 自営業・家族従事者(工業)
7 経営者などの有職者	8 内職	9 家事従事者
10 学生	11 無職	
12 その他(具体的に: _____)		

問18 (問17で「1 勤め人(管理職の正規社員・職員)」、「2 勤め人(管理職以外の正規社員・職員)」とお答えされた方のみお答えください。)

あなたの職場では次のようなことがありますか。1~10までのそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。

	ある	ない
1 募集や採用人数で、女性は男性より不利である	1	2
2 女性が配属されない職種がある	1	2
3 女性は昇進、昇格が遅い、または望めない	1	2
4 女性は同期、同年齢で入社した男性との賃金・昇格の差がある	1	2
5 女性は同じポストの男性より、研修等の教育を受ける機会が少ない	1	2
6 定年の年齢に男女差がある	1	2
7 女性は結婚すると退職しなくてはならない、または、職場結婚をすると退職しなくてはならない	1	2
8 女性は出産すると退職しなくてはならない	1	2
9 家族手当が女性につかない	1	2
10 職種にかかわらず、お茶くみなどの雑用は、女性がすることが多い	1	2

問19 (全員の方がお答えください。)あなたは、今までに仕事を辞めたり中断したり、あるいは転職したことがありますか。また、その理由は何ですか。主なもの一つを選んで○をつけてください。

- 1 ない
- 2 ある (次の中から主な理由の一つを選んで○をつけてください。)

(仕事を辞めた、中断した理由)

- 1 結婚のため
- 2 出産・育児のため
- 3 自分の健康や体力の問題
- 4 高齢になったため
- 5 仕事の内容があわなかったため
- 6 親や病気の家族の世話のため
- 7 労働条件に対する不満があったため
- 8 よりよい条件の仕事があったため
- 9 長期勤務しにくい職場の雰囲気があったため
- 10 家業につくため
- 11 会社側の都合
- 12 配偶者の転勤のため
- 13 家族の理解、協力が得にくいため
- 14 大学その他で勉強するため
- 15 特に理由はない
- 16 その他 (具体的に： _____)

問20 「育児・介護などの家庭で担われている役割は社会的にも重要であるため、社会全体で評価していこう」という考えがありますが、あなたは具体的にどのような形で評価することが必要だと思いますか。1～4までのそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。

	手当の支給や税制上での優遇などで経済的に評価する	表彰などで社会的に評価する	経済的・社会的に評価する必要はない	その他 (※欄外に具体的な考えを記述してください)	わからない
1 育児	1	2	3	4	5
2 介護	1	2	3	4	5
3 育児・介護以外の家事	1	2	3	4	5
4 町内会などの地域活動	1	2	3	4	5

※その他について具体的な考えの記述をお願いします。

(_____)

**問21 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思う事は何ですか。
主なものを3つを選んで○をつけてください。**

- 1 避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、防犯対策など）
- 2 避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入る事
- 3 女性に対する備え（生理用品や、下着などの女性用品の準備）やニーズの把握、支給に対する配慮（女性担当者による配布）
- 4 災害時の救援医療体制（妊産婦をサポートする保健師、助産師の配置など）
- 5 相談体制の充実（メンタルケア、健康相談、女性相談等）
- 6 対策・復興本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること
- 7 防災・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること
- 8 女性に特化した被災者支援のための雇用の創出
- 9 その他（具体的に： _____)
- 10 わからない

問22 あなたは、テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどでのメディアにおける性・暴力表現について、問題があると思いますか。

- 1 そう思う → 問23へ
- 2 どちらかといえばそう思う → 問23へ
- 3 どちらかといえばそう思わない → 問24へ
- 4 そう思わない → 問24へ
- 5 わからない → 問24へ

問23 （問22で1又は2とお答えされた方のみお答えください。）テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどでのメディアにおける性・暴力表現について、どのような点で問題があると思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている
- 2 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
- 3 女性に対する暴力を助長する
- 4 そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている
- 5 児童に対する性犯罪を助長する
- 6 その他（具体的に： _____)
- 7 わからない

問24 (全員の方がお答えください。) テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどのメディアにおける性・暴力表現について制限をする場合、どのような方法で制限するのがよいと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 メディアや制作会社が加盟している業界団体による自主規制
- 2 フィルタリング(※1)の設定などによる受信側の制限
- 3 メーカーによるフィルタリング技術の開発
- 4 インターネット接続業者によるブロックング(※2)の実施
- 5 有害情報通報相談窓口の活用促進
- 6 行政機関による指導・管理体制の強化
- 7 法改正や新しい法律の制定による規制
- 8 特に制限の必要はない
- 9 その他(具体的に: _____)
- 10 わからない

※1「フィルタリング」とは、携帯電話やパソコンなどでインターネットを利用する際に、有害なサイト(インターネット上で情報が掲載されている場所)へのアクセス(接続)を制限する機能です。

※2「ブロックング」とは、インターネットにアクセスするためのサービスを提供している接続業者において、有害なサイトへのアクセスを遮断する手法です。

問25 女性が抱えている悩みを相談するところについて、ご存知の機関全てに○をつけてください。

(暴力・ストーカーなど)

- 1 女性被害110番(県警察本部)
- 2 配偶者暴力相談支援センター(県女性福祉相談所)
- 3 DV・児童虐待相談フリーダイヤル(県中央福祉相談センター)
- 4 男女平等推進相談室(新潟県)
- 5 女性の人権ホットライン(法務局)

(労働関係)

- 6 マザーズコーナー(ハローワーク上越)
- 7 新潟労働局企画室総合労働相談コーナー

(女性相談全般)

- 8 市民相談室(市)
- 9 女性相談(市男女共同参画推進センター)
- 10 その他の機関(具体的に: _____)

問26 あなたは、次に掲げるものの名称やことばについてご存知ですか。1～20のそれぞれについて、一つだけ○をつけてください。

	言葉も内容も知っている	言葉と一部の内容を知っている	言葉は知っている	知らない
1 男女共同参画社会	1	2	3	4
2 DV…ドメスティック・バイオレンス (配偶者やパートナー等からの暴力)	1	2	3	4
3 ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	1	2	3	4
4 アンペイドワーク (無償労働)	1	2	3	4
5 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する女性の健康・権利)	1	2	3	4
6 ジェンダー (社会的性別)	1	2	3	4
7 ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3	4
8 上越市男女共同参画都市宣言 (市)	1	2	3	4
9 上越市男女共同参画基本条例 (市)	1	2	3	4
10 上越市男女共同参画基本計画 (市)	1	2	3	4
11 上越市男女共同参画推進センター (市)	1	2	3	4
12 上越市女性相談事業 (市)	1	2	3	4
13 上越市男女共同参画サポーター (市)	1	2	3	4
14 上越市男女共同参画推進センター情報紙 『ウィズじょうえつ』 (市)	1	2	3	4
15 市の各種審議会等へのクォータ制導入 (市)	1	2	3	4
16 ハッピー・パートナー企業 (県)	1	2	3	4
17 男女共同参画社会基本法 (国)	1	2	3	4
18 男女雇用機会均等法 (国)	1	2	3	4
19 DV防止法…配偶者からの暴力の防止及び 被害者の保護に関する法律 (国)	1	2	3	4
20 女性差別撤廃条約 (国連)	1	2	3	4

問27 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 法律や制度の面で見直しを行う
- 2 国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 3 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
- 4 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
- 5 従来、女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する
- 6 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
- 7 男女の平等と相互の理解や協力についての学習機会を充実する（参加者が100人規模の講演会等）
- 8 男女の平等と相互の理解や協力についての学習機会を充実する（参加者が少人数のセミナー等）
- 9 学校教育において男女共同参画社会についての学習を充実する
- 10 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
- 11 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
- 12 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- 13 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする
- 14 その他（具体的に： _____)
- 15 特にない
- 16 わからない

問28 今後、男女共同参画を推進していくためには、どのように取り組んでいけばよいかご意見・ご要望・ご提案などございましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。お手数ですが、記入もれがないかもう一度ご確認ください。
記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**5月26日（月）まで**にご投函くださいますようお願いいたします。





平成 26 年度

上越市男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

平成 26 年 6 月発行

発行 新潟県上越市

自治・市民環境部 共生まちづくり課

男女共同参画推進センター

〒943-0821 上越市土橋 1914-3 上越市市民プラザ内

TEL (025)526-3624

FAX (025)522-8240

E-mail d-sankaku@city.joetsu.lg.jp

URL <http://www.city.joetsu.niigata.jp/>